

株式会社ノーリツ

Communication on Progress

2015 年度

※対象期間 2014 年 1 月～2014 年 12 月まで

連絡先

会社名 : 株式会社ノーリツ
部署名 : 管理本部 CSR・環境推進室
役職 : リーダー
担当者氏名 : 森川 聡
Email : s-morikawa@noritz.co.jp 電話 : 078-941-3205 Fax : 078-941-4542

CSRの取り組み

地球環境を含むすべてのステークホルダーの
皆さまの新しい幸せをわかしていくこと



CSRトピックス

中期経営計画にCSRの視点を反映

品質向上への取り組み

社会貢献「みちのく未来基金」を支援

ノーリツグループCSRマテリアリティを特定 **NEW**

ノーリツグループ行動基準改定

ノーリツグループCSR調達ガイドラインの制定

平成26年度 省エネ大賞 受賞

ノーリツの 見えない資産

ノーリツグループの価値創造をご理解いただく上で、私たちの「見えない資産（財務諸表に載らない資産）」をお伝えすることも大切と考えています。ここでは、私たちが大切にしている「見えない資産」を“Q+ESG”というキーワードでご紹介します。



品質	環境	社会	ガバナンス
品質方針	環境経営	従業員とともに	コーポレート・ガバナンス
豊かな暮らしを支える製品とサービスを提供する	製品を通じた環境負荷低減	お客さまとともに	コンプライアンス
品質への取り組み	事業活動を通じた環境負荷低減	取引先さまとともに	リスクマネジメント
	生物多様性保全	株主さまとともに	
	環境保全活動データ	社会とともに	
	環境コミュニケーション		



- ▶ 国際的イニシアティブとの整合
- ▶ 報告書一覧
- ▶ 編集方針〔アンケートはこちら〕

第三者検証

第三者意見

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

お問い合わせ窓口一覧

製品を安全に、正しくお使い
いただくために
長期使用製品に関する制度
などについて
グループ会社の製品に関する
ご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、
ご注意

サイト内検索

検索

CSRの取り組み

▶ CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRTピックス

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

トップメッセージ



「お湯のある生活を通して人々を幸せにすること」が ノーリツグループの社会的役割です

代表取締役社長の国井です。私は、給湯器を主力事業とするノーリツグループにとって、お湯のある生活を通して人々を幸せにすることが変わることない社会的役割と考え、持続性のある成長を通じた長期的な企業価値向上にコミットしています。

当社グループは、ガス・石油給湯機器の国内シェア約40%のリーディングカンパニーで、1951年に家庭用風呂の普及のために神戸で設立しました。創業時から研究開発を重視して、エネルギー効率が高く、経済性と環境負荷の両面から優れた商品を生み出し続けることで、「お湯のある豊かな暮らし」に貢献し、日本のお風呂文化を創造してまいりました。さらに、1993年には中国上海で現地企業と合弁会社を設立し、翌年にはガス給湯器の現地生産、2002年には米国でタンクレスガス給湯器の販売を開始しました。国内で培った技術力を活かし活動の場を世界に広げ、2011年からグループビジョンである「新しい幸せを、わかすこと。」を実践しています。

中期経営計画「Vプラン16」の進捗

社長就任の2年後にあたる2011年に、長期の企業価値向上のため、6か年の新中期経営計画「Vプラン16」を策定しました。グループビジョン「新しい幸せを、わかすこと。」、基本方針「経営基盤の安定と持続的成長を実現する」、「従業員が自信と誇りをもてるノーリツグループにする」を目標とし、2016年度の売上高2,500億円、営業利益150億円を目標としました。前半の3か年に、国内では、現状の延長線上での連続的な変革を実施し、海外では2013年に中国の給湯器メーカー櫻花衛厨(中国)股份有限公司に出資するなど、非連続的な変革をおこないました。

数値面では、2013年度まではほぼ計画通りに進み、売上高2,003億円、営業利益96億円に拡大することができましたが、2014年度は、売上高2,189億円、営業利益74億円という結果となりました。

減益要因としては、消費税増税前の駆け込み需要の反動による住宅着工の減少などの国内市場の低迷ですが、太陽光発電システムへの参入により、主力の給湯機器における営業力、研究開発力が分散してしまったことも一因です。

また、2014年5月、当社グループが製造・販売した浴室暖房乾燥機の一部機種において不具合が発生しました。お客さまおよび関係者の皆さまに多大なご迷惑をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げます。今後、安全・安心への取り組みを一層強化し、再発防止に努めてまいります。

そのような状況を直視し、国内における市況の変化、海外での更なる成長機会を踏まえ、「Vプラン16」を見直しました。

今後の大きな方向性としては、国内は強い分野で収益性を回復し、海外で高い成長を実現することを目指します。売上高の目標は変わらず、成長のバランスをより海外を中心にしていきます。

国内では原価低減を急ぐとともに、コスト・性能の両面で競争力のある製品を投入していきます。昨年12月には、新エネルギー分野の「家庭用太陽光発電システム」から撤退し、強い分野に経営資源を集中することを決めました。

海外については、櫻花衛厨(中国)股份有限公司とのシナジーを高めるとともに、非連続の変革を加速します。また、「Vプラン16」の立案時点では、海外比率を15-20%程度に想定していましたが、現在では30%以上も視野に入れるところまでできております。昨年12月には豪州の温水機器メーカーDux Manufacturing Limited(Dux)を買収しました。

各数値に関する変更は、右記の表をご覧ください。

Vプラン16の数値見直しについて

市場環境を踏まえて16年計画を修正

	2011年当初	修正後	当初比
売上高	2,500億円	2,500億円	修正無し
営業利益 (営業利益率)	150億円 (6.0%)	100億円 (4.0%)	▲50億円 (▲2.0%)
ROE	8.0%	5.7%	▲2.3%

- 修正理由
- ① 家庭用太陽光発電システムからの撤退
 - ② 国内の主要素材の成長率鈍化
(エコジョーズ、燃料電池など)
 - ③ 海外事業の順調な成長
(豪州温水機器メーカーDuxの買収など)

CSRと経営の融合を目指して

ノーリツグループのCSRの方針は「事業戦略に沿った経済的価値の追求」、「社会の課題解決に貢献する社会的価値の向上」、「ノーリツらしさの追求」を柱に、地球環境を含むすべてのステークホルダーの皆さまの新しい幸せをわかしていこうとするものです。事業そのものが社会貢献であり、お湯のある生活を通して人々を幸せにすることは、変わることがない当社グループが果たすべき社会的役割と考えています。

2012年12月には、国連が提唱する「グローバル・コンパクト」の10原則に賛同し、署名いたしました。グローバル・コンパクトの4分野10原則に則り、社会と企業がともに持続的な成長を実現するため、企業理念や世界的な枠組みに基づいた活動を進めてまいります。

当社のガス・石油給湯機器は国内で約2,000万世帯のお客さまにお使いいただいています。お客さまが毎日使う「お湯」をつくる機器を主力商材とする当社グループは、製品のライフサイクルを通じて年間約1,260万tonのCO₂を排出しています。これは、日本のCO₂総排出量の約1%にあたります。当社製品のエネルギー効率が改善すれば、日本のCO₂排出を軽減できるので、重要な役割であると認識しています。高効率ガス給湯器「エコジョーズ」をはじめ、ガスのエネルギーと空気中の熱エネルギーを組み合わせお湯をつくる「ハイブリッド給湯・暖房システム」、ガス発電・給湯暖房システム「エコウィル」といった商品を提供しています。

当社は、2009年にガス・石油機器業界で初めて「エコ・ファースト企業」の認定を受け、様々な環境への取り組みについて社会との約束をおこないました。その約束として、家庭使用時のCO₂排出量を20万ton/年削減することを目指します。

さらに、「3つの笑顔プロジェクト」として住宅設備機器メーカー視点での浴育・食育／森を守る活動／福祉施設とタイアップした障がい者自立支援活動をおこなっています。また、阪神・淡路大震災からの復興イベントである神戸ルミナリエへの協賛と従業員のボランティア参加など、社会、地域とともに栄えるという視点での活動をしています。

私たち自身が20年前に阪神・淡路大震災で被災し、たくさんの応援をいただいたことから、2011年の東日本大震災時には、従業員からの発案でシャワーブースを提供し、被災地でお湯を使っていただきました。現在も「みちのく未来基金」への支援活動を通して震災で親を亡くした子どもたちの夢の実現を応援しています。私たちの理念を深め、繋いでいくためにもこうした活動は、今後も継続していきたいと思います。

その他ではCSR視点での調達の推進や人権対応など、様々な課題に取り組んでいます。

財務諸表に載らない「見えない資産」を磨きます

当社は、国内シェア約40%の給湯機器など、競争力の高い商品を有しています。従業員の社会的責任の認識が高く、20年前の阪神・淡路大震災の時にわずか2日で被害のあった生産ラインを復旧させ、生産再開を実現しました。この様に危機的な状況になるほど強い力を発揮します。

当社グループは、2007-2008年度に当期純利益が赤字に陥り、従業員が自信を失っていました。従業員は企業価値向上の最も大切な原動力なので、2009年の社長就任以来、組織の活性化、企業理念の浸透のために、従業員との対話に優先的に時間を投入しました。加えて様々な施策の効果で、その後の業績を回復することができました。2011年からは、従業員とビジョンを共有する場「ビジョンCafé」を開催し、これまでに延べ93カ所、約1,000人の従業員と対話をしてきました。当社のビジョンは着実に従業員に浸透してきており、今後いかなる市場環境においても、中期的な成長の牽引役になると信じています。

長期的な企業価値向上に向けて

持続的な成長のためには、お客さまとの信頼関係の構築が重要です。そこで「品質向上とCS(顧客満足度)向上」を最優先課題のひとつとして取り組み、お客さまの声を経営に活かす仕組みづくりを進めています。ものづくり段階・施工段階での品質向上だけでなく、お客さまが製品をご使用になる段階での問い合わせ先である、コンタクトセンターの応対品質向上にも力をいれてまいります。

株主さまとの関係においては、収益向上によりROEを継続的に改善することを目指しています。配当について、2014年度は2円増配の32円の配当を実施いたしました。

コーポレートガバナンスの面では、経営の健全性、透明性を高め、経営判断の最適化を図ってまいります。

今後も事業を通じて日本、世界の人々の暮らしを快適にすることに貢献し、社会課題を解決することで、持続的な成長に向け取り組んでまいります。今後とも当社グループへのご支援をよろしくお願い申し上げます。

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

サイト内検索

検索

CSRの取り組み

CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRトピックス

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

ノーリツグループのCSR

企業理念体系	ノーリツグループのCSR方針
CSRマネジメント体制	CSR浸透に向けた2014年度の主な活動

企業理念体系

お湯と健康 愛とやすらぎ
豊かな暮らしをつくる ノーリツ

ノーリツグループの基本姿勢

1. お客様に安全かつ安心な商品を提供します
2. お客様が感動する価値を提供します
3. 公正で透明性のある企業活動に徹します
4. 地球環境と人へ配慮します

ノーリツグループの3C

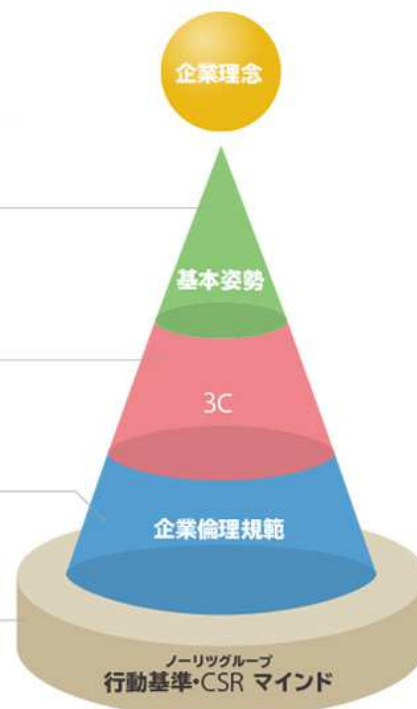
CHANGE	私たちは変革し続けます
CHALLENGE	私たちは挑戦し続けます
CREATE	私たちは創造し続けます

ノーリツグループの企業倫理規範

1. 法令の遵守と社内徹底
2. 道徳観・倫理観に基づく行動
3. 公明正大な行動

ノーリツグループのCSR マインド

1. 社会の継続的発展に関する国際ガイドラインの認識
2. 社会課題の解決に対し主体的に役立とうとする意識
3. 地域との連携



ノーリツグループは、企業理念の基、事業を通じて社会の課題解決に貢献することで社会と企業の持続的な成長をめざします。活動の基本となるには、従業員一人ひとりがCSRマインドを身に付け、ノーリツグループの基本姿勢を行動に移すことです。

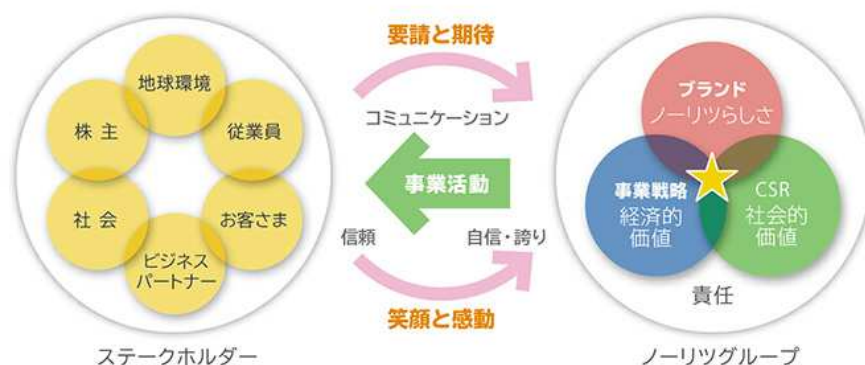
ページのTOPへ ↑

ノーリツグループのCSR方針

CSR 方針

地球環境を含むすべてのステークホルダーの皆さまの新しい幸せをわかしていくこと

CSR の取り組み



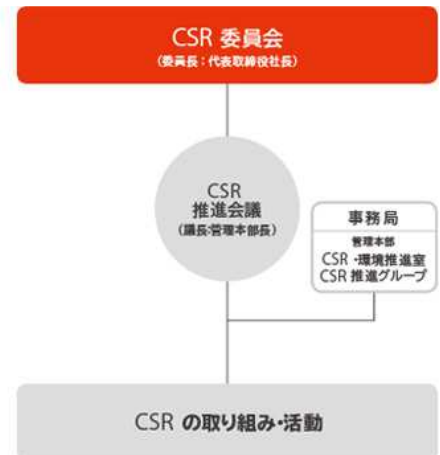
ノーリツグループは、ステークホルダーの皆さまとの双方向コミュニケーションを通して社会の要請と期待を感じ取り、「事業戦略に沿った経済的価値の追求」「社会の課題解決に貢献する社会的価値の向上」「ブランド戦略と呼び出したノーリツらしさの追求」の3つを深く融合した事業活動を進めています。この取り組みを通して、社会的責任を自

主的に果たすことにより、地球環境を含むすべてのステークホルダーの皆さまの笑顔と感動、すなわち“新しい幸せ”をわかしていくことをCSR方針としています。

[ページのTOPへ](#)

CSRマネジメント体制

CSR活動を効果的に推進するため、ノーリツではCSRの取り組みについて、部門横断的にさまざまな課題について検討しています。CSR担当役員を議長とし、主に部門長を構成員とするCSR推進会議を年4回開催し、CSR推進施策について議論しています。これとは別に、迅速な意思決定を図ることを目的として、2007年よりCSR委員会を設置・開催しています。代表取締役社長が委員長を務め、取締役、執行役員、監査役で構成されるCSR委員会は年2回開催され、CSRの課題について審議・決定します。この決定内容に基づいてP・D・C・Aマネジメントを推進しています。



[ページのTOPへ](#)

CSR浸透に向けた2014年度の主な活動

ノーリツグループは社会的責任の遂行と企業価値の向上をめざし、CSR活動を積極的に推進しています。2014年度は、CSRの社内浸透を図るため、社内研修を26回のべ392人に対し実施しました。10月には代表取締役社長と部門長にて、CSRの取り組みについて話し合いました。また、社外からの講師も招き、経営層および従業員に対して、CSR研修を実施しました。現在は、マテリアリティの特定について、検討を進めています。

企業情報	株主・投資家向け情報	CSRの取り組み	採用情報	製品に関する大切なお知らせ
トップメッセージ 企業理念・ビジョン 企業データ 沿革 企業姿勢・規範 ノーリツグループ行動基準 コーポレート・ガバナンス 調達活動 企業スポーツ活動 ノーリツチャンネル	IRニュース トップメッセージ 個人投資家、株主の皆様へ 経営方針 業績・財務データ IRライブラリー 株主情報 IRイベント 電子公告 よくあるご質問 免責事項	トップメッセージ ノーリツグループのCSR 国連グローバルコンパクト エコ・ファーストの約束 3つの笑顔プロジェクト CSRトピックス 品質 環境 社会 ガバナンス 第三者意見 国際的イニシアティブとの整合 報告書一覧 編集方針	お問い合わせ窓口一覧	製品を安全に、正しくお使いいただくために 長期使用製品に関する制度などについて グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意 その他、製品に関するご連絡、ご注意

[サイト内検索](#)

[検索](#)

CSRの取り組み

● CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRトピックス

» 中期経営計画にCSRの視点を反映

» ノーリツグループ行動基準改定

» 品質向上への取り組み

» ノーリツグループCSR調達ガイドラインの制定

» 社会貢献「みちのく未来基金」を支援

» 平成26年度 省エネ大賞 受賞

» ノーリツグループCSRマテリアリティを特定

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

中期経営計画にCSRの視点を反映

ノーリツグループは、CSRの取り組みが経営の礎になることを認識し、社会的課題の解決と自社の持続的成長をめざして、2014年～2016年までの中期経営計画にCSRの視点を反映しています。従業員一人ひとりがCSRの視点を身につけ、事業を通じて社会の課題解決に貢献することが、我々ノーリツグループの持続的成長につながると考えています。

2014年度は株式会社ノーリツの従業員への研修や話し合いを通じて、CSRマインドの醸成に向け取り組みます。

基本方針

経営基盤の安定と持続的成長を実現する。
従業員が自信と誇りをもてるノーリツグループにする

「成長戦略」の実現

新商品にこだわり、国内・海外の両事業で成長を図るとともに、環境や安全といった市場の拡大に対応し、新たなお客さま価値を創造してまいります。

「強いブランド」の実現

広告宣伝に加え、「**エコ・リラ・キレイ**」というコンセプトを商品の企画・開発等に活かし、ブランドの浸透を図ってまいります。

「強い連携」の実現

グループ会社を含めた組織再編を行い、開発力を高めるとともに営業力の最大化も図り、当社グループ全体の発展を目指してまいります。

「強いチーム」の実現

当社グループを支える人材を積極的に育成し、自信と誇りをもって挑戦できるチームづくりを推進してまいります。

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

CSRの取り組み

● CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ [CSRトピックス](#)

» 中期経営計画にCSRの視点を反映

» [ノーリツグループ行動基準改定](#)

» 品質向上への取り組み

» ノーリツグループCSR調達ガイドラインの制定

» 社会貢献「みちのく未来基金」を支援

» 平成26年度 省エネ大賞 受賞

» ノーリツグループCSRマテリアリティを特定

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

ノーリツグループ行動基準改定

■「ノーリツグループ行動基準」の改定について

ノーリツグループ全体のコンプライアンス風土の定着を図るため、これまでの「ノーリツグループ行動基準」を大幅に改定し、グループ会社を含める全従業員に配布しました。

これまでの行動基準（2003年制定、2010年改訂第3版）では下記の点において改善が必要でした。

- ・「法令・企業倫理遵守」の色（「～ねばならない」）が強く、「社会の要請への適応」の視点が弱い
- ・文字情報が多く、従業員が「読む気」になりにくい
- ・「関係法令を遵守します」等の抽象的な表現が多く、従業員が「具体的にどうすればいいか」が分からない

これらの問題に対し、今回は下記のように改善を図りました。

- ・法令遵守に留まらず、国際基準に基づいて「社会の要請に応える」ことを目的とする
（例）「人権の尊重」に国連グローバル・コンパクト10原則であるの「人権侵害への非加担」「強制労働・児童労働の排除」を盛り込む
- ・「人権」と「安全」を事業活動のすべてにかかる項目の章とし、それ以降の章はノーリツグループの「ステークホルダー」との関係ごとに設定する（従業員・お客さま・ビジネスパートナー・地球環境・社会・株主）
- ・1項目1ページとし、全世界の従業員が理解しやすいイメージイラストを大きく表示する

[ノーリツグループ行動基準](#) [PDF:1.52MB] 

[ノーリツグループ行動基準\(英語版\)](#) [PDF:1.78MB] 

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

[ノーリツチャンネル](#)

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

[お問い合わせ窓口一覧](#)

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

CSRの取り組み

CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ **CSRTピックス**

※ 中期経営計画にCSRの視点を反映

※ ノーリツグループ行動基準改定

※ 品質向上への取り組み

※ ノーリツグループCSR調達ガイドラインの制定

※ 社会貢献「みちのく未来基金」を支援

※ 平成26年度 省エネ大賞 受賞

※ ノーリツグループCSRマテリアリティを特定

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

品質向上への取り組み

「豊かな暮らしを支える製品とサービスを提供する」ことを最大の使命とするノーリツグループでは、「お客さま満足を最優先に考え、ものづくり・販売・サービスの品質を高めるすべての企業活動も本業を通じておこなうCSR活動である」との考えから、関係部門からメンバーが集まり、他部門とのコミュニケーション交流から生まれる気づきをさらなる“品質の向上＝CSR推進”へつなげていく取り組みをおこなっています。

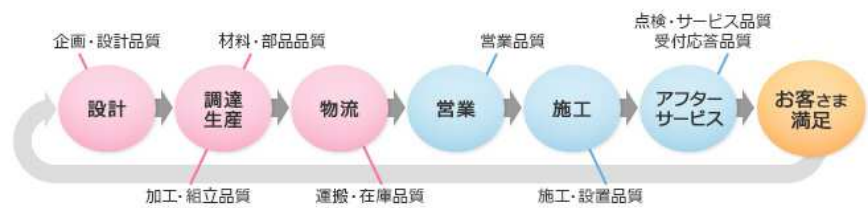
2014年度は昨年設定した目標達成に向け、取り組みました。

第1ステップ…メンバーが品質向上のためにおこなっている業務について、「社会からの要請と期待」と「大切にしたい」を話し合い、製品だけでなく、すべての企業活動でお客さま満足を最優先することの重要性を再認識するとともに、品質の向上を図ることはCSRの重要な活動であることを共有しました。

第2ステップ…メンバーが品質向上のために取り組んでいる業務を製品ライフサイクル※1と照し合い、各ステージ毎に今後、取り組むべき業務を確認、中長期課題に対する思いを話し合い、課題を抽出しました。

※1：製品ライフサイクル：製品の設計からお客さまが満足してお取り替えしていただくまでの一連の企業活動

■ 製品ライフサイクルの各ステージにおける品質向上への取り組み



第3ステップ…第2ステップで抽出した課題について「めざすべき品質」「大切にしたい」「現状の取り組み」をメンバーで共有し、主管部門を確認し課題を設定しました。

第4ステップ…2014年度から、それぞれの課題について取り組みを開始しました。その中で新たに気付いた課題の設定をおこなうとともに、各課題の深堀りと、詳細化をおこなっています。

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバル・コンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRTピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

CSRの取り組み

▶ CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ [CSRトピックス](#)

» 中期経営計画にCSRの視点を反映

» ノーリツグループ行動基準改定

» 品質向上への取り組み

» [ノーリツグループCSR調達ガイドラインの制定](#)

» 社会貢献「みちのく未来基金」を支援

» 平成26年度 省エネ大賞 受賞

» ノーリツグループCSRマテリアリティを特定

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

ノーリツグループCSR調達ガイドラインの制定

**2014年7月CSR視点での調達活動を推進するために、
「ノーリツグループ CSR調達ガイドライン」を制定しました。**

ノーリツグループは調達方針に基づき、お取引先さまとの相互信頼と連携を向上すべく、公平・公正を基本とした、地球環境に配慮した調達活動を展開しています。

当社は最終ブランドメーカーとして、サプライチェーン全体のマネジメントが求められており、ノーリツグループ企業理念、基本姿勢や行動基準をもとに、社会の要請や期待を反映して本ガイドラインを制定しました。

今後は、当社グループ会社はもとより、サプライヤー様と一体となってCSR調達活動を推進していきます。

＜ノーリツグループCSR調達ガイドライン項目＞

- ・人権の尊重
- ・お客さまの満足度向上
- ・法令遵守と企業倫理にもとづいた企業活動
- ・公正で透明性のある取引
- ・地球環境・社会との共生
- ・労働環境の整備

[ノーリツグループCSR調達ガイドライン「PDF:0.43MB」](#) 

[ノーリツグループCSR調達ガイドライン\(英語版\)\[PDF:101KB\]](#) 

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

サイト内検索

検索

Copyright © 2015 NORITZ Corporation. All Rights Reserved.

ご不明な点などございましたら
お気軽にお問い合わせください。

CSRの取り組み

CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRトピックス

» 中期経営計画にCSRの視点を反映

» ノーリツグループ行動基準改定

» 品質向上への取り組み

» ノーリツグループCSR調達ガイドラインの制定

» **社会貢献「みちのく未来基金」を支援**

» 平成26年度 省エネ大賞 受賞

» ノーリツグループCSRマテリアリティを特定

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

社会貢献「みちのく未来基金」を支援

公益財団法人「みちのく未来基金」は、東日本大震災でかけがえない親を亡くした子どもたちを支援する団体です。高校卒業後の大学や短大、専門学校の入学金と授業料を、「返済不要、人数制限なし」で、上限300万円まで支給し、25年間支援を続けることを掲げて設立されました。これまでに1期生96名、2期生124名、3期生107名、2015年3月には新たに4期生97名（3月31日時点）が加わり、延べ424名がみちのく未来基金を活用して進学しました。

趣旨に賛同した多くの企業や団体が協力して取り組んでいます。かつて阪神・淡路大震災で被災した経験から、被災地で事業活動を展開しているノーリツグループも、2012年度の従業員募金の寄付に続き、2013年度から支援企業として加わりました。

2015年3月14日、宮城大学で支援企業の代表者や支援者が見守る中、「門出の会」にて奨学制度によって新しく入学する4期生の決意表明がなされ、併せて3月に短大、専門学校を卒業した1・2・3期生の前途を祝う「旅立ちの会」がとりおこなわれました。当社は基金の意義をあらためて認識し、微力ながらこの活動を支え続けていくことを決意しました。



みちのく未来基金 第4期生の集い

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバル・コンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会
ガバナンス

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

CSRの取り組み

CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRトピックス

※ 中期経営計画にCSRの視点を反映

※ ノーリツグループ行動基準改定

※ 品質向上への取り組み

※ ノーリツグループCSR調達ガイドラインの制定

※ 社会貢献「みちのく未来基金」を支援

※ 平成26年度 省エネ大賞 受賞

※ ノーリツグループCSRマテリアリティを特定

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

「省エネ大賞」を受賞

「ハイブリッド給湯・暖房システム」がその高い環境性能を認められ、「平成26年度省エネ大賞」製品・ビジネスモデル部門において「省エネルギーセンター会長賞」を受賞しました。



特徴

- (1)潜熱回収型ガス給湯器(エコジョーズ)とヒートポンプ給湯機の長所を融合させ、給湯利用に対する学習制御によって、給湯一次エネルギー効率は125%※を達成しました。
- (2)ご家庭の生活パターンを自動的に記憶する自己学習機能により、お湯を必要とする時間帯と量を予測し、最も効率の良いタイミングで貯湯をおこなう「スマート制御」が放熱ロスを最小限に抑えます。
- (3)低圧作動で再加熱性能の良いノンフロン冷媒R290を業界で初めて採用し、フロンガス(R410A)と比較して地球温暖化係数(GWP)を1/700に低減することができました。
- (4)瞬時の加熱能力があるガスを利用できるため、タンク貯湯量とヒートポンプの加熱能力を必要最小限にでき、貯湯ユニットとヒートポンプユニットの小型化で狭小地への設置も可能となりました。

※給湯使用による効率(暖房使用は除く)「住宅事業建築主の判断基準」6 地域の条件を参考に当社調べ。

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会
ガバナンス

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

CSRの取り組み

CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

CSRトピックス

※ 中期経営計画にCSRの視点を反映

※ ノーリツグループ行動基準改定

※ 品質向上への取り組み

※ ノーリツグループCSR調達ガイドラインの制定

※ 社会貢献「みちのく未来基金」を支援

※ 平成26年度 省エネ大賞 受賞

※ ノーリツグループCSRマテリアリティを特定

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

ノーリツグループCSRマテリアリティを特定(Specifying the CSR Materiality of NORITZ group)

ノーリツグループはステークホルダーとの対話を通して、優先的に取り組むべきCSR重要課題として、4分野7テーマを特定しました。今後も事業を通して社会課題の解決に貢献し、社会とノーリツグループの継続的発展を目指します。

ノーリツグループCSRマテリアリティ 4分野 7テーマ

■ 地球環境	■ 消費者安全	■ 人材	■ サプライチェーン マネジメント
(1)CO ₂ 排出量削減 (2)製品有害物質削減	(3)消費者安全	(4)人権対応 (5)雇用 (6)ダイバーシティ	(7)CSR調達

ノーリツグループCSRマテリアリティ(優先課題)の特定プロセス

ノーリツレポート2015の第三者意見や国際社会が継続的に発展する上で必要とされている課題から、ノーリツグループとステークホルダーにとって重要と思われる課題を抽出し、「ノーリツグループにとっての重要度」と「ステークホルダーにとっての重要度」の2軸でマッピングを行いました。

社内関連部門の意見を反映した上で、ステークホルダー代表とのダイアログを開催し妥当性の確認を行い特定しました。

STEP 1

社会課題の
確認と整理

社内関連部門にて課題の抽出とマッピング案の策定

課題の抽出

- ・ ミレニアム開発目標、国連グローバル・コンパクト、ISO26000、メディア情報、第三者意見、CSR アンケート項目、社長ダイアログ、ステークホルダーへのアンケートの結果などから抽出

縦軸（ステークホルダーにとっての重要度）

- ・ 国際的なガイドラインとステークホルダーの要請や期待を考慮し重要度を測りました

横軸（ノーリツグループにとっての重要度）

- ・ 企業理念を基に、ノーリツグループが企業価値を向上し持続的成長を果たす上での重要度を測りました

STEP 2

社内各部門との
検討

社内施策との整合性確認

社内CSR推進会議での議論

- ・ CSR有識者と交えたテーマの議論
- ・ 社内各部門とのヒアリング
- ・ CSR重要課題の絞り込み

<社内関連部門> 経営企画、人事、法務、品質保証、国際事業、広報、物流、製造、資材、生産、研究開発、環境、IT、営業、お客さま接点の各部門

STEP 3

ステークホルダー
ダイアログ

対話を通じたステークホルダーの意見確認

ステークホルダー代表とのダイアログ

- ・ 社会動向の確認
- ・ CSR重要課題への意見
- ・ CSR重要課題の妥当性確認



ステークホルダーダイアログ
(Stakeholder Dialogue)

STEP 4

CSRマテリアリティの
特定

CSRの最上位会議体（CSR委員会）にて承認

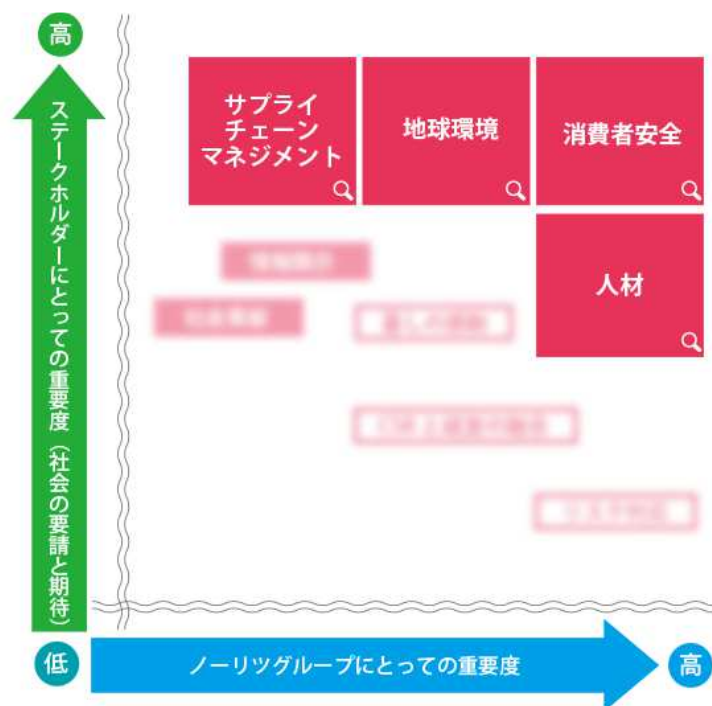
4分野7テーマを決定

- ・ 各CSR重要課題の取り組み主管部門の決定
- ・ スケジュール・目標の設定

ノーリツグループCSRマテリアリティ分析マップ

人権課題はノーリツ製品がかかわるすべての段階において存在すると認識しておりますが、初年度の2015年～2016年は従業員とサプライチェーンマネジメントを中心に取り組んでまいります。

(人材分野:従業員および従業員が及ぼす人権対応、サプライチェーンマネジメント分野:サプライヤーの人権対応)



■ 地球環境

(1)CO₂排出量削減

- 1)製品を通じたCO₂の削減
- 2)事業活動を通じたCO₂の削減
- 3)環境マインド向上(環境人材育成)

(2)製品有害物質削減

- 1)有害物質対応商品を2016年までに販売構成比80%にする
- 2)REACH規則に基づく化学物質含有状況の情報開示
- 3)2019年7月までに改正RoHS指令対応

■ 人材

(4)人権対応(従業員および従業員が及ぼす人権対応)

- 1)グローバルスタンダードに基づいた人権対応や認識の周知
- 2)リスク確認
- 3)人権影響評価と対応(人権デューデリジェンス)

(5)雇用

- 1)自立と相互支援による強いチームづくり
- 2)働き甲斐の創出

(6)ダイバーシティ

- 1)障がい者、高齢者などの雇用対応
- 2)従業員の多様性の容認
- 3)ワークライフバランスの充実
- 4)女性が活躍できる場の創生

■ 消費者安全

(3)消費者安全

- 1)商品に関する品質の向上
- 2)品質向上に繋がる人材育成

■ サプライチェーンマネジメント

(7)CSR調達(サプライヤーの人権対応)

- 1)CSR調達ガイドラインの周知・浸透
- 2)社内アンケート分析
- 3)出張時の調査チェックリスト作成
- 4)仕入先実態把握(社外アンケート)

ノーリツグループCSRマテリアリティ

■ 取り組み分野:地球環境

ノーリツグループ CSRマテリアリティ (CSR優先課題)	マテリアリティ特定の補足説明	影響を与える主な範囲				
		サプライヤー	NRグループ	お客さま	地球環境	地域社会
(1)CO ₂ 排出量の削減 (製品・事業活動)	日本では家庭におけるエネルギーの約60%が、給湯・暖房・厨房分野で使用されており、ノーリツ製品が排出するCO ₂ は日本全体のCO ₂ 排出量の約1%にあたります。(うち使用時が99%)製品および事業活動におけるCO ₂ 排出量の削減は最重要課題の一つです。ノーリツグループはその事を認識しており「 エコ・ファーストの約束(1)(2) 」として取り組みを宣言しています。					
	具体的な取り組み内容	○	○	○	○	○
	(1)製品を通じてのCO₂削減 (高効率・ハイブリッド温水機器、創エネルギー機器の開発と普及促進) 1)2016年CO ₂ 排出量20万t削減(2000年比) (2)事業活動を通じてのCO₂削減 (エネルギーマネジメント推進、業務改善・運用と設備導入)					

	1)2016年CO ₂ 排出量18.5%削減、2020年20.2%削減(2005年比) (3)環境マインド向上 (環境人材育成:省エネ教育、eco検定) 1)省エネ教育(省エネ可能性診断、省エネ人材育成) 2)eco検定(2016年ノーリツ個社取得率60%、グループ会社への展開)					
(2)製品有害物質削減	RoHS指令、REACH規則などグローバルで製品化学物質の規制が強化されています。 2019年には改正RoHS指令が給湯機器にも適用予定です。 「 エコ・ファーストの約束(3) 」にも宣言しています。	○	○	○	○	○
	具体的な取り組み内容					
	(1)有害物質対応商品の販売構成比80%(2016年) (2)RoHS指令・REACH規則に基づく化学物質含有状況の情報開示 (3)改正RoHS指令対応					

■ **取り組み分野:消費者安全**

ノーリツグループ CSRマテリアリティ (CSR優先課題)	マテリアリティ特定の補足説明	影響を与える主な範囲				
		サブライヤー	NRグループ	お客さま	地球環境	地域社会
(3)消費者安全	企業理念である「お湯と健康 愛とやすらぎ 豊かな暮らしをつくる ノーリツ」に基づき、お客さま満足を追求し、安全・安心な機器を提供することを使命と考えています。 その実現に向け品質マネジメントシステムを構築し、企業体質の改善・強化に取り組んでいます。		○	○		
	具体的な取り組み内容					
	(1)商品に関する品質の向上 1)日本国内の「ノーリツ安全設計基準」の策定と海外グループ会社への展開 2)SSM※1の自社設計定着および導入推進 3)スペースファインダー※2の導入推進 (2)人材育成 1)SSM※1の知識構造化プロセスにおいて、問題分析力、解決力および専門知識向上 2)ノーリツグループ、協力会社に対する教育支援					

※1 SSM(ストレス・ストレングス・モデル):過去の不具合事例を体系化し共有することで設計に活かす手法

※2 スペースファインダー:品質管理情報を一元管理し不具合情報の有効活用・早期発見・早期対応を図る

■ **取り組み分野:人材**

ノーリツグループ CSRマテリアリティ (CSR優先課題)	マテリアリティ特定の補足説明	影響を与える主な範囲				
		サブライヤー	NRグループ	お客さま	地球環境	地域社会
(4)人権対応	ノーリツグループは人権対応において重要性の認識が不足気味であると第三者意見でも指摘されています。人権の正しい理解・認識と取り組みが求められています。		○			○
	具体的な取り組み内容					
	(1)人権影響評価とその対応 (デューディリジェンス) (2)ノーリツグループ人権方針の確立と開示 (3)グローバルスタンダードの認識周知や人権対応 (4)リスク状況の把握					
(5)雇用	安全・安心でいきいきと働ける雇用環境の整備は、企業に求められる最も重要な課題の一つです。		○			
	具体的な取り組み内容					
	(1)自立と相互支援による強いチームづくり (2)働きがいの創出					
(6)ダイバーシティ	多様な人材の活用は、企業が持続的に成長する上でとても大切なテーマです。		○			
	具体的な取り組み内容					
	(1)障がい者、高齢者などの雇用対応 (2)従業員の多様性の尊重 (3)ワークライフバランスの充実 (4)女性活用の目標設定 &活躍できる場の整備					

■ **取り組み分野:サプライチェーンマネジメント**

ノーリツグループ CSRマテリアリティ	マテリアリティ特定の補足説明	影響を与える主な範囲				
		サブラ	NRグ	お客	地球	地域

(CSR優先課題)		イヤー	ループ	さま	環境	社会
(7)CSR調達	ノーリツグループが自社の製品を製造・販売する上で社会に与える影響は大きく、調達段階においても責任を果たすべきことを認識しています。社会の継続的發展につながるよう取り組んでまいります。	○	○			○
	具体的な取り組み内容					
	(1)人権影響評価と対応（デューディリジェンス） (2)ノーリツグループ CSR調達ガイドラインの周知・浸透 (3)社内実態把握アンケート分析と課題設定 (4)現地調査チェックリスト作成 (5)仕入先実態把握アンケートと課題設定 （児童労働・強制労働・労働安全衛生など）					

ノーリツグループCSRマテリアリティと GRI G4の対照表

■ 取り組み分野:地球環境

ノーリツグループ	GRI G4			
ノーリツグループ CSRマテリアリティ (CSR優先課題)	カテゴリー (サブカテゴリー)	側面	指標	
(1)CO₂排出量の削減 (製品・事業活動)	環境 (一)	大気への排出	G4-EN15	直接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ1) エコ・ファーストの約束
			G4-EN16	間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ2) エコ・ファーストの約束
			G4-EN17	その他の間接的な温室効果ガス(GHG)排出(スコープ3) エコ・ファーストの約束
			G4-EN18	温室効果ガス(GHG)排出原単位 掲載なし(省エネ法対応で経済産業省へ毎年報告済)
			G4-EN19	温室効果ガス(GHG)排出量の削減量 エコ・ファーストの約束
			G4-EN20※	オゾン層破壊物質(ODS)の排出量 環境保全活動データ
			G4-EN21※	Nox.Soxおよびその他の重大な大気排出 環境保全活動データ
(2)製品有害物質削減		製品およびサービス	G4-EN27	製品およびサービスによる環境影響緩和の程度 エコ・ファーストの約束
			G4-EN28※	使用済み製品や梱包材のリユース、リサイクル比率(区分別) 製品を通じた環境負荷低減

※ノーリツグループのCSRマテリアリティでは社会への影響が大きいCO₂排出量の削減と製品有害物質の削減に特化した為、直接的な関係はありませんがGRI G4の指標として開示しています

■ 取り組み分野:消費者安全

ノーリツグループ	GRI G4			
ノーリツグループ CSRマテリアリティ (CSR優先課題)	カテゴリー (サブカテゴリー)	側面	指標	
(3)消費者安全	社会 (製品責任)	顧客の安全衛生	G4-PR1	主要な製品やサービスで、安全衛生の影響評価を行い、改善を図っているものの比率 豊かな暮らしを支える製品とサービスを提供する 品質方針 品質への取り組み 品質向上への取り組み 製品を安全に、正しくお使いいただくために 長期使用製品に関する制度などについて アスベスト(石綿)の使用状況について お客さまの安全に向けた取り組みについて 製品安全自主行動計画 お客さまとともに 従業員とともに

				社会とともに
			G4-PR2	製品やサービスのライフサイクルにおいて発生した、安全衛生に関する規制および自主的規範の違反事例の総件数 グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意 製品事故情報一覧

■ 取り組み分野: 人材

ノーリツグループ	GRI G4			
ノーリツグループ CSRマテリアリティ (CSR優先課題)	カテゴリー (サブカテゴリー)	側面	指標	
(4)人権対応	社会 (人権)	投資	G4-HR1	重要な投資協定や契約で、人権条項を定めているもの、人権スクリーニングを受けたものの総数とその比率 ノーリツグループ行動基準 人権
			G4-HR2	業務関連の人権側面についての方針、手順を内容とする従業員研修を行った総時間(研修を受けた従業員の比率を含む) 人権
		非差別	G4-HR3	差別事例の総件数と実施した是正措置 当該期間該当なし
		結社の自由と団体交渉	G4-HR4	結社の自由や団体交渉の権利行使が、侵害されたり著しいリスクにさらされているかもしれないと特定された業務やサプライヤーおよび当該権利を支援する為に実施した対策 当該期間該当なし
		児童労働	G4-HR5	児童労働に関して著しいリスクがあると特定された業務やサプライヤーおよび児童労働の効果的な根絶のために実施した対策 現在調査中。近日公開します
		強制労働	G4-HR6	強制労働事例に関して著しいリスクがあると特定された業務やサプライヤーおよびあらゆる形態の強制労働を撲滅するための対策 現在調査中。近日公開します
		人権評価	G4-HR9	人権レビューや影響評価の対象とした業務の総数とその比率 データなし
(5)雇用	社会 (労働慣行とディーセント・ワーク)	雇用	G4-LA1	従業員の新規雇用者と離職者の総数と比率(年齢、性別、地域による内訳) 雇用に関する基本方針
			G4-LA2	派遣社員とアルバイト従業員には支給せず、正社員に支給する給付 ワークライフバランスを支援する諸制度
			G4-LA3	出産・育児休暇後の復職率と定着率(男女別) 雇用に関する基本方針 ワークライフバランスを支援する諸制度
		労働安全衛生	G4-LA5	労働安全衛生プログラムについてモニタリング、助言をおこなう労使合同安全衛生委員会に代表を送る母体となっている総労働力の比率 活力ある人材を育成する
			G4-LA6	傷害の種類と、傷害・業務上疾病・休業日数・欠勤の比率および業務上の死亡者数(地域別、男女別) 活力ある人材を育成する
			G4-LA7	業務関連の事故や疾病発症のリスクが高い労働者数 データなし
			G4-LA8	労働組合との正式協定に定められている安全衛生関連のテーマ 活力ある人材を育成する 労使の関係
(8)ダイバーシティ	社会 (労働慣行とディーセント・ワーク)	多様性と機会均等	G4-LA12	ガバナンス組織の構成と従業員区分別の内訳(性別、年齢、マイノリティグループその他多様性指標別) コーポレートガバナンス 多様性の尊重

■ 取り組み分野: サプライチェーンマネジメント

ノーリツグループ	GRI G4			

ノーリツグループ CSRマテリアリティ (CSR優先課題)	カテゴリー (サブカテゴリー)	側面	指標	
(7)CSR調達	経済 (一)	調達慣行	G4-EC9	重要事業拠点における地元サプライヤーへの支出の比率 データなし
	環境 (一)	大気への排出	G4-EN17	その他の間接的な温室効果ガス(GHG)排出(スコープ3) エコ・ファーストの約束
		サプライヤーへの 環境評価	G4-EN32	環境クライテリアにより選定した新規サプライヤーの比率 製品の環境負荷低減とサプライチェーン 現在調査中。近日公開します
			G4-EN33	サプライチェーンにおける著しいマイナス環境影響および行った措置 現在調査中。近日公開します
	社会 (労働慣行と ディーセント・ワーク)	労働安全衛生	G4-LA6	傷害の種類と、傷害・業務上疾病・休業日数・欠勤の比率および業務上の死亡者数(地域別、男女別) 活力ある人材を育成する
		サプライヤーの 調達慣行評価	G4-LA14	労働慣行クライテリアによりスクリーニングした新規サプライヤーの比率 CSR調達 現在調査中。近日公開します
			G4-LA15	サプライチェーンでの労働慣行に関する著しいマイナス影響および実施した措置 現在調査中。近日公開します
	社会 (人権)	結社の自由と 団体交渉	G4-HR4	結社の自由や団体交渉の権利行使が、侵害されたり著しいリスクにさらされているかもしれないと特定された業務やサプライヤーおよび当該権利を支援する為に実施した対策 当該期間該当なし
		児童労働	G4-HR5	児童労働に関して著しいリスクがあると特定された業務やサプライヤー、および児童労働の効果的な根絶のために実施した対策 CSR調達ガイドラインの制定 現在調査中。近日公開します
		強制労働	G4-HR6	強制労働事例に関して著しいリスクがあると特定された業務やサプライヤー、およびあらゆる形態の強制労働を撲滅するための対策 CSR調達ガイドラインの制定 現在調査中。近日公開します
		サプライヤーへの 人権評価	G4-HR10	人権クライテリアによりスクリーニングした新規サプライヤーの比率 CSR調達 現在調査中。近日公開します
			G4-HR11	サプライチェーンにおける人権への著しいマイナス影響および実施した措置 現在調査中。近日公開します
		社会 (社会)	G4-SO9	社会に及ぼす影響に関するクライテリアによりスクリーニングした新規サプライヤーの比率 CSR調達 現在調査中。近日公開します
			G4-SO10	サプライチェーンで社会に及ぼす著しいマイナス影響および実施した措置 現在調査中。近日公開します

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

CSRの取り組み

CSRの取り組み

- ▶ トップメッセージ
- ▶ ノーリツグループのCSR
- ▶ 国連グローバル・コンパクト
- ▶ エコ・ファーストの約束
- ▶ 3つの笑顔プロジェクト
- ▶ CSRトピックス
- ▶ Q+ESGについて
- ▶ 品質
- ▶ 環境
- ▶ 社会
- ▶ ガバナンス
- ▶ 第三者意見
- ▶ 国際的イニシアティブとの整合
- ▶ 報告書一覧
- ▶ 編集方針

Q+ESGについて

ノーリツグループはESG(環境・社会・ガバナンス)にメーカーならではの品質「Q」を加えたQ+ESG でCSRの取り組みをご紹介します。



Quality

「品質」への拘りは、私たちの文化であり強みの一つです。品質の源泉であり多様な個性を有する人材、製品の情熱を具現化する技術力、貴重なご意見を下さるお客さま……。私たちは、品質を支える「見えない資産」を活用し、事業活動を通じて社会に貢献していきます。

ノーリツの見えない資産



ノーリツグループの価値創造をご理解いただく上で、私たちの「見えない資産(財務諸表に載らない資産)」をお伝えすることも大切と考えています。ここでは、私たちが大切にしている「見えない資産」を「Q+ESG」というキーワードでご紹介します。



Environment

私たちは、「エコ・ファースト企業」として「きれいな地球を次の世代へ」をスローガンに環境管理システムを構築し、環境負荷低減をはじめとした具体的な計画をもとに、当社グループ全体で地球環境保全活動に積極的に取り組んでいます。



Society

私たちは創業以来、社会との関わりを重視してきました。事業成長を果たし、より多くの雇用を創出し、地域社会に貢献することは勿論ですが、事業活動以外での社会貢献も大切にしています。“より多くの幸せをわかつこと”を目標に、できることを真心こめて取り組みます。



Governance

当社グループの長期的な企業価値創造には、正しい経営判断や迅速な意思決定は欠かすことが出来ません。幅広いステークホルダーの利益を考慮し、透明性が高く、より健全な企業経営が実行できる仕組みや体制を整備していきます。

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

CSRの取り組み

CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRTピックス

▶ Q+ESGIについて

品質

» 品質方針

» 豊かな暮らしを支える製品とサービスを提供する

» 品質への取り組み

▶ 環境

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

品質



Quality

「品質」への拘りは、私たちの文化であり強みの一つです。品質の源泉であり多様な個性を有する人材、製品の情熱を具現化する技術力、貴重なご意見を下さるお客さま……。私たちは、品質を支える「見えない資産」を活用し、事業活動を通じて社会に貢献していきます。

品質方針

企業理念に基づく独自の品質マネジメントシステムを構築し、体質の改善・強化に取り組んでいます。

豊かな暮らしを支える製品とサービスを提供する

お客さまの声を事業に活かし、製品やサービスの品質向上をめざして、可能性に挑戦しています。

品質への取り組み

お客さまの快適な暮らしを支えるお湯を安心してお使いいただけるよう、さまざまな角度から取り組んでいます。

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRTピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

CSRの取り組み

▶ CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRTピックス

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

» 品質方針

» 豊かな暮らしを支える製品とサービスを提供する

» 品質への取り組み

▶ 環境

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

品質方針

品質方針

品質に関する基本姿勢

品質方針

当社は、企業理念である「お湯と健康 愛とやすらぎ 豊かな暮らしをつくる ノーリツ」に基づき、お客さま満足を追求し、安全・安心な機器を提供することを使命と考え、これを実現するための品質マネジメントシステムを構築し、体質の改善・強化に取り組んでいます。

品質方針

顧客視点に立ち、QCDDPR^{*}を満足した
魅力ある商品を市場に提供する！

- ① 顧客のニーズに答えた、関連する法規・規制要求事項を遵守し、高品質で、安全・安心な製品を提供し続ける。
- ② 品質マネジメントシステムの有効性の改善に、継続的に取り組む。
- ③ 一人ひとりが高い品質目標を掲げ、目標達成に向け、一丸精神で邁り抜く。

※ Q: Quality、C: Cost、D: Delivery、D: 独創的商品、P: Patent、R: Risk

[ページのTOPへ](#) ↑

品質に関する基本姿勢

ノーリツは、すべての事業活動においてお客さま満足を最優先に考え、お客さまに安全・安心な製品、施行、アフターサービスを提供していきます。当社は、安全・安心な社会を構築する社会的責任を十分に認識するとともに、自主行動計画を策定し実践します。さらに、品質に関するグループ各社の情報共有化と問題解決の連携を図り、ノーリツグループとして適切な品質保証活動および品質向上活動を進めていきます。

■ 製品安全自主行動計画

特に、安全性に関しては事業活動のあらゆる段階でリスクアセスメントを実施するとともに、法令、各種規制および自主基準を遵守します。

当社は、品質向上のために、設計・調達・生産・物流（ものづくりの品質）だけでなく、営業・施工・アフターサービス（販売・サービスの現場）も合わせ、お客さま満足を最優先した活動を進めています。

■ 豊かな暮らしを支える製品とサービス

2015年度現在、株式会社ノーリツ、および日本・海外の全グループ会社で、品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001の認証を取得し、品質改善に取り組んでいます。

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

サイト内検索

検索

[企業情報トップ](#) ▶ [CSRの取り組み](#) ▶ [品質](#) ▶ [豊かな暮らしを支える製品とサービスを提供する](#)

CSRの取り組み

● CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRトピックス

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

» 品質方針

» **豊かな暮らしを支える製品とサービスを提供する**

» 品質への取り組み

▶ 環境

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

豊かな暮らしを支える製品とサービスを提供する

豊かな暮らしを支える製品とサービスを提供する

私たちが追求する品質

お客さま満足を優先した品質マネジメント体制

豊かな暮らしを支える製品とサービスを提供する

「製品やサービスを通じて豊かな暮らしを提供する」ことが、ノーリツグループにとっての最大の使命です。

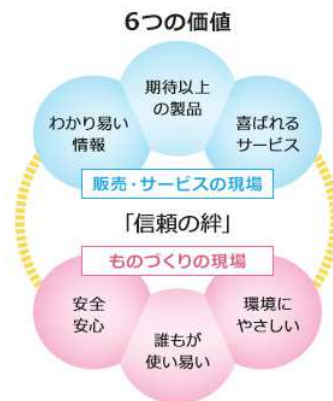
これを実現するためには、製品だけでなく、すべての企業活動でお客さま満足を最優先とした仕事をすることが重要です。

私たちは、「製品やサービスの品質を高める」「お客さまの声を事業活動に活かす」この2つのことを大切にしながら製品の開発から修理に至るプロセスで品質の向上をめざし、製品とサービスの可能性に挑戦しています。

[ページのTOPへ](#) ↑

私たちが追求する品質

ものづくりと販売・サービスの現場で6つの価値を追求することで品質の向上をめざし、お客さまとの信頼の絆を深めていきます。



● 販売・サービスの現場

製品の特徴や、安全にご使用していただくための情報などを、分かり易くお伝えすることを出発点として、お客さまの声に耳を傾け、対話を通して期待以上の製品や喜ばれるサービスを追求していきます。

● ものづくりの現場

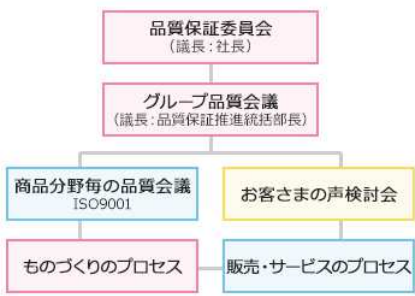
開発・調達・生産の各段階で品質を確保した製品をお客さまにお届けする。これが私たちの使命です。私たちが考える品質は、「安全であること」、「誰もが使いやすいこと」、「環境にやさしいこと」この3つが必要条件です。

[ページのTOPへ](#) ↑

お客さま満足を優先した品質マネジメント体制

グループ会社全体の品質保証業務を統括管理することで、今まで以上に、お客さま満足と品質の向上を達成できると考え、品質保証推進統括部長が議長を務める「グループ品質会議」を開

催しています。執行部門における業務改善を推進するとともに、お客さま接点窓口の専門性を高め、6つの価値を着実に実現していきます。



品質マネジメント体制図

企業情報	株主・投資家向け情報	CSRの取り組み	採用情報	製品に関する大切なお知らせ
トップメッセージ	IRニュース	トップメッセージ	お問い合わせ窓口一覧	製品を安全に、正しくお使いいただくために
企業理念・ビジョン	トップメッセージ	ノーリツグループのCSR		長期使用製品に関する制度などについて
企業データ	個人投資家、株主の皆様へ	国連グローバルコンパクト		グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
沿革	経営方針	エコ・ファーストの約束		その他、製品に関するご連絡、ご注意
企業姿勢・規範	業績・財務データ	3つの笑顔プロジェクト		
ノーリツグループ行動基準	IRライブラリー	CSRトピックス		
コーポレート・ガバナンス	株主情報	品質		
調達活動	IRイベント	環境		
企業スポーツ活動	電子公告	社会		
ノーリツチャンネル	よくあるご質問	ガバナンス		
	免責事項	第三者意見		
		国際的イニシアティブとの整合		
		報告書一覧		
		編集方針		

サイト内検索

検索

CSRの取り組み

CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRトピックス

▶ Q+ESGについて

品質

» 品質方針

» 豊かな暮らしを支える製品とサービスを提供する

» 品質への取り組み

▶ 環境

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

品質への取り組み

品質への思い	製品開発における品質向上への取り組み
生産品質向上への取り組み	品質管理の取り組み
営業品質向上への取り組み	物流品質の向上
お客さまサービス品質の向上	施工品質の向上
アフターサービス品質の向上	

品質への思い

ノーリツグループは、お客さまの快適な暮らしを支えるお湯を安心してお使いいただくために、品質保証、お客さま対応の専門部門を設け、設計品質、生産品質、施工品質、CS対応品質の向上に取り組んでいます。

設計・生産段階では主に、安全、高品質な製品をお届けできるように、さまざまな基準、指標、管理手法を用いた活動を進め、当社製品をお使いの国内約2,000万世帯のお客さまの生活を支えています。2015年度は、拡大する海外のお客さまに、さらに安全・安心な製品を提供すべく、安全基準の強化とグローバル化を図ります。国内では、当社コンタクトセンターに日々届くお客さまの声を、企業活動に反映し、製品・サービスの改善、不具合の未然防止、品質のスパイラルアップおよび、安全啓蒙につなげるよう努めています。

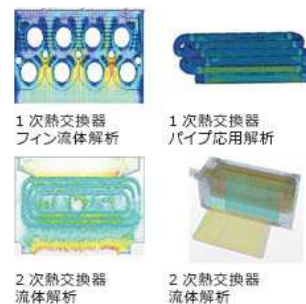
[ページのTOPへ](#)

製品開発における品質向上への取り組み

■ 数値解析の活用による信頼性の向上

数値解析の活用により温度上昇や応力の計算をおこない、十分な耐久性を確保した設計をおこなっています。また、潜熱回収用の2次熱交換器は、排気の流れと水管配列を数値解析により最適化することで、高い熱効率を達成しています。

数値解析を活用して設計をおこなった熱交換器も、実機に組み込み各種の耐久試験モード条件で確認試験を実施しています。



■ 3D(立体)プリンター活用による高品質な試作モデルの設計

3Dプリンターの活用により開発初期にさまざまな形状の試作・検討をおこない、高品質の部品の設計をおこなっています。例えばファン開発では、数値解析でも難しい高速回転体周辺の流れを、3Dプリンターモデルにて検証し、最適なファン形状を設計、より品質の高い給湯機器の開発につなげています。



■ 不具合の未然防止への取り組み

「お客さまに、当社の製品を安心してご使用いただく」ために、設計の早い段階から不具合の未然防止に取り組んでいます。潜在的な故障・不具合の体系的な分析方法等を用いて解析し、製品・部品を設計しています。特に設計上の変化点には注意を払い、関連部門の力を集結し、製品の限界を超えた場合の事態まで予測した不具合発生をなくすための論議を進め、安全・安心の品質を見極めて設計を進めています。



[ページのTOPへ ↑](#)

生産品質向上への取り組み

お客さまの信頼を得て、持続的な成長を果たすためには、生産品質の向上は必要不可欠の条件です。生産品質を向上させると、安定した生産が可能になるため、生産効率向上、標準化につながり、多品種、小ロットでも、お客さまの希望される納期どおりにお届けすることが可能になります。

このため、調達から生産、物流までのものづくりの現場の各工程で起きた事実を起点に、当社グループと取引先さまが丸となって真因を究明、全員で解決にあたっており、この取り組みが生産・物流品質向上の鍵と考えています。

拡大する海外の活動に対応することも視野に入れ、これからも生産品質向上に全員で取り組み、お客さまの安全・快適な生活を支える商品を提供していきます。

[ページのTOPへ ↑](#)

品質管理の取り組み

製品品質の安定・向上は、いかに不良・不具合の予兆を見つけるか、そして、経験した不良・不具合の失敗を、次に活かせるかがポイントとなります。ノーリツでは現在、予兆の発見活動として重要な寸法管理に加え、計測が難しい機能・性能ファクターを数値化し、定期的な監視や、ばらつきを防ぐ生産方法の検証をおこなっています。

また、不良・不具合に対して「なぜなぜ分析」を1つの方法として真因を解析・追及し、類似部品・類似加工等に横展開をおこなって再発を防止しています。

一方、過去の不具合事例や個人の知見・ノウハウを体系化し、全社で共有する手法;SSM(ストレス-ストレングスモデル)を導入し、不良・不具合の再発防止、未然防止する活動を強力に進めています。

このような活動はノーリツだけでなく、ノーリツグループ、協力会社を含め広範囲に展開して、品質向上に努めています。

2014年は、品質一般手法の「ばらつき」「QC七つ道具」「信頼性工学」、不具合解析手法の「なぜなぜ分析」「FMEA・DRBFM」など24コースを32回、延べ489名に研修をおこないました。

[ページのTOPへ ↑](#)

営業品質向上への取り組み

お客さま(ビジネスパートナー、エンドユーザー)との接点機会が多い営業部は、日々の活動そのものがCSにつながる部門です。ノーリツグループでは「個々の能力向上＝営業品質の向上」との考え方から人材教育を重要観点と捉え、従業員個人の営業品質向上を目的とした「能力開発プログラム」を実施。2014年度は全14支店で研修会を230回開催し、1,600名が取り組みました。

■ 能力開発プログラム

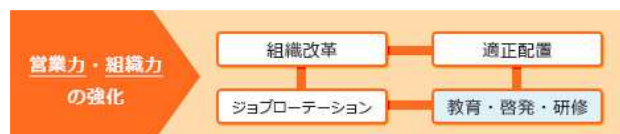
めざすべき営業品質

- ・お客さまとの接点部門として、お客さまの期待に対し、期待値以上で応えることをめざす
- ・顧客満足(CS)の最大化を、日々の営業活動を通じて実践する

取り組み事例

- ・従業員個人の営業品質(＝知識・提案力・マナーなど)向上をめざし、人材教育(＝能力開発プログラム)を継続して実施中です
- ・能力開発プログラムとは・・・

個人の能力開発に重点を置き、営業力(知識・現場力etc)向上を図る育成プログラムです(知識レベル確認 → レベルに応じた現場教育を実施)



今後の取り組み

- ・学習した知識やスキルを業務で活かすために、現場ベースでの実践的な教育機会を設定していく

物流品質の向上

物流システム部では、“お客さまに商品をタイムリーに適正なコストで丁寧にお届けする”をミッションとし、次のような取り組みに努めています。

■ 適正納期対応

パレット活用・ダイヤ運用

工場・倉庫から商品を出荷時にパレットを活用し、トラックへの積込時間を短縮するとともにダイヤに基づいて運行しています。また、配達店への到着時間を守るよう努めています。

■ 在庫品質の向上

ストア改善

先入れ先出しによる鮮度管理の徹底と、効率の良い倉庫の運用、出荷時の作業性の向上をめざし倉庫を改善しています。

■ 配送品質の向上

品質会議の定期開催

年3回合同品質会議を実施。各現場での取り組みや改善内容を発表し、事例や情報の横展開をおこない、品質向上に取り組んでいます。



構内品質会議



配送品質会議

運送会社への定期巡回

随時、運送会社のプラットホームの状況や荷扱いを訪問・視察し、問題点があればすぐに改善の検討を開始しています。意見交換もおこない、配送品質の向上に取り組んでいます。



運送会社への巡回視察

出荷拠点の整備

出荷拠点を集約し、全体の効率を上げるべく取り組んでいます。

フォークリフトコンテストの開催

大型商品や異型商品の取り扱いが増えている中、コンテストを通じて、安全と物流品質の向上をねらいとし、さらなる荷扱いの品質アップと、日々の出荷ダイヤ遵守のため時間内での作業完了が求められていることを踏まえ、競技内容を決定しています。



フォークリフトコンテスト

積載率向上への取り組み

トラックの台数を削減してトラック不足を補うとともに、コスト低減・環境保全への貢献をめざし取り組んでいます。

人材教育／改善提案強化

常に改善を意識して、改善提案の提出を奨励しています。部門内で年間表彰を実施し、意識の向上も図っています。

お客さまサービス品質の向上

ノーリツグループでは、お客さまのお問い合わせやご意見を真摯に受けとめ、ものづくりや各種サービスに活かすことにより、お客さまとの信頼関係に向上につなげています。この為、お客さまと電話・FAX・メール・お手紙にて直接的に接点のあるコンタクトセンターにおいては、特にお客さまサービス品質を左右する電話応対について、その品質向上に向けた以下の取り組みをしています。

■ 電話応対技能資格取得

公益財団法人日本電信電話ユーザー協会が認定している「電話応対技能検定(もしもし検定)」の資格取得を、会社として推奨しており、現在、指導者級含め多数の資格取得者が在籍しています。

■ 電話応対研修の充実

電話応対技能検定の資格取得者が講師となり、新人の電話応対者からベテランの電話応対者まで、そのレベルに合わせた電話応対研修を、計画的に実施しています。

■ お客さまとの会話録音による指導・育成

お客さまとの会話を録音することにより、適宜、応対内容の品質を確認するとともに、定期的に、応対品質チェックをおこない、改善点のフィードバックをおこなっています。

■ 電話応対コンクールへの積極参加

公益財団法人日本電信電話ユーザー協会が毎年主催している電話応対コンクールと企業電話応対コンテストに、多数の電話応対者が参加し、電話応対力を競っております。都道府県代表が競う「電話応対コンクール全国大会」において、近年2人の優秀賞受賞者を出しています。



電話応対コンクールの
2013年全国大会に出場した当社従業員

[ページのTOPへ](#)

施工品質の向上

■ 指定施工店認定制度

指定協力施工店の社員対象にマナー・安全に関する教育を実施し、その後、設置業務分野別に下記の認定研修を受講。修了後、受講者には研修の種類が裏書された施工IDが発行されます。

明石本社工場内の新エネルギー研修センターおよび東京研修センターにて認定研修(有料)を実施しています。

- ・システムバス設置認定研修
- ・システムキッチン設置認定研修
- ・温水給湯器設置認定研修
- ・温水システム設置認定研修

■ システムバス設置登録店制度

お得意さまのシステムバス自社設置の品質向上を図るために自社設置される店として登録して頂き、その後、実務者の方にシステムバス設置認定研修を実施しています。

- ・システムバス設置認定研修

■ 太陽熱温水システム・太陽光発電システム施工認定研修

太陽熱温水システム・太陽光発電システムの設置技術者を育成、認定技術者の設置を条件に当社の太陽光発電システムを販売しています。また、明石本社工場内の新エネルギー研修センターおよび東京研修センターにて認定研修(有料)を実施しており、修了後、受講者にはPV施工IDが発行されます。



施工研修

[ページのTOPへ](#)

アフターサービス品質の向上

ノーリツグループでは、自社修理受付の修理対応の品質向上として、「サービスマン認定制度」と「サービスマン技能コンテスト」をおこなっています。

「サービスマン認定制度」ではサービスに必要なノウハウの研修を受講し、合格した証として「サービスマン認定証」を発行しています。

また、サービスマンの技術、対応、提案力をレベルアップすることをめざす、「サービスマン技能コンテスト」もおこなっています。

2013年は関東・関西・中部・中四国・九州の各地区で予選をおこない、初めとなる全国大会も開催しました。次回は2015年の予定です。

一方、販売店さまへは、同じくアフターサービス品質向上をめざした研修として、「ノーリツスクール」を開催しています。





サービスマンコンテストの様子

企業情報	株主・投資家向け情報	CSRの取り組み	採用情報	製品に関する大切なお知らせ
トップメッセージ 企業理念・ビジョン 企業データ 沿革 企業姿勢・規範 ノーリツグループ行動基準 コーポレート・ガバナンス 調達活動 企業スポーツ活動 ノーリツチャンネル	IRニュース トップメッセージ 個人投資家、株主の皆様へ 経営方針 業績・財務データ IRライブラリー 株主情報 IRイベント 電子公告 よくあるご質問 免責事項	トップメッセージ ノーリツグループのCSR 国連グローバルコンパクト エコ・ファーストの約束 3つの笑顔プロジェクト CSRトピックス 品質 環境 社会 ガバナンス 第三者意見 国際的イニシアティブとの整合 報告書一覧 編集方針	お問い合わせ窓口一覧	製品を安全に、正しくお使いいただくために 長期使用製品に関する制度などについて グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意 その他、製品に関するご連絡、ご注意
				サイト内検索
				検索

CSRの取り組み

▶ CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRトピックス

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

» 環境経営

» 製品を通じた環境負荷低減

» 事業活動を通じた環境負荷低減

» 生物多様性保全

» 環境保全活動データ

» 環境コミュニケーション

» SDS(安全データシート)

» 家電リサイクルの実績

» 家庭でのCO₂が分かります(環境家計簿)

» 第三者検証

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

環境



環境経営

「きれいな地球を次の世代へ」をスローガンに、グループ全体で地球環境保全活動に取り組んでいます。

製品を通じた環境負荷低減

「持続可能な社会」の実現に向け、環境技術・ものづくりを通じてグループ全体で貢献しています。

事業活動を通じた環境負荷低減

CO₂の排出量削減、省エネルギー活動、廃棄物の削減と資源循環の推進、環境汚染の予防・防止に継続的に取り組んでいます。

生物多様性保全

将来に渡って「生態系サービス」と呼ばれる恩恵を受けられるよう、生物多様性を守る取り組みを進めています。

環境保全活動データ

環境保全活動に取り組むと同時に、CO₂排出量、エネルギー使用量などの関連データを公開しています。

環境コミュニケーション

環境ワークショップや廃棄物研修、eco検定など社内外でさまざまな環境コミュニケーションをおこなっています。

SDS(安全データシート)

化学製品の性質を正しく理解し、安全な取り扱いや作業場に表示していただくための取扱説明書をご準備しています。

家電リサイクルの実績

再商品化等を実施した状況を、特定家庭機器再商品化法(家電リサイクル法)に基づき公開しています。

家庭でのCO₂が分かります(環境家計簿)

家庭で使用するエネルギーから排出されるCO₂、樹木が吸収してくれる汚染ガス量と樹木数が計算できるweb家計簿です。ご自由にお使いください。

第三者検証

2013年度の温室効果ガスの排出量の正確性について第三者検証を受けています。

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

CSRの取り組み

① CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRTピックス

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

» 環境経営

» 製品を通じた環境負荷低減

» 事業活動を通じた環境負荷低減

» 生物多様性保全

» 環境保全活動データ

» 環境コミュニケーション

» SDS(安全データシート)

» 家電リサイクルの実績

» 家庭でのCO2が分かかります(環境家計簿)

» 第三者検証

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

環境経営

環境理念・環境基本方針	年間CO2排出量
重点課題	エコ・ファーストの約束
環境会計(ノーリツ独自)	環境経営推進体制
環境管理システムの構築	リスクマネジメント

環境理念・環境基本方針

私たちは「きれいな地球を次の世代へ」をスローガンに、環境管理システムを構築し、環境負荷低減をはじめとした具体的な計画をもとに、ノーリツグループ全体で地球環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

環境理念

私たちは、良き企業市民として循環型社会の実現をめざし、あらゆる企業活動において地球環境保全に積極的に取り組みます。

スローガン

～きれいな地球を次の世代へ～

環境基本方針

1. 環境管理システムの構築

環境管理システムを構築し、継続的改善を図ることで社会責任を果たします。

2. 製品および事業活動において環境負荷低減

製品および事業活動において、環境へ配慮し、地球温暖化の防止、省資源、有害物質・廃棄物削減・生物多様性の保全など、環境負荷の低減をおこない、循環型社会の実現に貢献します。

3. 環境リスクの低減

環境関連法規の遵守はもとより、企業として社会的責任を自覚した自主基準を設け、環境リスクの低減、汚染の予防に努めます。

4. 環境コミュニケーションを通じた環境保全活動の推進

環境教育を通じて一人ひとりの環境意識の向上を図り、地球環境問題の深刻化を認識するとともに良き企業市民として社会・地球における環境保全活動を実施していきます。

ページのTOPへ 

年間CO2排出量

ノーリツグループは、約3.7万tonの資源と各種エネルギーを投入し、ライフサイクルを通して約1,260万tonのCO2を排出しています。これは日本全体のCO2排出量約13.95億ton※に対して約1%を占めていることになります。

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバル・コンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRTピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

製品のライフサイクルの年間CO₂排出量合計



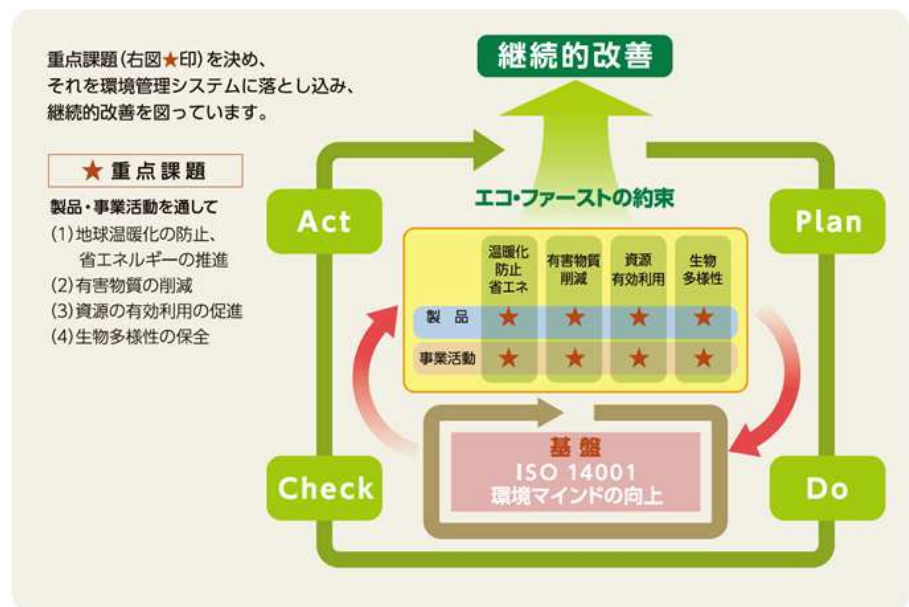
当社のガス・石油給湯機器の国内シェアは約40%であり、約2,000万世帯のお客様に当社製給湯機器をお使いいただいています。

[ページのTOPへ](#)

重点課題

■「エコ・ファーストの約束」を策定

ノーリツグループは、「企業の成長」と「環境推進」の両立をめざした「エコ・ファーストの約束」を策定しています。



[ページのTOPへ](#)

エコ・ファーストの約束

[ページのTOPへ](#)

環境会計(ノーリツ独自)

■ 説明

ノーリツでは、「エコ・ファーストの約束」に関連する項目を、経済的側面からも測定しています。「製品を通じて低炭素社会の構築～」ではお客様の使用時における経済削減効果、「事業活動を通じて低炭素社会の構築～」では各エネルギー使用の経済削減効果、「資源循環型社会の構築～」では廃棄物処理費用の経済削減効果を測定しています。これらの効果を測定することにより、お客様のより豊かな暮らしやノーリツグループの経営基盤の強化へと繋げていく考えです。

■ 環境会計 経済効果

製品的环境配慮による経済効果は約79億円

2014年販売の高効率温水機器(潜熱回収型等)、創エネルギー機器(太陽熱利用機器、太陽光発電システム等)の環境配慮商品を使用することで、お客様が得られた経済効果(節約額)は、約79億円になりました(対2000年)。お客様の使用をモデル化した推定による算出結果です。

※計算根拠(2014年11月時点データ)

2000年と2014年の各製品群を代表する機種の平均熱効率を基にその差による1年間の燃料代の節約額と販売台数から算出

ガス料金：東京ガス株式会社 一般契約料金B表
 基本料金：¥1,026円／月、基準単位料金：¥154.18／m³
 電気料金：東京電力株式会社 従量電灯B プレーカー容量50A
 基本料金：¥1,404／月、基準単位料金：¥25.91円／kWh
 灯油料金：資源エネルギー庁
 全国平均配達価格：¥110.67／L（2014年11月10日）

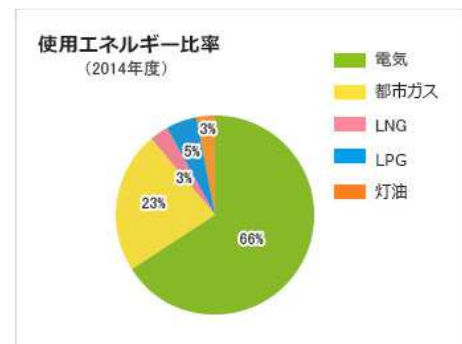
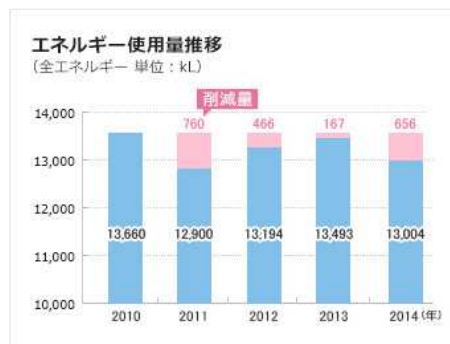
※発熱量

都市ガス：12.5kWh／m³
 灯油：10.19kWh／L

■ CO₂削減(エネルギー削減)

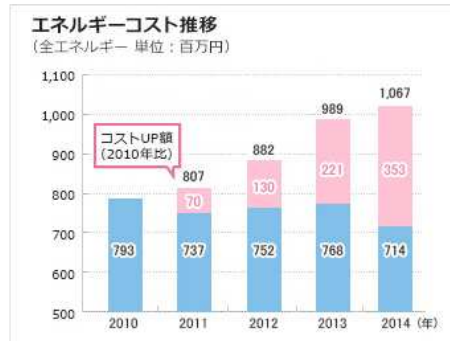
事業活動を通じたCO₂削減(エネルギー削減)においては、CO₂削減量の目標値だけでなく、エネルギー削減によるエネルギーコストについても指標を設けて経済的効果についても測定し、把握しています。

2011年以降は、エネルギー単価の急騰により、コストは年々増加しており、2014年度もエネルギー使用量は削減したものの、コストは大幅に増加しました。エネルギーコストの経営への影響は、今後も非常に大きくなるため、エネルギーコストの削減＝利益の創出という観点で取り組んでいきます。



原油換算：各種エネルギーを共通の単位を用いて比較するため、原油量に換算すること。

原油換算値 (kL) = 使用量 (O) × 各エネルギーの単位発熱量 [GJ / O] × 0.0258 (原油換算係数 [kL / GJ])



■ 廃棄物削減

国内の生産活動に伴い発生する廃棄物の排出量について、ノーリツグループでは「エコ・ファーストの約束4」で、「事業所外に排出する量を2016年までに60%以上削減すること」をめざすと宣言しています。この宣言に基づいて日々努力を重ねています。

廃棄物の排出量を減らし、資源循環型社会への貢献を進めていく中で、処理費用の削減という効果も出てきます。費用面での効果として、2014年は、廃棄物排出量としては2013年より508ton削減できましたが、処理費用は2013年と同レベルでした。処理単価の低い廃棄物が削減でき、処理単価の高い廃棄物の削減が進まなかったためです。2015年は廃棄物の分析を進め、適正な処理をおこないながら処理費用削減を検討していきます。

[ページのTOPへ](#)

環境経営推進体制

ノーリツグループにおける環境保全活動の重要実施計画は、社長が主催する「CSR委員会」で審議・決定されます。ここで決定された「エコ・ファーストの約束」は、各執行部門の課題に落とし込まれ、活動の結果がフィードバックされる仕組みになっています。また、執行部門をまたがる個々の重要な課題に対しては、CSR・環境推進室が中心となって、グループ会社も入り、環境会議やワーキンググループを設けてPDCAサイクルを回しています。



環境会議



[ページのTOPへ](#)

環境管理システムの構築

ノーリツは、グループ全体の環境管理システム(EMS)を構築し、PDCAを繰り返し回すことで環境先進企業としての体質強化を図っています。

■ ノーリツグループの環境管理システムの認証取得状況(2015年3月末時点)

ISO14001（ノーリツ）			ISO14001（グループ会社）		
生産事業所	NAM事業所	1997年 3月	生産事業所 （国内）	信和工業(株)	2000年 3月
	加古川事業所	1999年 6月		第一電子産業(株)	2000年 3月
	明石事業所	2000年 3月		(株)アールビー神立工場	2001年 2月
事務系	ノーリツ本社	2015年 3月		(株)アールビーつくば事業所	1999年 6月
	西新町事業所	2004年 4月		(株)ハーマン	1999年 11月
				(株)多田スミス	2002年 1月
				関東産業(株)前橋事業所	2004年 11月
				大成工業(株)本社工場	2004年 2月
				大成工業(株)播磨第二工場	1999年 11月
				大成工業(株)播磨第三工場	2006年 12月
				大成工業(株)稲美工場	2004年 2月
				(株)エスコアハーツ	2010年 10月
			生産事業所 （海外）	能率(中国)投資有限公司	2010年 3月
				能率(上海)住宅設備有限公司	2010年 3月
				東莞大新能率電子有限公司	2007年 3月
				櫻花衛厨(中国)股份有限公司	2008年 6月
				佛山市櫻順衛厨用品有限公司	2014年 5月

■ 内部環境監査員講習会

ノーリツグループでは、社内外の内部環境監査員講習会の受講により内部環境監査員の資格を取得しています。
現在、515名の内部環境監査員が、環境改善に関する知識をもって内部監査にあっています。
2014年度は2回実施し、45名が新監査員として登録しました。



監査員講習会の様子

2014年4月中国の東莞大新能率電子有限公司で、日本人社内講師による講習会をおこない、15名を新監査員として登録しました。
登録された新監査員は、今後環境管理システムを運用していくうえで中心的な役割を果たしていきます。



講習会の様子(中国)



新監査員(中国)

■ 内部環境監査、マネジメントレビュー、外部認証機関による審査、実施状況

ノーリツグループでは、毎年内部環境監査員による環境監査を実施し、マネジメントレビューを経て外部認証機関による審査を受けています。指摘された不適合、改善事項は速やかに是正し、継続的な改善に取り組んでいます。



マネジメントレビュー(生産事業所)



外部認証機関による審査(現地視察)

■ 緊急事態への準備および対応

環境に著しい影響、または有害な影響を及ぼすおそれのある潜在的な緊急事態に



緊急時に備えて設備点検と実地訓練

は、どのようなことが起こり得るかを明らかにし、そうした事態が発生した場合の対応手順を予め作成し、定期的に訓練をおこなっています。

地域の土壌・水域・大気を汚さないよう油漏れ・化学物質の流出防止、火災発生を想定した人命救助など多岐にわたる準備・訓練を実施しています。

[ページのTOPへ](#)

リスクマネジメント

■ 環境汚染防止

ノーリツグループは、環境汚染の防止については、環境関連法規制および関連基準を遵守しており、ISO14001に基づいた遵守評価も実施し、環境リスクの低減、環境汚染の予防に努めています。

当社グループは主な環境汚染リスクを、以下の7項目に定義しています。

「有害物質の流出」「土壌汚染」「水質汚濁」「大気汚染」「騒音・振動」
「廃棄物の不適正処理・違法投棄・越境異動」「地球温暖化(CO₂の排出)」

2014年は、環境リスクについて「チェックリスト」を作成し、運用を開始しました。セルフチェックの結果より、問題点を把握していきます。また、国内生産事業所の「廃棄物処理フロー」を作成し、廃棄物の流れを見える化しています。

「地球温暖化(CO₂の排出)」については、生産事業所のエネルギーの使用状況を詳細に調査し、見える化することにより、今後のCO₂削減対策に活用していきます。

企業情報

[トップメッセージ](#)
[企業理念・ビジョン](#)
[企業データ](#)
[沿革](#)
[企業姿勢・規範](#)
[ノーリツグループ行動基準](#)
[コーポレート・ガバナンス](#)
[調達活動](#)
[企業スポーツ活動](#)

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

[IRニュース](#)
[トップメッセージ](#)
[個人投資家、株主の皆様へ](#)
[経営方針](#)
[業績・財務データ](#)
[IRライブラリー](#)
[株主情報](#)
[IRイベント](#)
[電子公告](#)
[よくあるご質問](#)
[免責事項](#)

CSRの取り組み

[トップメッセージ](#)
[ノーリツグループのCSR](#)
[国連グローバルコンパクト](#)
[エコ・ファーストの約束](#)
[3つの笑顔プロジェクト](#)
[CSRトピックス](#)
[品質](#)
[環境](#)
[社会](#)
[ガバナンス](#)
[第三者意見](#)
[国際的イニシアティブとの整合](#)
[報告書一覧](#)
[編集方針](#)

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

[サイト内検索](#)

[検索](#)

CSRの取り組み

CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRTピックス

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

» 環境経営

» **製品を通じた環境負荷低減**

» 事業活動を通じた環境負荷低減

» 生物多様性保全

» 環境保全活動データ

» 環境コミュニケーション

» SDS(安全データシート)

» 家電リサイクルの実績

» 家庭でのCO2が分かります(環境家計簿)

» 第三者検証

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

製品を通じた環境負荷低減

製品・サービスの環境配慮

製品・包装における資源の有効利用

海外での省エネルギー機器

製品の省エネルギー・地球温暖化防止

製品の環境負荷低減とサプライチェーン

製品・サービスの環境配慮

地球規模での環境問題がますます深刻化し続けている中で、日本では、2011年に発生した東日本大震災・福島第一原子力発電所の事故を受けて、化石燃料による電力確保を優先すべき事態にもなっており、温室効果ガス削減目標と現実とのギャップがますます拡大しています。

ノーリツグループは、「持続可能な社会」の実現に向け、その三要素である「低炭素社会」、「循環型社会」、「自然共生社会」の構築に、環境技術・ものづくりを通じて貢献しています。そのために、「地球温暖化の防止」「資源の有効利用」「環境汚染の予防」の3つの視点を軸に、製品ライフサイクルのすべてのステージで環境負荷を低減した製品づくりを推進します。



製品ライフサイクルでの環境配慮

当社では、ライフサイクル全体での環境負荷総量を可能な限り小さくし、機能や経済性などすべてに満足していただける商品をお届けできるよう、技術開発や商品の企画・設計段階から製品を廃棄する段階まで、製品の一生を考えて全体最適に取り組んでいます。

1つの環境性能の向上がコベネフィット(相乗便益)を生み出せば問題ありませんが、トレードオフの関係になる場合も多く、社会状況で優先度も刻々と変化するため、ライフサイクルにわたる各環境性能の総合的な評価結果に基づき、いかに重み付けをおこなって判断するかがさらに重要になっています。

ライフサイクル・シンキング

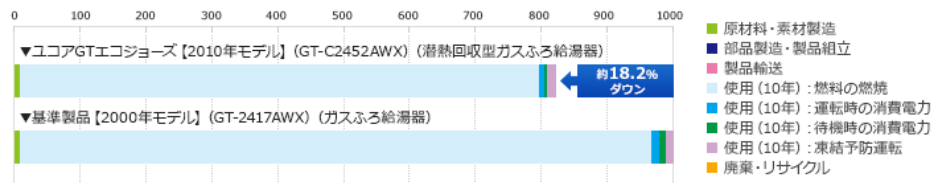


各ライフステージの私たちの取り組み

目指す社会 目的と視点	原材料や部品・ 製品をつくる段階	製品を お届けする段階	製品のご使用段階	製品を 廃棄する段階
低炭素社会 地球温暖化の防止 ・省エネ・創エネによるCO ₂ 削減	●省資源、材料選択による工場の省エネ	●小型・軽量化による輸送便の省エネ、モーダルシフト	●熱効率の向上、潜熱回収 ●太陽熱利用、太陽光発電 ●断熱性能の向上 ●節水・節湯 ●省エネ・CO ₂ の見える化	●省資源、材料・構造配慮による処理工程の省エネ
循環型社会 資源の有効利用 ・省資源とリサイクルの推進	●省資源化設計(軽量化・小型化) 再生材利用 リユース設計(包装)	●省資源包装 ●リターナブル包装	●長寿命化(耐久性、交換性・可変性、点検・修理保証プラン)	●リサイクル対応設計(処理容易化、再生資源化)
自然共生社会 環境汚染の予防 ・汚染リスクの低減と生物多様性への配慮	●新たに採取する資源の使用削減による自然破壊軽減 ●エコ材料の採用による工場内外の汚染予防	●小型・軽量化による輸送時の大気汚染軽減	●大気汚染防止(低NOx) シックハウス(VOC)対策 温暖化対策による生態系への影響軽減	●有害物質対応(水質・土壌汚染防止)

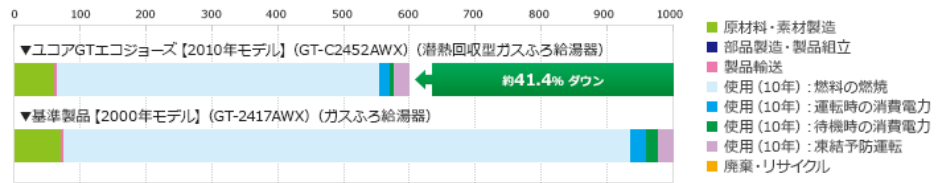
温暖化負荷 (CO₂排出量) 削減例：基準製品のCO₂を1000として指数化

現在では、2000年モデルと比較して、18.2%の削減になっています。



酸性化負荷 (NO_x・SO_x排出量) 削減例：従来製品の排出量 (SO₂換算) を1として指数化

現在では、2000年モデルと比較して、41.4%の削減になっています。



- ・当社では、LCA評価により、従来製品と比較した相対的な環境負荷の改善を把握することを目的としているため、評価結果は指数で表示しています。また、使用期間10年のライフサイクル全体で捉えると、CO₂はtonレベル、NO_x・SO_xはkgレベルで排出されますので、CO₂では従来製品を1000、NO_x・SO_xでは従来製品を1とした指数で表示しています。
- ・使用段階での環境負荷は、当社LCA評価基準に定めたモデルによる10年間の試算結果です。(東京地区、世帯人数は全国平均想定)
- ・酸性化負荷は、LCA国家プロジェクト(独)産業技術総合研究所ライフサイクルアセスメント研究センターが開発した手法「LIME2」に基づき、0.72×NO_x+SO_xで統合化(SO₂換算)しています。

[ページのTOPへ](#) ↑

製品の省エネルギー・地球温暖化防止

■ 製品によるCO₂排出量の削減(温水機器・太陽エネルギー利用機器)

ノーリツグループの設備機器がそのライフサイクルで排出する温室効果ガス(CO₂)は、大部分が使用段階から排出されます。ノーリツグループでは、低炭素社会の構築に向け、お客さまの快適性・利便性を損なうことなく、各世帯の住まい方の実情に合わせた温暖化対策と節電・ピーク電力対策に貢献する多様な設備機器を提供できるよう、高効率温水機器のラインナップの拡充と更なる性能向上に取り組むとともに、再生可能エネルギー利用機器(太陽熱利用システム)等の商品開発に取り組んでいます。

高効率温水機器で省エネ・CO₂削減(例)

温水機器分野では、2014年も積極的に潜熱回収型温水機器のラインナップの拡充をおこない、拡販に努めてきました。また、給湯一次エネルギー効率トップレベルの125%※を実現した戸建住宅用「ハイブリッド給湯・暖房システム」を2013年に発売しました。業界で初めて「ノンフロン冷媒」を採用し、ヒートポンプ技術を使用した空気の熱と高効率ガス給湯器のガスエネルギーを利用することで、エネルギー効率を高め、CO₂排出量削減に貢献する商品です。

※給湯使用による効率(暖房使用は除く)「住宅事業建築主の判断基準」6地域の条件を参考に当社調べ。

ECOジョーズ ガス潜熱回収型 給湯器／ふろ給湯器／給湯暖房機



ガスふろ給湯器
GT-C**52シリーズ

給湯熱効率
80%⇒95%
ふろ熱効率
75%⇒92%

CO₂削減量
190kg
(/台/年)

ふろも高効率で“2つのエコ”



ガスふろ給湯暖房機
GTH-C**49シリーズ

給湯熱効率
80%⇒95%
暖房熱効率(低温、高温)
80%⇒89%, 85%

CO₂削減量
252kg
(/台/年)

[詳細はこちら](#)

[詳細はこちら](#)

エコフィール



石油ふろ給湯器
OTQ-C4704AY

給湯熱効率
83%⇒95%

CO₂削減量
188kg
(/台/年)

[詳細はこちら](#)

ECO-WILL エコウィル

家庭用ガスエンジン
コージェネレーション
システム



ハイブリッド給湯・暖房システム

HYBRID

**ハイブリッド
給湯・暖房システム**

給湯一次エネルギー効率
125%※

※「住宅事業建築主の判断基準」
6地域の条件を参考に当社調べ。
給湯使用のみ

CO₂削減量
309kg
(/台/年)

[詳細はこちら](#)

太陽エネルギー利用で創エネルギー・CO₂排出量削減(例)

**太陽熱利用
ガスふろ給湯システム
VFシリーズ**

※集熱面積6㎡での値

CO₂削減量
579kg
(/台/年)

[詳細はこちら](#)

**太陽光発電システム
PVMDシリーズ(多結晶)**

太陽電池モジュール パワーコンディショナ

CO₂削減量
2,162kg
(/4kW/年)

[詳細はこちら](#)

■ CO₂・省エネ情報の「見える化」と運転制御による省エネ(温水機器・太陽エネルギー利用機器)

家庭から排出されるCO₂の削減は、我慢の省エネではなく、持続可能な対策が不可欠です。メーカーとして、機器の省エネ性能向上に最優先で取り組むとともに、お客さまが十分だと感じていただける範囲で稼働し、必要以上のエネルギー使用を抑えることも大切です。

ノーリツグループでは、お客さまが、無理なく・楽しく・自然に、省エネに配慮した使い方をされ、その削減状況を確認していただけるよう、各種のナビゲーション機能を搭載したリモコンと対応機種種のラインナップ拡大を図っています。お客さまが能動的に設定できる各種の省エネ運転モードの搭載も進め、運用面での省エネ・CO₂削減行動をサポートします。

省エネナビゲーション機能搭載(例)

ノーリツグループでは、お客さまに情報を提供する際の、分かりやすさ・丁寧さ・確認のしやすさ・即時性などを考慮し、ナビゲーション機能の改善を進めています。家庭内のエネルギー使用量(ガス／灯油・水・電気)をお客さまに大きな費用負担をお掛けすることなく「見える化」し、お客さまの省エネ意識の醸成と省エネ行動を支援するよう取り組んでいます。

「省エネナビゲーション表示」

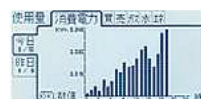
日間・月間・年間単位で、エネルギー使用量・使用料金を数値・グラフで表示



ガスの使用量比較
(対前年/前月)



昨日の光熱費表示



グラフによる消費電力表示例

表示例

RC-C001シリーズ浴室リモコンの表示部分を例として説明しています。



「エネ速報表示」
文字でのエネルギー使用量をリアルタイム表示

「アニメーション表示」
種類のキャラクターで節約状況を表示

オーバー

小

節約金額

大

省エネモード機能搭載(例)

・エコスイッチ・オンで、以下の省エネモードに設定されます。

※機種により、機能の一部がないものがあります。

・給湯運転

出湯量を制限(8L/10L/12L/制限無)

(量はお好みで設定できます)

・ふろ自動保温運転

ふろ設定温度の-1℃で保温

・床暖房運転

床暖房の温水を通常より-5℃で運転

・給湯運転

設定温度の-1℃で出湯

・ふろ自動お湯はり

設定水位より若干少ない湯量で自動ストップ

全自動タイプ：約-1cm

自動タイプ：約-10L

・最適ふろ自動

通常の自動保温運転よりも少し長めの間隔で追いだき



RC-D112E マルチリモコンで説明しています。

■ 待機時消費電力の削減

温水機器は、安全監視・制御・通信などの機能上、待機時消費電力が不可欠ですが、ノーリツグループでは早くから待機時消費電力の削減に取り組み、業界自主基準(2008年度目標)達成はもちろん、更なる低減に向けて取り組んでいます。

現在では、販売製品1台当たりの年間待機時消費電力量(加重平均)は、2000年度に対し50%削減しています。中には90%を上回って削減した製品もあります。

ガスふろ給湯暖房機での待機時消費電力削減(例)



(注) 待機時消費電力値は、業界JIS自主基準(JGKAS C702)に基づく。

■ 製品によるCO₂排出量の削減例(バスルーム)

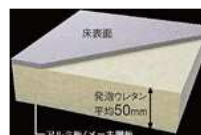
ノーリツグループでは、お客さまの快適性・利便性を追求し、かつ、エネルギー使用の削減に寄与する製品をお届けするよう、「環境と人」をテーマに技術開発と商品設計に取り組んでいます。



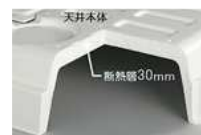
[詳細はこちら](#)



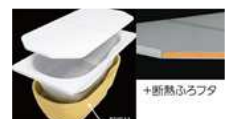
断熱壁



断熱床



断熱天井



断熱浴槽+断熱ふろフタ

■ 製品によるCO₂排出量の削減例(キッチン)

ノーリツグループでは、お客さまの快適性・安全性を追求し、システムキッチンや調理機器(コンロ・食洗機・等)、洗面化粧台の機能・デザイン・操作性等の向上に努めるとともに、省エネ・節水に配慮し、エネルギー使用の削減に寄与する製品をお届けするために、技術開発と商品設計に取り組んでいます。

節水・節湯水栓の採用

・「手元止水+小流量」対応の「タッチ式グーネスネック水栓

※」を採用



高効率ガス調理機器の搭載

・高効率ガスピルトインコンロ

S-Blinkシリーズ、i-SELECTシリーズ、他

節水型食器洗い乾燥機の搭載

・節水型スライド式食器洗い乾燥機

FB4515シリーズ(食洗機ありプラン:標準仕様)



CO₂削減量
128kg
(/台/年)

一般シングルレバー水栓比

「節湯AB」
節水率 約26%
(省エネ法上の設定値)

[詳細はこちら](#)



[詳細はこちら](#)



庫内容量40L
(約5人用)

■ 製品によるCO₂排出量の削減例(洗面化粧台)

節水・節湯水栓の採用

Cubo

キューボシリーズ <標準仕様>



微細シャワー

CO₂削減量
41kg
(/台/年)

一般シングルレバー水栓比

節水率 約20%

[詳細はこちら](#)

[ページのTOPへ](#)

製品・包装における資源の有効利用

持続可能な資源循環を実現し、循環型社会を構築するためには、社会全体での最適化を図るよう取り組まなければなりません。省資源化設計(小型・軽量化)は、低炭素社会や自然共生社会の構築にも間接的に貢献する最もコベネフィット(相乗便益)を生み出しやすい取り組みの一つですが、自社の事業範囲だけでなく上下流のサプライチェーンを見据え、資源利用全体の実像を考慮して取り組む必要があります。

一方、再生材(再生資源)の利用等の取り組みは、それ以上の総合的な判断が不可欠であり、ライフサイクル全体での評価に基づいた広範囲な視点で、自社製品が廃棄された後の再資源化と再生資源の利用の推進に取り組む必要があります。

ノーリツグループの製品は、長寿命と高い安全性が要求される住宅設備機器が中心であることから、実効性を検証しつつ、ステップ・バイ・ステップで製品の3R対応設計を推進しています。また、製品の包装材においても、リターナブル包装等の3R対応を推進しています。



■ リターナブル包装(温水機器)

ガス温水機器

ガス温水機器では、2002年からリターナブル包装を導入しました。これは、包装設計と各種試験により適正形状を追求することで、衝撃吸収性と回収輸送性を両立した薄肉の樹脂成形部材(上下トレイ)を開発することに成功し、従来の段ボールと緩衝材を代替したものです。販売・施工会社様のご協力により、施工現場より上下トレイ(および一部機種のフロント保護材)を回収して再使用(リユース)しています。

現在、一部ハウスメーカーさま・ガス会社さま向けに使用しており、2013年までは毎年着実に増加していました。2014年のリターナブル包装製品の出荷台数は、2005年比では約7.2倍となり、2013年より出荷台数は減少しました。消費税の税率アップ等の影響による需要の減退によるものです。ガスふろ給湯暖房機では2014年の出荷台数全体の約13.6%がリターナブル包装になっています。今後も採用拡大に向け取り組んでいきます。

ガス温水機器リターナブル包装例(シュリンク包装)



ガス温水機器リターナブル包装製品の出荷台数の推移 (対2005年比)



[ページのTOPへ](#)

製品の環境負荷低減とサプライチェーン

■ 製品における環境負荷物質低減の取り組み

当社グループは、化学物質管理システムの構築と情報開示、化学物質監査等によるグリーンサプライチェーンの強化に取り組んでいます。

製品における有害物質低減については、「ノーリツグループ環境負荷物質管理指針」※1に基づいて化学物質の管理をおこない、有害物質対応商品(GP対応商品)※2の開発に取り組むことにより、その販売構成比の拡大を図っています。

この取り組みは、取引先だけでなく、購買・設計・製造・営業といった当社の事業活動を含めたサプライチェーン全体で推進しています。2014年は、「ノーリツグループ環境負荷物質管理指針」の見直しを開始しました。また、それに沿って化学物質管理の整備のためにワーキンググループを発足させて、業務フロー、情報開示方法等を検討しています。

2015年は、これを推し進めて「ノーリツグループ環境負荷物質管理指針」の改訂と、この指針に基づいた化学物質管理を行なっていきます。

※1 ノーリツグループ環境負荷物質管理指針：2005年2月に制定。

※2 有害物質対応商品＝GP対応商品：RoHS指令※3対象6物質に当社独自の13物質



を加えた19物質を基準濃度以下にした商品。温水機器、厨房機器、ソーラー機器、暖房機器、コージェネレーション機器が対象。

※3 RoHS 指令：電気・電子機器に含まれる特定の化学物質の使用を禁止するEU（欧州連合）の指令。2006年7月施行。対象物質は、鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、特定臭素系難燃剤2種。温水機器、厨房機器は当社グループにおける自主的な取り組み。

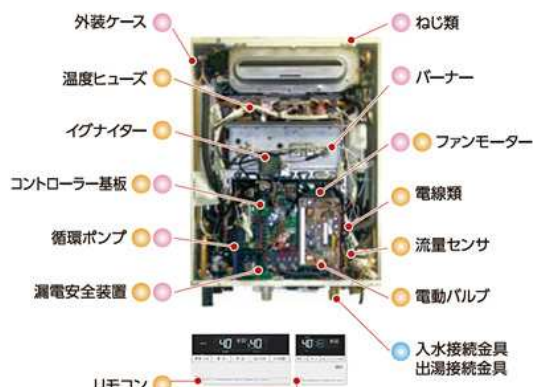
禁止物質の不使用を保証する仕組み

禁止物質の不使用を保証する仕組みとして、取引先における仕組み構築を中心とし、受け入れ段階で以下の①から⑤の管理を行っています。それにより「継続的な有害物質不使用保証」を行っています。

- ①取引基本契約の締結
- ②取引先での体制・手順の明文化
- ③GPネットによる物質管理
- ④化学物質監査の実施
- ⑤有害物質の分析（データの信頼性確認）

■ 有害物質低減の具体例

物質の低減箇所（ガスふろ給湯暖房機の例）



2014年度 GP対応商品一例



物質名および低減方法

鉛

鉛フリーはんだ、鉛フリー電線、鉛フリーの材料等を採用することで低減しています。

カドミウム

黄銅材料は低カドミウム材に変更しています。

六価クロム化合物

メッキ銅板やねじのメッキは、三価クロム系へのメッキ液の置き換えを主体に、六価クロムフリーメッキに置き換えています。

[ページのTOPへ](#)

海外での省エネルギー機器

省エネ意識が高まっている米国・カナダ市場では、従来の貯湯タンク式から、湯切れの心配がなく熱効率の高いタンクレス（瞬間式）給湯器の需要が拡大しています。

省資源でエネルギー効率の高いタンクレス給湯器に切り替えることにより、CO₂の削減と光熱費の節約につながることをお客さまに的確にお伝えし、国内で培った技術力を強みに展開しています。



企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコファーストの約束

採用情報

[お問い合わせ窓口一覧](#)

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて

企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

グループ会社の製品に関する
ご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、
ご注意

サイト内検索

検索

CSRの取り組み

CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRTピックス

▶ Q+ESGIについて

▶ 品質

▶ 環境

» 環境経営

» 製品を通じた環境負荷低減

» 事業活動を通じた環境負荷低減

» 生物多様性保全

» 環境保全活動データ

» 環境コミュニケーション

» SDS(安全データシート)

» 家電リサイクルの実績

» 家庭でのCO2が分かかります(環境家計簿)

» 第三者検証

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

事業活動を通じた環境負荷低減

環境に配慮した生産活動

省エネルギー(地球温暖化の防止)

太陽光発電システム設置

物流分野でのCO2削減の取り組み

資源の有効活用

環境に配慮した生産活動

ノーリツグループは国内生産事業所を中心に、地球温暖化の原因となるCO₂の排出量削減、省エネルギー活動や廃棄物の削減と資源循環の推進、環境汚染の予防・防止に、継続的に取り組んでいます。

また流通においても輸送の効率化を図り、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。

2014年度エネルギー使用量と環境負荷



ページのTOPへ ↑

省エネルギー(地球温暖化の防止)

ノーリツグループでは、CO₂排出量削減・省エネルギーを推進するために、グループ会社、関係部門で構成する「環境会議」を年に4回開催し、環境活動計画を策定して、具体的な活動を展開しています。



環境会議

ページのTOPへ ↑

太陽光発電システム設置

■ PV設置状況一覧

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバル・コンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRTピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

太陽光発電システム設置場所



	所在地	会 社	事 業 所	用途分類	定格 (kW)	設置年	備 考
1	兵庫県明石市	ノーリツ	NAM事業所 生産技術開発センター	自家消費	100	2005年	自家消費のため、事業活動における電力消費量の削減＝CO ₂ 削減に寄与する。
2	兵庫県明石市	ノーリツ	NAM事業所 環境機器開発センター	自家消費	80	2011年	
3	兵庫県明石市	ノーリツ	NAM事業所 新エネルギー商品研修センター	自家消費	17	2012年	
4	兵庫県明石市	ノーリツ	西新町事業所	自家消費	17	2013年	
5	兵庫県加古川市	ノーリツ	加古川事業所	自家消費	100	2012年	
6	兵庫県明石市	大成工業	本社工場	自家消費	100	2011年	
7	兵庫県加古郡	大成工業	播磨第三工場	自家消費	100	2011年	
8	兵庫県朝来市	多田スミス		自家消費	100	2012年	
9	茨城県土浦市	アールビー	つくば事業所	自家消費	200	2011年	
10	群馬県前橋市	関東産業		自家消費	50	2011年	
11	愛知県名古屋	ノーリツ	中部支社 東海支店	自家消費	24	2011年	
12	長崎県長崎市	ノーリツ	九州支店 長崎営業所	自家消費	5	2013年	
13	東京都八王子市	ノーリツ	八王子研修センター	自家消費	10	2012年	
14	福岡県福岡市	ノーリツ	九州支店	自家消費	5	2012年	
合計 14ヶ所							

[ページのTOPへ](#) ↑

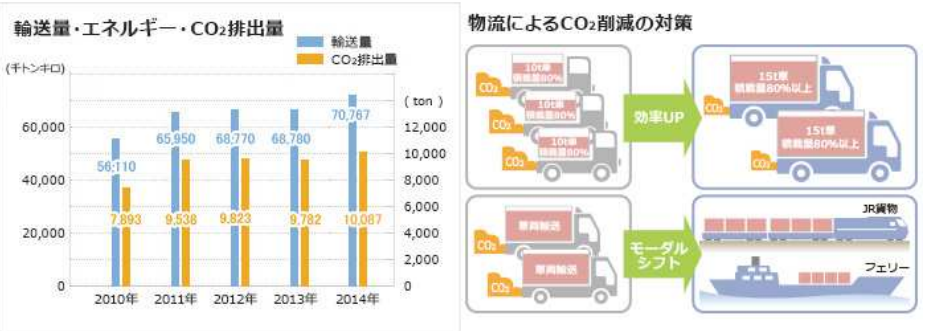
物流分野でのCO₂削減の取り組み

貨物輸送によって排出されるCO₂の削減も重要な取り組み課題です。当社は、省エネ法の「特定荷主」(貨物輸送量3,000万トンキロ以上／年)に該当し、省エネ法対応に加えて、輸送でのエネルギー削減・CO₂排出量削減に、委託貨物運送業者と協力して取り組んでいます。

2014年度のCO₂排出量は、2013年度と比べて3%増加しましたが原単位では2%改善しました。更なる輸送の合理化・効率化を進めるため、以下3点の取り組みを継続して進めています。

■ エネルギー削減・CO₂排出量削減の対策

- (1) トラックの大型化：商品納入時のロットを大きくするため、10ton車から15tonトレーラー車に置き換えることにより、積載量当たりの使用燃料の削減を図っています。2007年以降、順次変更を進めており、現在は8台のトレーラー車を運行しています。
- (2) 貸切便の積載効率向上：幹線の輸送には貸切便を使用しており、積載効率を向上する改善をおこない、輸送の効率化を図っています。
- (3) モーダルシフト：2009年からは、九州や北海道などへの長距離輸送の貨物便について、JR貨物、フェリーを活用するモーダルシフトを一部実施しており、効果を上げています。



[ページのTOPへ](#) ↑

資源の有効活用

■ 廃給湯器のリサイクルへの取り組み

ノーリツグループでは、地球資源を利用して金属機械を生産する給湯器製造メーカーとして、廃給湯器を直接回収し、単一金属素材等に分解し資源循環につなげるリサイクルへの取り組みを推進しています。

この取り組みはグループ会社である株式会社エスコアハーツがおこなっており、2014年に回収した廃給湯器は、29,051台、重量換算で755tonとなりました。これらを、鉄および銅・アルミ・ステンレスなどの非鉄金属素材等に分解し、再資源化に努めています。

この給湯器リサイクル事業は、給湯器の販売・取替をおこなう販売店さまや社会福祉事業所さまと協力しておこなっており、社会的な課題である障がい者の就労機会創出にも繋がっています。販売店さまには取替後に不要となった給湯器を古物として提供いただき、社会福祉事業所さまには廃給湯器の分解・分別を委託し、エスコアハーツは収集運搬や素材売却をおこなう三位一体の取り組みで

す。

2013年12月に株式会社リハーツ(エスコアハーツ100%出資会社)を設立し、廃給湯器および分解素材の収集運搬や金属素材等の売却の機能を移管し、2014年4月から事業運営を開始しました。

[人に笑顔 <障がい者自立支援> プロジェクトはこちら](#)

■ ゼロエミッション

ノーリツグループでは、国内生産事業所および海外生産事業所(櫻花衛厨(中国)股份有限公司は除く)にて、リサイクル率99%以上を目標とするゼロエミッションを2014年以降も継続しています。

ノーリツグループ・ゼロエミッション定義: 廃棄物の全発生量(全重量)のリサイクル率が99%以上となった月を3か月以上継続し、今後も継続可能と判断した状態をゼロエミッションの達成とします。

CSRの取り組み

● CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRTピックス

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

» 環境経営

» 製品を通じた環境負荷低減

» 事業活動を通じた環境負荷低減

» 生物多様性保全

» 環境保全活動データ

» 環境コミュニケーション

» SDS(安全データシート)

» 家電リサイクルの実績

» 家庭でのCO2が分かれます(環境家計簿)

» 第三者検証

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

生物多様性保全

製品・事業活動と生物多様性の関連

■ 生物多様性保全の考え方

私たちの生活は、地球から、生態系サービスと言われる多くの恵みを受けて成り立っています。その生態系サービスの土台となるのが生物多様性です。この土台を守り、将来にわたって生態系サービスを楽しんでいくためには、社会を構成する私たちが、連携して生物多様性を守っていく必要があります。事業者も市民も社会の一員として、この役割を担っていくことが重要と考え、ノーリツグループ全体で継続してこの取り組みを推進し、持続社会の構築に貢献していきます。



■ 生物多様性保全への取り組み

当社グループは、生物多様性保全の観点から、地球環境に与える負荷を可能な限り低減できるように、4つの取り組みと生物多様性保全教育を実施しています。

原材料から部品・製品を作る段階

・新たに採取する資源の使用削減による自然破壊軽減

製品を配送する段階

・小型・軽量化による輸送時の大気汚染軽減

製品をお客さまがご使用される段階

・温暖化対策による生態系への影響軽減

製品を廃棄する段階

・有害物質対応(水質・土壌汚染防止)

・里山体験

・外来魚駆除ボランティア活動

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバル・コンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRTピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

CSRの取り組み

CSRの取り組み

- ▶ トップメッセージ
- ▶ ノーリツグループのCSR
- ▶ 国連グローバル・コンパクト
- ▶ エコ・ファーストの約束
- ▶ 3つの笑顔プロジェクト
- ▶ CSRトピックス
- ▶ Q+ESGについて
- ▶ 品質
- ▶ **環境**
 - » 環境経営
 - » 製品を通じた環境負荷低減
 - » 事業活動を通じた環境負荷低減
 - » 生物多様性保全
 - » **環境保全活動データ**
 - » 環境コミュニケーション
 - » SDS(安全データシート)
 - » 家電リサイクルの実績
 - » 家庭でのCO2が分かれます(環境家計簿)
 - » 第三者検証
- ▶ 社会
 - ▶ ガバナンス
 - ▶ 第三者意見
 - ▶ 国際的イニシアティブとの整合
 - ▶ 報告書一覧
 - ▶ 編集方針

環境保全活動データ

CO2排出量とエネルギー

化学物質管理

CO2排出量とエネルギー

■ 省エネルギー活動(地球温暖化の防止)

ノーリツグループの国内生産事業所における、エネルギー別の使用量およびCO2排出量は以下の通りです。

電力使用量とCO2排出量(連結)



都市ガス使用量とCO2排出量(連結)



LNG使用量とCO2排出量(連結)



LPG使用量とCO2排出量(連結)



灯油使用量とCO2排出量(連結)



水使用量とCO2排出量(連結)



企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使い
いただくために

	単位	排出係数
電気	kWh	0.382
都市ガス	m ³	2.244
L P G	kg	3.000
灯油	リットル	2.490
水道	m ³	0.650

化学物質管理

■ PRTR対象物質

※単位は「kg」とし、年間100kg以上の取扱いがある対象物質とします。

エチルベンゼン	2011年	2012年	2013年	2014年
取扱量	2,400	1,800	1,600	2,070
排出量	2,400	1,800	1,600	1,900
（大気）	2,400	1,800	1,600	1,900
（水域）	0	0	0	0
（土壌）	0	0	0	0
移動量	0	0	0	0

キシレン	2011年	2012年	2013年	2014年
取扱量	5,000	4,700	4,400	6,534
排出量	1,800	1,400	1,200	1,553
（大気）	1,800	1,400	1,200	1,553
（水域）	0	0	0	0
（土壌）	0	0	0	0
移動量	700	600	700	640

銀およびその水溶性化合物	2011年	2012年	2013年	2014年
取扱量				230
排出量				0
（大気）				0
（水域）				0
（土壌）				0
移動量				0

（参考：2014年追加）

クロム	2011年	2012年	2013年	2014年
取扱量	800	600	300	1,750
排出量	0	0	0	0
（大気）	0	0	0	0
（水域）	0	0	0	0
（土壌）	0	0	0	0
移動量	0	0	0	0

（参考：2007年4月より使用開始）

1,2,4-トリメチルベンゼン	2011年	2012年	2013年	2014年
取扱量				4,860
排出量				24
（大気）				24

(水域)				0
(土壌)				0
移動量				0

(参考:2014年追加)

トルエン	2011年	2012年	2013年	2014年
取扱量	7,300	7,600	8,700	8,390
排出量	7,000	7,300	8,300	8,080
(大気)	7,000	7,300	8,300	8,080
(水域)	0	0	0	0
(土壌)	0	0	0	0
移動量	300	300	400	310

鉛	2011年	2012年	2013年	2014年
取扱量	300	100	200	200
排出量	0	0	0	0
(大気)	0	0	0	0
(水域)	0	0	0	0
(土壌)	0	0	0	0
移動量	0	0	0	0

ニッケル	2011年	2012年	2013年	2014年
取扱量	2,600	1,900	1,000	5,390
排出量	0	0	0	0
(大気)	0	0	0	0
(水域)	0	0	0	0
(土壌)	0	0	0	0
移動量	0	0	0	0

(参考:2007年4月より使用開始)

1-ブロモプロパン	2011年	2012年	2013年	2014年
取扱量	11,300	12,400	12,400	12,690
排出量	11,200	12,300	12,300	12,590
(大気)	11,200	12,300	12,300	12,590
(水域)	0	0	0	0
(土壌)	0	0	0	0
移動量	100	100	100	100

(参考:2010年4月より法改正により、第1種指定物質となったため)

メタクリル酸メチル	2011年	2012年	2013年	2014年
取扱量	120,500	111,000	116,800	120,490
排出量	100	100	100	70
(大気)	100	100	100	70
(水域)	0	0	0	0
(土壌)	0	0	0	0
移動量	8,000	7,000	7,900	8,540

メチルナフタレン	2011年	2012年	2013年	2014年
取扱量				1120
排出量				6
(大気)				6
(水域)				0

(土壌)				0
移動量				0

(参考:2014年追加)

PRTR法対象物質を100kg以上取り扱っている連結対象会社

株式会社ノーリツ(明石本社工場・明石事業所・加古川事業所)

株式会社アールビー、関東産業株式会社、株式会社ハーマン、

株式会社多田スミス、大成工業株式会社、信和工業株式会社

■ 大気汚染(NOx、SOx)

ノーリツグループでは、エネルギー使用量を低減することにより、NOx・SOxを削減し大気汚染防止に取り組んでいます。

ノーリツグループ生産事業所におけるNOx・SOx排出量

[連結]

	NO2排出量 (kg-NOx)					
	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	対前年比
合計排出量	7,576	6,987	7,626	8,028	8,472	106%
	SO2排出量 (kg-SOx)					
	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	対前年比
合計排出量	434	420	415	418	385	92%

■ 水質汚濁(BOD、再利用水使用量)

ノーリツグループでは、事業所の生産活動において排水する下水道の水質調査(年1回以上)を継続して実施し、成分分析をおこなっています。調査対象の全事業所で、基準値を下回っています。

ノーリツグループ生産事業所におけるBOD発生量

ノーリツ生産事業所	BOD	2014年
	基準値mg/l	測定値mg/l
NAM事業所	300	150
土山事業所(エスコアハーツ)	300	130
明石事業所	600	230
加古川事業所	100	6

グループ会社生産事業所	BOD	2014年
	基準値mg/l	測定値mg/l
アールビー神立工場	20	10
アールビーつくば事業所	300	72
(株)多田スミス	100	79
関東産業(株)	600	1
大成工業(株)第一工場	300	19
大成工業(株)稲美工場	600	7
大成工業(株)第三工場	300	11

BOD排出量(kg)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
連 結	29,946	26,879	18,523	27,474	37,485

BODとは

Biochemical Oxygen Demandの略称で生物化学的酸素要求量のこと。

排水処理の性能を評価したり、河川の水質を評価する時に使用され、有機物による水の汚れを示す代表的な指標です。水の中の有機物(汚れの原因)を微生物が分解するのに使われた酸素の量で、数値が高いほど水質汚濁がすすんでいることになります。BOD指数が高いと水中に溶けている酸素が少なくなり、BODが10mg/L以上になると悪臭の発生などが起こりやすくなります。

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

サイト内検索

検索

CSRの取り組み

CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRTピックス

▶ Q+ESGIについて

▶ 品質

▶ 環境

» 環境経営

» 製品を通じた環境負荷低減

» 事業活動を通じた環境負荷低減

» 生物多様性保全

» 環境保全活動データ

» 環境コミュニケーション

» SDS(安全データシート)

» 家電リサイクルの実績

» 家庭でのCO2が分かります(環境家計簿)

» 第三者検証

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

第三者検証

GHG(温室効果ガス)排出量の第三者検証について

2013年度のNAM事業所の温室効果ガスの排出量データの正確性の検証のため、ビューロベリタスジャパン株式会社による第三者検証を受けました。

その結果、NAM事業所の事業活動に伴うエネルギー起源のGHG排出量(スコープ1およびスコープ2)について限定的保証を受けました。

今後については、第三者認証を活用し、データの信頼性とGHG排出量の継続的な削減に努めていきます。

対象データ:事業活動に伴うエネルギー起源のCO2排出量(スコープ1およびスコープ2)

対象範囲:NAM事業所(明石本社工場、本社開発センター、環境機器開発センター、生産技術開発センター、総合研修センター)

検証機関:ビューロベリタスジャパン株式会社

検証方法:ISO14064-3:2006の要求事項に従い検証実施

2014年8月20日～21日に審査が行われ、限定的保証を受けました。



温室効果ガス排出量検証報告書

[リンクPDFファイル\(782KB\)](#)



現地審査状況

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバル・コンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRTピックス
品質

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、

調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

ご注意

サイト内検索

検索

Copyright © 2015 NORITZ Corporation. All Rights Reserved.

ご不明な点などございましたら
お気軽にお問い合わせください。

CSRの取り組み

▶ CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRTピックス

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

▶ **社会**

» 従業員とともに

» お客さまとともに

» 取引先さまとともに

» 株主さまとともに

» 社会とともに

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

社会



Society

私たちは創業以来、社会との関わりを重視してきました。事業成長を果たし、より多くの雇用を創出し、地域社会に貢献することは勿論ですが、事業活動以外での社会貢献も大切にしています。“より多くの幸せをわかつこと”を目標に、できることを真心こめて取り組みます。

従業員とともに

「新しい幸せをわかつこと」を目標に、人材育成から職場環境づくりまで総合的に取り組んでいます。

お客さまとともに

「本業を通じた暮らし向上」を基本に、次世代を見据え、社内外でさまざまな取り組みをおこなっています。

取引先さまとともに

お客さまのご期待にタイムリーにお応えるために、無駄なく、短納期で製品をお届けしています。

株主さまとともに

当社の経営に対する考え方をご理解いただけるよう、株主さまとのコミュニケーションを大切にしています。

社会とともに

地域社会との共生を重視するとともに、復興支援やボランティア活動にも積極的に取り組んでいます。

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRTピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

CSRの取り組み

▶ CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRTピックス

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

▶ 社会

▶ 従業員とともに

▶ お客さまとともに

▶ 取引先さまとともに

▶ 株主さまとともに

▶ 社会とともに

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

従業員とともに

活力ある人材を育成する	多様性の尊重(ダイバーシティ)
人権	ワークライフバランスを支援する諸制度
雇用に関する基本方針	自主性を尊重し、キャリア開発や能力開発を支援する制度
労使の関係	

活力ある人材を育成する

ノーリツグループは、従業員「一人ひとりの情熱」を原動力として事業を展開してまいりました。「誇り」と「働きがい」をもった活力ある企業グループであり続けるためには、「仕事を通して自己実現できる人を育てる」「安全と健康に配慮された職場をつくる」「人権の尊重と多様性を醸成する」以上の3点が重要であると考えています。

毎年従業員意識調査(ES調査)を実施し、職場改善に継続的に取り組み、従業員のモチベーション向上にも努めています。



■ 人材育成

「自立」した従業員はかけがえのない「人財」であり、それぞれが「相互支援」することによってさらに高め合い活躍できるようになります。ノーリツグループは、従業員一人ひとりの「自立」と「相互支援」を軸とした「3つのよい会社」を実現し、「ES(働きがい)」の向上をめざしていきます。



■ 安全で健康に配慮した職場をつくる

ノーリツは、「安全衛生管理規程」を定め、災害、事故および疾病を未然に防止し、従業員の安全および健康を維持増進することを目的に、次の3つの重点テーマに取り組んでいます。

事故や災害の状況や、未然防止、再発防止などについては『安全衛生報』を発信し、従業員の啓蒙に役立てています。また、新入社員には、新入社員研修で教育をおこなっています。



1. 安全衛生

ノーリツの各事業所では、労使で安全衛生委員会を組織し、労働災害の防止と快適な職場環境づくりを進めています。2013年に組織体制を再構築し、月例安全パトロールの点検結果や従業員からの意見への対応、さらには災害事例を自職場に置き換えて検証する等により安全管理の充実を図りつつ、衛生管理面においても、労働時間適正化や流行性疾患の予防などに努めています。

2. メンタルヘルス

従業員自身がストレスに気づき対処する「セルフケア」と、管理監督者が職場の状況を把握して改善する「ラインケア」の強化に取り組んでいます。

セルフケア推進の取り組みは、座学による研修および配属後の面談フォローによる気づきの促進（新入社員対象）に加え、長時間労働者（社内基準）や転勤者には、自身によるストレスチェックの実施を促すことにより、従業員自身の気づきによるメンタル不調の予防を推進しています。

ラインケア推進の取り組みは、管理職に対するメンタルヘルス教育を2005年より継続的に実施しています。現在では新任管理職への必須プログラムとして取り上げ、職場の状況把握や改善に役立てています。

この他、セルフストレスチェックおよびカウンセリングサービスが利用できる外部専門機関の支援サービスを導入しており、これらと産業保健スタッフによるケアを組み合わせ、メンタルヘルスサポート体制の充実を図っています。

3. 過重労働の防止

長時間労働の是正と労働時間の適正化をテーマに、制度面の充実と改善活動に取り組んでいます。

残業80時間超の従業員に対しては、疲労蓄積度自己診断チェックリストにより仕事の負荷度を判定し、状況により医師による面接指導を実施しています。また、当該部門長に対しては組織活動の改善を促す取り組みをおこなっています。（2013年度 0件、2014年度 1件）

また、労働時間の適正化に向けた全従業員の意識向上を図るため、毎週水曜日をノー残業日として、家族や会社の仲間との対話や、趣味・学習など仕事以外の生活を充実させることを目的に、「コミュニケーションDAY」を設けて労使共同で推進しています。

	2011年度※	2012年度※	2013年度※	2014年度※
休業災害（休業4日以上）	2件	3件	3件	1件
有給休暇取得日数※	7.66日	8.10日	8.10日	5.63日

※各年度の期間：当年4月～翌年3月

※2014年度は中間データ（2014年4月～12月）を掲載

■ キャリア形成支援

ノーリツグループでは、社員一人ひとりのキャリア形成支援が、働き甲斐を向上させ、グループビジョンの達成に向けた重要な活動と考え、2000年度から支援制度を設け、特にベテラン社員の活性化を図っています。2014年度はその強化を目標に「アクティブキャリアプラン」と銘打ち、課題に取り組みました。

- (1) キャリア形成支援教育体系の確立
- (2) キャリア形成支援制度の改定
- (3) 再雇用制度の改定と再雇用者の活躍推進

2014年は、教育体系の構築と制度の再設計については、ほぼ計画通りに推進されました。しかし、本格的な運用はこれからであり、再雇用制度の改定と併せて、より実効性のあるキャリア形成支援体系の構築を図っていきます。

アクティブキャリアプランの課題と目標

	2014年度の課題	2015年度の目標
教育体系の確立	教育体系の構築と運用開始	本格的な運用とフォローアップ
支援制度の改定	制度の再設計と運用開始	制度の周知と定着

再雇用者の活躍推進	再雇用制度の改定準備	再雇用制度の改定と運用開始
-----------	------------	---------------

従業員の自主性を尊重し、キャリア開発や能力開発を支援する制度

- ・資格・技能検定の取得奨励制度
- ・社内公募制度
- ・グローバル人材登録制度
- ・自己申告制度
- ・海外短期研修制度
- ・特別な成果に対する表彰・報奨制度
- ・キャリアアップ支援制度
- ・再就職支援制度

■ 従業員意識調査 (ES調査)

わくわく指数調査の実施

ノーリツグループでは、自立した従業員が刺激し合うことで、相乗効果を生み出す強いチームづくりに努めており、その進捗を測る指標として従業員意識調査＝『わくわく指数調査』を実施しています。これは2001年からおこなっていた「満足度調査」から一歩進めたもので、従業員の働くエンジンの状況を「仕事が面白い」「職場が楽しい」「会社が好き」の3つのテーマで調査し、その結果をチームで語り合うことで、互いに高め合っていくことをめざしています。

その結果から、部内間連携の強化などを課題化し、その実現に努めています。

※2016年度には各項目70%をめざして活動しています。

わくわく指数調査結果

	2013年	2014年
仕事が面白い	55%	55%
職場が楽しい	56%	56%
会社が好き	47%	46%

※2014年から新指標に変更したため、昨年と2013年の値が変わっています。

[ページのTOPへ](#) ↑

多様性の尊重(ダイバーシティ)

■ 多様性の醸成について

ノーリツグループでは、「多様性の醸成」を目的として、すべての従業員が働きやすい職場であることをめざし、職場環境整備や支援する制度や活動をおこなっています。主に社内のイントラネットなどに掲載し、啓発をおこなっています。

例えば、障害を持つ従業員に対して、より働きやすい職場環境を実現するために、特例子会社エスコアハーツを設立したり、女性活躍推進として、「ビタミンWスクエア」という女性社員によるワーキング活動などをおこなっています。

今後も多様性の醸成への取り組みを継続しておこなっていきます。

ノーリツは、従業員のワークライフ・バランスを重視し、多様な人材が柔軟な勤務形態や時間を取れるよう、下記の休暇や制度を導入しています。

- ・年次有給休暇制度
- ・フレックスタイム制度
- ・時短勤務制度
- ・産休・育休制度
- ・看護休暇制度
- ・裁判員制度に関する制度
- ・育児・介護支援
- ・メモリアル休暇
- ・登録リターン制度
- ・定年自己申告制度

■ 特例子会社エスコアハーツによる障がい者雇用の取り組み

ノーリツグループの特例子会社エスコアハーツは、ノーマライゼーション理念の実現に向けて、ダイバーシティを尊重し、障がい者が活き活きと働ける機会作りに取り組んでいます。

2014年は、障がい者従業員のサポート体制を充実させるために職場適応援助者(ジョブコーチ)資格を1名、職業生活相談員資格を7名取得しました。

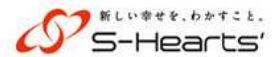
また、保護者との個別面談会では、31名の保護者と会社での就業状況や家庭生活状況について話し合い、今後の育成ポイントなどの意見交換を実施しました。

また、12月に開催された「第35回兵庫県障がい者技能競技大会・アビリンピック兵庫2014」に当社従業員5名が参加し、仕事を通じて学んだ技能をいかに発揮しました。

尚、製品パッキング競技の部で、敢闘賞を受賞しました。



障がい者雇用のありたい姿



＜創業の原点＞

障がい者の
自立を支援

＜ありたい姿＞

ハッピー
リタイア

← 一番重要なのは
「雇用定着」

＜職場指導のポイント＞

- 能力より経験
- できる方法を考える
- できる事からはじめる
- OJTでの熟練化

- 中高齢者とのコラボレーション
中高齢者が現場指導者としてフォロー

- 障がいを「個性」と見る。
ちょっと表現ができない。少し理解がしにくい。など

- ～だからできないをなくす。
何事にもチャレンジ。トライしてみないとわからない。

- 必要に応じたローテーション（多種多様な職能・職種）
長期安定雇用に向けて、できる仕事を少しずつ開発。
職場トラブル⇒異動（助け舟）⇒自信を取り戻す⇒再配置

【キーワード】

- ・信じる
- ・失敗させる
- ・経験を積ます
- ・褒める
- ・笑顔と会話



【取り組みの状況】

エスコアハーツの事業内容は、親会社ノーリツからの受託業務を主体とし、2014年12月末現在で49名の障がい者が勤務しています。

事業内容

- ・シェアードサービス事業
給与厚生・庶務・経理・不動産・損害保険・OA機器販売・通信端末
- ・受託事業
商業印刷・部品製造・計測器校正・清掃・物流発送（社内便・WEB販売・カタログ）
- ・福祉コンサル事業
資源再生事業

生産部

- ・生産チーム
高効率給湯器の主力部品である中和器を製造しています。生産活動にとって重要なQCDや5S・改善活動については、障がい者社員のリーダーやライン長を中心にメンバー全員で取り組んでいます。
- ・洗浄チーム
給湯器のリターナブル梱包材の洗浄をおこなっています。何度も繰り返し使用するため、しっかりとメンテナンスします。

ビジネスサービス部

- ・受注センター
名刺や封筒を始め、販促チラシなどの各種商業印刷を取り扱っています。多品種小ロットの注文に対応できる強みを活かし、兵庫県や稲美町の物品関係入札業者として登録しています。
- ・配送センター
1日約1300梱包のカタログを全国に発送しています。展示会時期の大量発送にも対応しています。
- ・業務センター
社内便やWEB販売している消耗部品の発送を手がけています。また、各種データの入力作業や部品や書類の封入作業など、多種多様な業務を実施しています。

PCシステム部

PCシステム部では、聴覚障がい者とともに、社内向けパソコンの組み立てや必要なソフトをインストールするキitting作業を行い、専門的なスキルも磨いております。

リサイクルセンター

役目を終えた廃給湯器をより効率的に資源として再利用できるように、給湯器のリサイクルに取り組んでいます。単一金属素材に分解・分別し資源循環に寄与しています。[\(3つの笑顔プロジェクト、廃給湯器のリサイクルへの取り組みの項をご参照ください\)](#)

■ 障がい者雇用人数・雇用率

雇用促進の取り組み

ノーリツグループでは、グループ会社がそれぞれ障がい者の雇用を推進していますが、2006年に社内ベンチャー制度で特例子会社エスコアハーツを設立し、障がい者多数雇用事業所として、より高次の雇用に向けて取り組みを推進しています。

ノーリツグループの障がい者雇用におけるCSRマインドは、障がい者を含めた多様な人材が活躍できること。

障がい者自身が能力を発揮し、やりがいを持って仕事に取り組めること。

グループ全社員が、障がい者との協働・共生を意識し誇りを持って仕事に取り組めることを目指しています。

特例子会社のエスコアハーツだけでなく、個々のグループ会社でも直接雇用しノーマライゼーションの実現に向けて取り組んでいます。

【2014年活動報告】

2014年6月時点では国内グループ会社17社中11社で障がい者を雇用し、合計134名の従業員が働いています。

これにより、障がい者雇用率は、グループ全体で2.91%となり2.0%である法定雇用率を大きく上回りました。

また、2014年はグループ適用会社を新たに3社追加し、グループ全体で7社となりました。グループ適用では2.94%となり、法定雇用率達成や雇用納付金が義務付けされない子会社も雇用における意識や風土醸成に努めています。

雇用人数および雇用率の推移

2014年6月現在

		11年	12年	13年	14年
雇用者数	エスコアハーツ	31名	46名	51名	51名
	グループ適用全体	83名	102名	112名	134名
雇用率	エスコアハーツ	101.20%	55.11%	63.92%	65.73%
	グループ適用全体	2.39%	2.94%	2.96%	2.94%

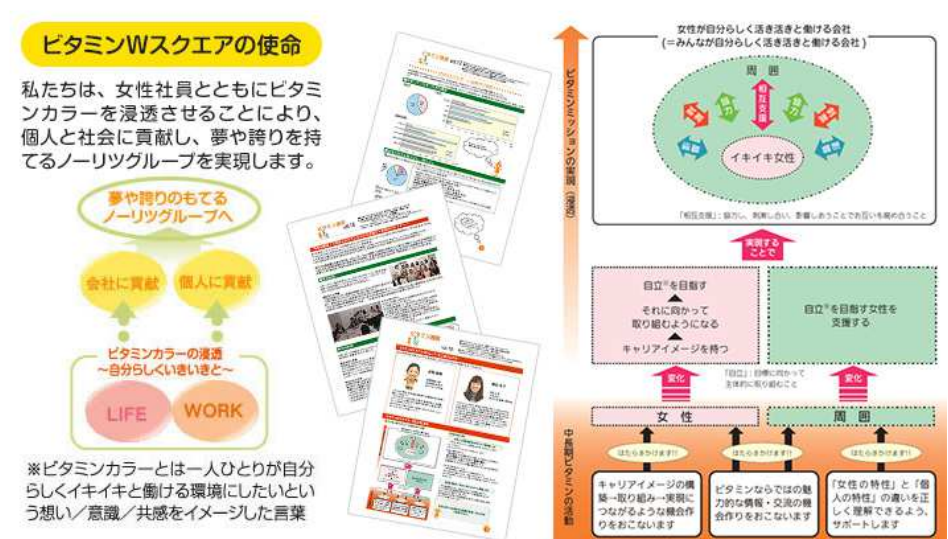
重度障害者は2倍・短時間勤務障害者は0.5倍の人数カウントをおこないます。

■ ビタミンWSクエア

女性が働きやすい職場づくり(ビタミンWSクエア)

ノーリツ(グループ)では2005年からさまざまな部門の女性従業員を募り、「女性が自分らしく生き活きと働ける会社＝みんなが自分らしく生き活きと働ける会社」という仮説をもとに、中長期目標(右下チャート図参照)に基づいた具体的な課題遂行に取り組む「ビタミンWSクエア」を展開しています。

8期目となる2014年はキャリアイメージの構築、取り組み、実現につながる機会づくりとともに、「ビタミンWSクエア」ならではの魅力的な情報・交流の機会づくり、「女性の特性」と「個人の特性」の違いを正しく理解するサポートをおこなうため、定期的の下記のような活動をおこないました。



女性向けセミナーの開催

女性営業職を対象に、外部講師を招いてのキャリアを見つめ直す研修会を開催しました。

また、セミナー終了後には自分自身がたてた目標に対してどう進めているのかを参加者同士で発表し合い、刺激し合うフォローセミナーも実施しました。



一方、女性営業職を部下に持つ男性上司に対しても、同一講師によるセミナーを実施。女性の特徴、ライフイベントなどを踏まえながら、どう育成していくのかを検討してもらいました。



「仕事と育児の両立支援ガイド」の作成

妊娠・育児に関する制度の利用者とその周囲とのコミュニケーションをよくするためのツールとして「仕事と育児の両立支援ガイド」を作成。他社マニュアルも参考に、現場の実態に沿った内容になるよう心がけました。このツールを使い、実際に育児をする社員のいる職場での意見交換会も実施しました。

外部セミナーの紹介

社外の人々との交流を通じて刺激を受け、意欲を引き出し、気づきを与え合う機会として、外部セミナー「ウーマンズ・ネットワーク・フォーラム」への参加者を社内公募。2014年は5名が受講しました。



「ビタミン通信」の発行

ビタミンWスクエアの活動をより理解してもらうため、活動の報告やさまざまな情報を掲載した社内報「ビタミン通信」を発行し、年に2～3回、全グループ社員に配付しています。



女性幹部職登用実績

	2012年	2013年	2014年
女性幹部数	13人	13人	15人

[ページのTOPへ](#)

人権

■ 人権の尊重について

『私たちは、すべての事業活動の大前提として、社内外を問わず、あらゆる場面で人権を最大限尊重します。また、人種、国籍、性別など、いかなる理由による差別も人権侵害もおこないません。』

この一文を、『[ノーリツグループ行動基準](#)』に記載し、従業員に対する啓発をおこなうとともに、2014年度の新入社員研修から、基礎教育プログラムにも加えました。

行動基準では、各種法令を遵守することはもちろん、社会からの要請を意識してその期待に応えることを従業員に求めています。これに反する行為があった場合の通報手段の一つとして、『[ノーリツホットライン](#)』を設けています。

[ページのTOPへ](#)

ワークライフバランスを支援する諸制度

■ リフレッシュ休暇

ライフサイクルの節目（勤続10年、20年、30年）で心身のリフレッシュを図るとともに、今後の人生や社会における新たな飛躍のための充電期間として活用してもらうことを目的としたリフレッシュ休暇制度を設けています。該当する従業員には特別休暇と一時金が支給されます。

■ フレックスタイム制度

業務がより円滑に効率良く遂行されることを前提に、従業員が自主的に始業時刻と終業時刻、および1日の就業時間を選択でき、一

定の期間で時間を清算するフレックスタイム制度を設けています。研究開発職や本部スタッフ等、一部の部門に適用されています。

■ 裁判員制度に関する制度

裁判員として裁判に参加する場合に、必要な時間、日数について特別有給休暇が付与される制度を設け、従業員が裁判員に選ばれたとき、参加しやすい制度としています。

■ 育児・介護支援

産休・育休はもちろん、小学校就学の始期に達するまでの子を養育する者が、子の看護を必要とするときに取得できる看護休職、要介護状態にある家族を介護する者が必要とするときに取得できる介護休職、育児や介護をする必要がある者が、1日の所定労働時間を短縮できる短時間勤務など従業員を支援する制度を設けています。

育児休職取得者数

2012年			2013年			2014年		
男	女	計	男	女	計	男	女	計
0人	27人	27人	2人	34人	36人	1人	32人	33人

■ メモリアル休暇

有給休暇の取得促進のために、本人にまつわる記念日をあらかじめ登録し、計画的に休暇を取得するための制度を設けています。

■ 登録リターン制度

個人的な事情あるいは一時的な家庭の事情等により、ノーリツを退職した方にもう一度働いていただくための、登録制の再雇用制度を設けています。

■ 定年自己申告制度

ライフプランサポートの一環で、個人の第二の人生を支援するために、60歳到達までに、自分で定年時期を申告する制度（対象年齢等、条件有り）を設けています。

[ページのTOPへ](#) 

雇用に関する基本方針

■ 採用・雇用について

ノーリツグループは、行動基準に示すとおり、「人権尊重」に留意し、公正な選考と、高齢者や障がい者など多様な人々の就労機会の提供に努めています。

正社員情報(※)	2012年			2013年			2014年		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
単体従業員数	2,178人	696人	2,874人	2,175人	716人	2,891人	2,361人	789人	3,150人
単体平均年齢	43.1歳	36.2歳	41.4歳	42.6歳	35.7歳	40.9歳	42.6歳	36.9歳	41.2歳
単体平均勤続年数	18.9年	12.5年	17.4年	19.2年	12.8年	17.6年	17.9年	12.2年	16.4年
連結従業員数			5,657人			9,165人			9,183人

※単体従業員には、出向者を含み、出向受入、取締役を除く(ノーリツレポート2015の掲載人数と抽出方法が異なります)

正社員の離職状況(定年退職者は除く)

	2012年	2013年	2014年
年末人数	2,874人	2,891人	3,150人
離職者数	39人	36人	50人
離職率	1.4%	1.2%	1.6%

世代別従業員

	2013年			2014年		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計
30歳未満	289人	186人	475人	264人	168人	432人
30～39歳	490人	279人	769人	489人	265人	754人
40～49歳	972人	277人	1,249人	945人	287人	1,232人
50～59歳	643人	63人	706人	667人	68人	735人
60歳以上	79人	23人	102人	91人	24人	115人

4月1日入社者の定着状況

	2011年			2012年		
	入社	離職者数	離職率	入社	離職者数	離職率
大卒(男)	28人	1人	3.6%	38人	3人	7.9%
大卒(女)	6人	1人	16.7%	7人	0人	-
合計	34人	2人	5.9%	45人	3人	6.7%

定年者再雇用実績

	2012年	2013年	2014年
再雇用者数	70人	89人	110人

新卒入社状況

	2013年	2014年	2015年
大卒(男)	29人	32人	30人
大卒(女)	9人	10人	11人
その他(男)	15人	10人	9人
その他(女)	17人	7人	15人
合計	70人	59人	65人

[ページのTOPへ](#) ↑

自主性を尊重し、キャリア開発や能力開発を支援する制度

■ 資格・技能検定の取得奨励制度

従業員がスキルアップのために資格取得をめざし自己啓発に励むことを狙いとし、特定の資格・技能検定に対し、取得費用の補助や奨励金で支援する制度。

■ 社内公募制度

プロジェクトや新規部門、専門的な業務をおこなう部門などにおいて、志の高い人材を社内から広く募集する制度。

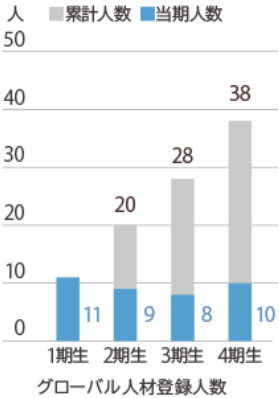
■ グローバル人材登録制度

社内公募の一つで、「グローバル化の加速」に向け、海外赴任候補および国内から現地法人や現地出張所をサポートできる人材を育成するための制度。

1年間の登録期間中に語学学習や外部講師による異文化理解セミナーの受講などを通じてグローバル人材の育成をめざす。

4期目を迎えた今年は登録者が累計38名となり、海外事業をサポートできる体制の構築を推進していきます。

	1期生	2期生	3期生	4期生
	11人	9人	8人	10人
累計	11人	20人	28人	38人



■ 自己申告制度

社員個人の将来への希望や日頃考えていること等を自己申告する制度。一人ひとりの力が十分発揮できるよう、上司・部門長・人事部が閲覧し、社員育成や適正な配置などの参考にする。

■ 資格・技能検定の取得奨励制度

従業員がスキルアップのために資格取得をめざし自己啓発に励むことを狙いとし、特定の資格・技能検定に対し、取得費用の補助や奨励金で支援する制度。

■ 米国短期研修制度

技術部門（開発設計、品質管理など）を中心に実際に海外で業務に携わるとともに現地で生活することでグローバル感覚を身に付けることをめざす制度。

2014年は、6名の従業員を派遣しました。3か月間現地で

業務に携わり、現地法人や米国市場の理解を深めるとともに、現地で生活することにより異文化理解にも努めました。



■ 特別な成果に対する表彰・報奨制度

代表的な制度として、年末のグループ方針発表会での『社長賞』、『優秀発明提案表彰』、『永年勤続表彰』などがある。

■ キャリアアップ支援制度

従業員の成長段階、役職に応じた各種能力開発メニューを用意し、社内講師、社外講師によるセミナーを開催。特定のタイミングで面談をおこない、キャリア支援をおこなっている。また、将来の経営者をめざすコースとしてチャレンジコースを設け、多様な学習機会と、視野を広げる為の複数の職務経験が出来る機会を提供する制度。

■ 再就職支援制度

前向きなライフプランに基づく再就職の意思を持つ従業員の、「進路およびキャリア開発の具現化」を支援する制度。

[ページのTOPへ](#)

労使の関係

■ 労働組合の活動

ノーリツの労働組合は1973年11月に発足。世間同様、処遇や労働条件の改善を主な目的として活動をしてきましたが、第22期からはその時代に合った3年ごとの中期ビジョンを策定し、組合組織の活性化に重点を置いて活動をするスタイルへと変わっていきました。第22～24期は「コミュニケーション&サービス」、第25～27期は「人や声が集まる労働組合」、第28～30期は「自信を確信に！～ユニオンネット(集まる)の構築から活用へ～」、第31～33期は「HAPPY～情報・知識の活用、そして創造・実現へ～」、第34期～36期は「力～共に考え共に成長する～」とそれぞれのビジョンを掲げて活動し、ノーリツ労働組合の基礎を積み上げてきました。

第37期からは過去の活動を原点とし、新たなミッション・ビジョンを打ち出し、ミッション・ビジョンの実現に向けて第37期～39期を第一次、第40～42期を第二次として3年ごとの中期活動計画を立て、「経済的安定」「働きがいの向上」「自己の発見」を活動の3本柱として活動してきました。

主に「働きがいの向上」に重点を置き、人事制度の正しい運用を目指す取り組みをしてきましたが、第40期からは原点である「イベント活動」にも再度注力し、従業員同士の繋がり、職場の活性化に組織全体で取り組んでいます。

第43期(2014年9月～)からは、3カ年の中期ビジョンを「明日(みらい)へ向かう自分たちがいる」とし、ゆたかな将来をつくり出すために、一人ひとりが力を発揮し、自分たちで職場・会社・自身の生活を充実させていく姿を目指して活動しています。

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

[サイト内検索](#)

[検索](#)

43期～45期 3カ年中期ビジョン

みらい

明日へ向かう自分たちがいる

ゆたかな将来をつくり出すために、一人ひとりが力を発揮し、自分たちで
職場・会社・自身の生活を充実させていく姿を目指します。

この中期ビジョンを実現するために
目指す3つの姿



1. 活き活きと働く



職場の仲間と共に目標を達成することにやりがいを感じている

- ・自ら考え行動している
- ・お互いの価値観や役割を理解し役立ち合っている
- ・共通の目標に向かっている

2. 適正な処遇



自身の処遇を理解し納得している

- ・賃金が世間情勢に見合っている
- ・一時金が会社の業績に見合っている
- ・処遇がモチベーションに繋がっている
- ・従業員が会社の仕組みを理解している

3. 将来の自分を考える



自ら進んでライフプラン・キャリアプランを考えている

- ・社内外の制度や福利厚生を知っている

■ 労使関係

当組合は、1992年にユニオンショップ協定を会社と締結し、国内の全正社員数の約77%にあたる2438名（2014年12月末時点）が組合員となっています。

労使のめざす方向性は、会社の中期経営計画Vプラン16で掲げる「会社の持続的発展」「自信と誇りを持てる会社」に共通しており、労働条件や労働環境の改善の他、「人」に焦点を置いた活動に労使一体で取り組んでいます。

毎年労使共同で「従業員意識調査（ES調査）」を実施しており、結果を基に課題共有もおこなないながら、会社全体の課題については「中央労使協議会」で情報共有と課題設定をし、各部門特有の問題や課題については「営業労使協議会」「研究開発労使協議会」「生産労使協議会」といった部門別の労使協議会を開催し、労使の話し合いをおこなっています。

また、「自立と相互支援」をめざす現在の人事制度の設計についても、労働組合の代表者がメンバーとして参画し、その浸透活動に対しても強い思いを持ち「人づくり」にかかわる各種取り組みを労使が一体となって展開しています。

基本は労使協調路線ながら、将来視点で経営戦略を確認し、意見すべきことや現場の実態については、経営労使協議会および中央労使協議会でしっかりと議論するスタンスで活動しています。年に数回実施する組合員アンケートも活用しながら経営に現場の実態を伝え、経営課題としての取り組みを求めています。労使共同の取り組みについても、実行方法をめぐって白熱した議論を交わすときも対等かつ本音で議論ができる関係であると認識しています。

創業者である太田名誉会長が、「組合と切磋琢磨して発展した会社」と過去を振り返るように、過去からの健全な労使関係を継承しながら、Vプラン16以降も発展し続ける会社をめざし、より一層強い労使関係を築いて参ります。

■ 労働組合の広報

組合発足前の1969年より若手従業員が中心となって発行していた「青炎」が題号を変え、現在は組合機関紙「SAY炎」（月刊）として継承。近年は活動に沿ってイベント写真の多用を意識しながら、組合活動の報告や会社の状況報告を掲載しています。

また、組合の活動報告はイントラネットでも「ユニねっと」として定期的におこなっています。



■ 主な労使協議会と労働組合会議体

- ・春の協議会(春闘交渉):年1回
議題は「賃金」「一時金」「重点的な課題改善要望」全4回
- ・中央労使協議会:年9回
各種課題の情報共有と進捗確認、労使課題の設定、制度改定など
- ・中央執行委員会:年6回
重点活動の進捗確認、議案事項の審議、方策検討、情報共有など
- ・中央委員会:年4回
組合活動の進捗報告、議案事項の承認、情報交換など
- ・営業労使協議会:年4回
改善課題の進捗確認、情報交換など

■ 主な労使協議会と労働組合会議体

- ・ノーリツグループ労働組合連合会(略称:ノーリツユニティ)
ハーマン・多田スミス・アールピー・ノーリツ
- ・住宅関連産業労働組合連絡会(略称:住産連)
クリナップ、タカラスタンダード、TOTO、LIXILなど
- ・全国ガス器機労働組合協議会(略称:ガス協)
愛知時計電機、ガスター、関西ガスメーターなど
- ・ガス関連産業労働組合連絡会(略称:ガスネット)
東京ガス、大阪ガス、他ガス事業者および上記のガス協など
- ・未来フォーラム
資生堂、セイコーエプソン、富士ゼロックス、マルイ、ツムラ、ライオンなど

※敬称略、順不同

[企業情報トップ](#) ▶ [CSRの取り組み](#) ▶ [社会](#) ▶ [お客さまとともに](#)

CSRの取り組み

▶ CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRTピックス

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

▶ **社会**

» 従業員とともに

» **お客さまとともに**

» 取引先さまとともに

» 株主さまとともに

» 社会とともに

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

お客さまとともに

本業を通した暮らし向上への取り組み

コンタクトセンター

製品情報の開示

CS活動

本業を通した暮らし向上への取り組み

■ ひょうご環境創造協会とタイアップし、「うちエコ診断」を実施

ショールームのイベントで、お客さま向け「うちエコ診断」を実施し、環境配慮商品の拡販につなげています。

お客さまからは、「あらためてコスト削減できることを知るきっかけとなった。」と高評価を得ており、その場での商談から大型リフォームへとつながっています。

ひょうご環境創造協会

<http://www.eco-hyogo.jp/global-warming/center/uchieco/>

エコライフフェア

ノーリツグループでは「エコで快適なくらし」をテーマに、2010年から春と秋に「くらし快適エコライフフェア」を開催しており、2014年秋で10回目をむかえました。これまでも、ノーリツの商品のご案内を通じて、住まいや暮らしに役立つ情報を多くのお客さまに提案してきました。



エコライフフェアのプレゼンテーション

また各ショールームではエコ・クッキング提案を実施しています。自然の恵みへの感謝の気持ちとともに、環境のことを考えて買い物、料理、片づけをするエコなライフスタイルの実践をおすすめし、お客さまと一緒にガス、水、生ゴミの量が大幅に減らし、CO2削減効果を高める取り組みをおこなっています。

エコ・クッキングについては下記ページをご覧ください。

[今日からはじめられる、エコ・クッキング](#)

エコ・クッキング提案活動

- ・実機での比較やポップ・パウチ・レシピチラシを活用し、環境配慮商品を提案（各ショールーム）
- ・エコクッキングを得意先に出向き実施（立川ショールーム）
- ・エコ生活提案会の実施や浴育セミナーの実施（大阪ショールーム）
- ・クッキングナビゲーター（イベント）で食育研修（市川ショールーム）

[ページのTOPへ](#)

コンタクトセンター

お客さまからの「修理・故障」、「点検・所有者票」、「部品・消耗品ご注文」受付をおこなっているコンタクトセンターでは『すべてはお客さまのために』のビジョンのもと、すべてのお客さまに「電話をかけてよかった」と思ってもらえるコンタクトセンターをめざしています。

お客さまの困っていることや疑問に迅速・丁寧に対応できるようコンタクトセンター一体となって、電話対応の品質向上に取り組み、お客さま視点で日々活動しています。

2014年度は約130万件の受付をしました。

365日
24時間
対応!

修理・故障の受付

点検・所有者票の受付

商品のご相談

部品・消耗品のご注文受付

お客さまのお問い合わせに、
迅速にご対応できるよう内容別に受付窓口を設けています。

0120-911-026 (通話料無料)

携帯電話からのお問い合わせ 0570-064-910 (通話料がかかります)

※修理・故障の受付は365日24時間ご対応いたします。その他のお問い合わせ窓口・受付時間については[ホームページ](#)をご覧ください。

■ 電話応対品質向上の取り組み

<実機での確認>

お問い合わせの多いリモコン操作にも迅速にお応えできるよう、実機で確認しています。



<実機研修室>

給湯器やシステムバス、コンロを配置した実機研修室を設け、電話応対者の知識向上に役立っています。



<電話応対コンクールへの出場>

毎年、「電話応対コンクール」に出場し、応対スキルの向上に取り組んでいます。



■ 顧客への対応

ご意見ご要望への対応

ノーリツでは、お客さまより、ご意見・ご要望が寄せられた場合、以下のようなフローで迅速かつ誠実に対応しています。
また、その内容を分析し、関係部門にフィードバックすることにより、製品開発・調達・生産・物流・販売・施工・サービス活動の向上に役立っています。

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範

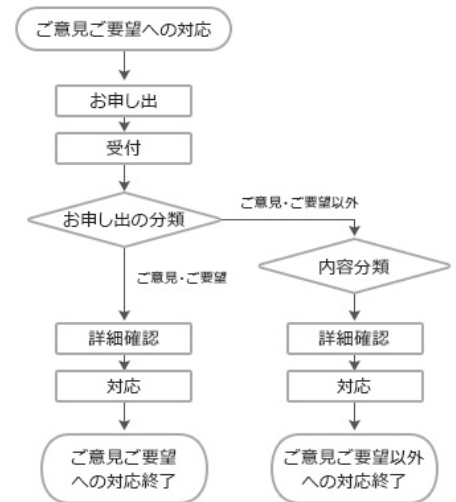
IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト

お問い合わせ窓口一覧

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度
などについて
グループ会社の製品に関する

ご意見ご要望への対応フロー



■ アフターサポートについて

設計品質・生産品質・物流品質・施工品質とともに重要なのがサービス品質です。ノーリツグループでは、お客さまからの修理・保守点検の依頼については、24時間365日に対応し、お客さまにご不便をかけないサポートをおこなっています。

また、サービス店認定制度やサービス品質表彰制度導入により、継続的にアフターサポートの技術力向上を図り、質の高いサービスの提供に努めています。

また、よくあるご質問やお手入れ方法についてお知らせすること、消耗部品や小物についてお客さまへ直接販売することにより、お客さまの日々のご使用をサポートしています。

※詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.noritz.co.jp/product/aftersupport.html>

[ページのTOPへ](#) ↑

製品情報の開示

■ 関係法令等に基づく製品情報の開示・ルールの策定

ノーリツグループでは、お客さまの生命・身体・財産に被害を及ぼす可能性がある製品の事故情報等を入手したときは、ただちにその事実確認をおこない、安全性に欠陥がある場合は法に従い、迅速に所轄官庁およびお客さまに公表しています。お客さまの被害の拡大防止を最優先に行動すると共に、原因究明、再発防止のために迅速かつ誠実に行動しています。

自主点検手続きの公開

お客さまに安全に安心してご使用していただけないような製品・サービス等の欠陥があることが判明した場合は、お客さまの安全を第一に考え、迅速に再発防止に向けた自主点検・無償部品交換のお知らせを公表しています。

[製品安全に関する大切なお知らせ](#)

無償部品交換、修理・点検手続きの公開

お客さまに快適にご使用していただけないような製品・サービスの機能上の不具合が判明した場合は、お客さまのご不便、ご迷惑を最小限にとどめるよう、不具合部位の無償部品交換、修理、点検のお知らせを公表しています。

[部品交換・修理点検の大切なお知らせ](#)

製品を安全にお使いいただくための大切なお願い、注意事項の掲載

製品事故を防止し、お客さまに安心して快適にご使用していただくための大切なお願い、注意していただきたい事例を掲載しています。

[製品を安全に、正しくお使いいただくために](#)

製品事故情報の公開

お客さまに被害を及ぼす可能性のある事故が発生した場合は、安全性確保に向け被害の拡大防止を最優先に迅速かつ誠実に対応し、事故情報を公表しています。

[製品事故情報一覧](#)

■ 分かりやすい情報提供の実施

アフターサポート

ノーリツグループは、お客さまがご使用中の製品について、必要な情報をお伝えできるよう、分りやすく情報を発信します。

[アフターサポート](#)

お問い合わせ窓口

お客さまからのお問い合わせについて、お客さまの立場に立ち、具体的に分かりやすく情報をお伝えします。

[お問い合わせ窓口一覧](#)

[ページのTOPへ](#) ↑

CS活動

■ 品質CSマネジメント体制について

ノーリツでは、グループ会社全体の品質保証業務を統括管理することで、今まで以上に、お客さま満足と品質の向上を達成できると考え、品質保証推進統括部長が議長を務める「グループ品質会議」を毎月開催しています。執行部門における業務改善を推進するとともに、お客さま接点窓口の専門性を高め、**6つの価値**を着実に実現しています。

品質CSマネジメント体制



■ CSアンケート(お客さまへの対応評価を聴き改善する仕組み)

ノーリツでは、お客さまとの「接点」を活用して、製品やサービスにかかわる貴重なご意見を収集し、お客さま満足の向上をめざすため、「CSアンケート」を実施しています。

その中、コンタクトセンターでは「電話対応品質に関する満足度」を測定するCSアンケートを実施しています。

お客さまからいただいたご意見、ご提案を改善につなげ、更なる対応品質向上をめざしています。



■ お客さまの声検討会

ノーリツグループにおけるお客さま満足度向上を推進し、CS風土を醸成することを目的に、「お客さまの声検討会」を開催運営しています。

「お客さまの声検討会」では、ノーリツグループに入るお客さまのお申し出や、社員からの「お客さま目線」での改善課題について審議し、経営者が参加するグループ品質会議や、商品分野別の品質会議に提議し改善を促し、お客さまの声を経営に反映しています。

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

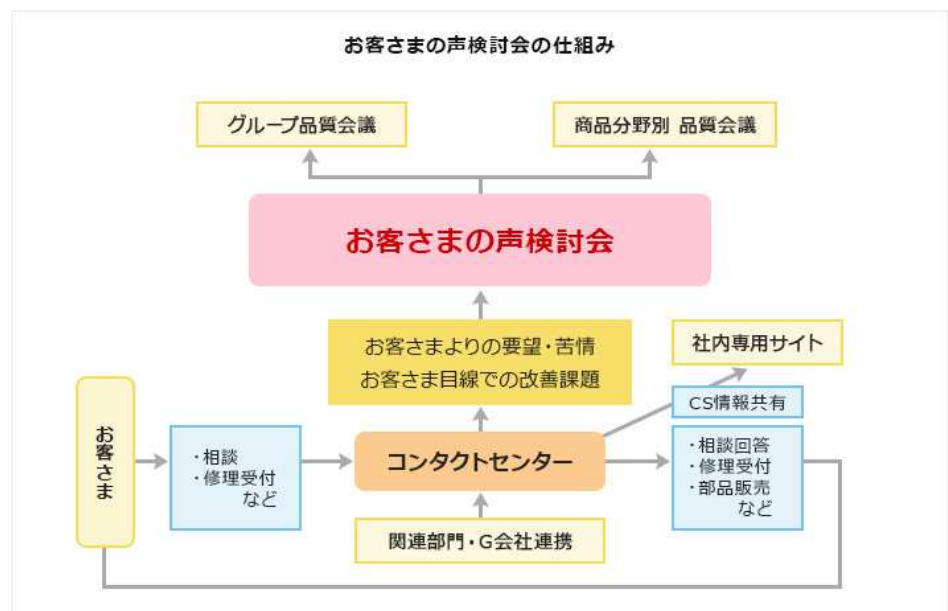
お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

サイト内検索

検索



■ ショールームにおける取り組み

ノーリツの各ショールームではCS向上のための接客・電話応対などの研修をおこなっています。社内のポータルサイトで、期に1度お客さまの声をもとにMVPに輝いたショールームスタッフのインタビューや成功事例、失敗事例なども掲載され、モチベーション向上や情報の共有に繋がっています。



■ VOC(お客さまの声)での改善事例

ノーリツでは、グループ各部門に寄せられた「お客さまの声」を、関連部門が検討し「お客さま目線」で改善して、その「お客さまの声」を製品に活かしています。

たとえば、お客さま相談センターに寄せられた「お客さまの声」を、開発部門にフィードバックして、製品の仕様や取扱説明書の記載方法を改善しています。

お客さまの声を活かした改善事例(1)

ご意見

色々記載してあり、どこを見ればいいのかわかりにくい。

改善点

フルカラーで文字も大き目の「よくある質問をまとめた」冊子と、白黒の「細かな説明」冊子に分冊。よく見るものは見やすくなりやすくなりました。

お客さまの声を活かした改善事例(2)

システムバス取扱説明書をお客様目線でリニューアル！



調べるのに、時間がかかる...

ぜひぜひみんなのお手入れ

おしえて！みんなの使いかた

これならすぐに調べられる！

問い合わせが多いお手入れ編と、使い方編に分冊！

ご意見

知りたいのはお手入れのことが多いけど、色々記載してあって、調べるのに時間がかかる。

改善点

フルカラーの「お手入れ読本」と、白黒の「使い方読本」に分冊。よく見るものは見やすくわかりやすくなりました。

■ スキルアップの取り組み

ノーリツグループでは、お客さまより直接、お問い合わせ・ご相談・ご意見をいただくコンタクトセンターのCS向上をめざし、電話応対者のスキルアップに取り組んでいます。

各種研修の充実

- ・各種の電話応対研修
- ・製品研修（新製品、既存品別の実機研修含む）
- ・検索技能研修（迅速に精度の高い回答をするための検索方法の習得）

レベル別評価制度の導入

毎年、電話応対者の総合的なCS応対力を各種評価項目で評価し、処遇等にも反映させる「レベル別評価制度」を導入しています。評価結果は、フィードバックをおこなうとともに、その後の研修内容にも反映させています。

小さなCS改善サークル活動の実践

お客さま応対における改善点などをテーマに、現状の問題・課題の分析と対策を協議し、改善を進め、その改善効果を確認していく小集団による自主的なQCサークル活動を毎年実施。CS向上意識のアップを継続的に図っています。

[企業情報トップ](#) ▶ [CSRの取り組み](#) ▶ [社会](#) ▶ [取引先さまとともに](#)

CSRの取り組み

▶ CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRTピックス

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

▶ **社会**

» 従業員とともに

» お客さまとともに

» **取引先さまとともに**

» 株主さまとともに

» 社会とともに

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

取引先さまとともに

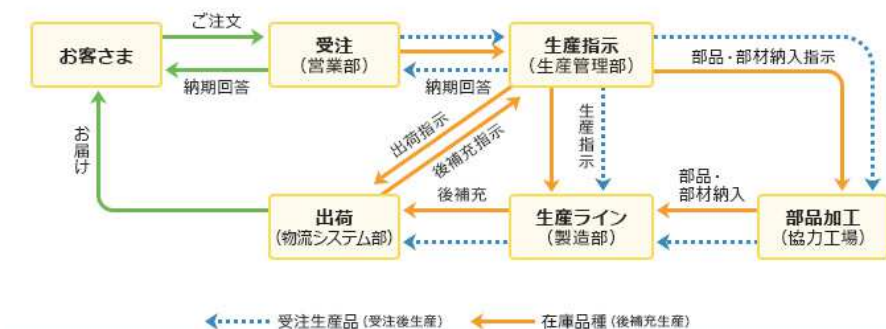
社会からの期待に応える調達活動	CSR調達
製品の環境負荷低減とサプライチェーン	

社会からの期待に応える調達活動

■ NRPS

当社グループは、お客さまのご期待にタイムリーにお応えするため、「必要とされる商品を必要な時にお届けする」NRPS※生産方式を採用しています。この方式は、あらゆる無駄を無くし、短納期でお届けすることをめざすノーリツ独自のもので、明石本社工場のガス温水器ラインをはじめ、当社グループの各事業所における生産ラインでも採用しています。

※NORITZ PRODUCTION SYSTEM



定められた在庫を持つ「後補充生産方式」と、在庫を持たず注文によって生産する「受注生産方式」を併用しています

[ページのTOPへ](#) ↑

CSR調達

■ 調達方針

ノーリツグループは企業活動のために必要な部品などの調達にあたり、ビジネスパートナーと対等かつ公平な立場で取引をおこない、サプライヤーとの共存共栄に努めます。

[調達方針](#)

■ CSR調達

ノーリツでは、電子業界のサプライチェーンにおけるCSRの基準とされるEICC行動規範の要求事項をベースに紛争鉱物（コンフリクト・ミネラル）の問題などへの対応に着手しています。

2014年は紛争鉱物管理システムを導入し、取り組みを進めております。

購入先さまとの連携によってCSRの取り組みを推進し、互いの企業価値向上をめざすために、2014年7月に「ノーリツグループCSR調達ガイドライン」を制定しました。

8月に、ノーリツ協力会会合・品質大会で「ノーリツグループCSR調達ガイドライン」にあわせ、「紛争鉱物」への対応の説明会を開催しました。サプライチェーン全体での取り組みを推進しております。

2015年度は社内およびサプライヤーへのCSR調達に関するアンケートを実施し、現状把握と課題抽出を進めてまいります。

■ 国連グローバル・コンパクト サプライチェーン分科会への参画

ノーリツは、2013年度より国連グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークが主催する、サプライチェーン分科会へ参画し、CSR調達を推進しています。サプライチェーン分科会が考えるCSR調達とは次のようなものです。企業活動がグローバル化し、社会の企業への要求事項が、製品・サービス等に加え、サプライチェーン全体での人権・労働・環境・腐敗防止への取り組みとなっています。ノーリツが製品・資材・原材料などを調達するにあたり、サプライヤーと協働して従来の品質・性能・価格・納入期間と環境・労働環境・人権などのCSR要素を加えて、サプライチェーン全体でCSR活動を推進するこの活動をCSR調達と定義しています。

ノーリツは、サプライチェーン分科会が目指す姿でもある、トリプルWIN調達（バイヤーのWin、サプライヤーのWin、社会のWin）を実現するため、平等の精神の下、バイヤーとサプライヤーが協働し、持続可能な社会の実現をめざして、CSR調達活動を推進して参ります。

■ ノーリツグループCSR調達ガイドライン

2014年7月CSR視点での調達活動を推進するために、「ノーリツグループCSR調達ガイドライン」を制定しました。

[トピックス ノーリツグループCSR調達ガイドラインの制定](#)

[ノーリツグループCSR調達ガイドライン「PDF:0.43MB」](#) 

[ページのTOPへ](#) 

製品の環境負荷低減とサプライチェーン

当社グループは、化学物質管理システムの構築と情報開示、化学物質監査等によるグリーンサプライチェーンの強化に取り組んでいます。詳しくはこちらをご覧ください。

[製品における環境負荷物質低減の取り組み](#)

企業情報	株主・投資家向け情報	CSRの取り組み	採用情報	製品に関する大切なお知らせ
トップメッセージ 企業理念・ビジョン 企業データ 沿革 企業姿勢・規範 ノーリツグループ行動基準 コーポレート・ガバナンス 調達活動 企業スポーツ活動 ノーリツチャンネル	IRニュース トップメッセージ 個人投資家、株主の皆様へ 経営方針 業績・財務データ IRライブラリー 株主情報 IRイベント 電子公告 よくあるご質問 免責事項	トップメッセージ ノーリツグループのCSR 国連グローバルコンパクト エコ・ファーストの約束 3つの笑顔プロジェクト CSRトピックス 品質 環境 社会 ガバナンス 第三者意見 国際的イニシアティブとの整合 報告書一覧 編集方針	お問い合わせ窓口一覧	製品を安全に、正しくお使いいただくために 長期使用製品に関する制度などについて グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意 その他、製品に関するご連絡、ご注意

サイト内検索

検索

CSRの取り組み

CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRTピックス

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

▶ **社会**

» 従業員とともに

» お客さまとともに

» 取引先さまとともに

» **株主さまとともに**

» 社会とともに

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

株主さまとともに

株主さまとの対話

個人株主さま限定イベント

配当方針など

株主さまとの対話

■ 決算説明会

ノーリツグループでは、四半期に1回、決算発表をおこなっています。また2月と8月には決算説明会、3月には株主総会を開催しています。

年間スケジュール

2月中旬 決算発表
2月中旬 決算説明会
3月下旬 株主総会
3月下旬 株主通信発行
3月下旬 有価証券報告書発行
5月上旬 第一 四半期 決算発表
8月上旬 第二 四半期 決算発表
8月上旬 第二 四半期 決算説明会
11月上旬 第三 四半期 決算発表

IRカレンダー

[詳細はこちら](#)

個人株主さま限定イベント

個人株主さまにノーリツグループのことをより深くご理解いただくため、「第2回個人株主さま限定イベント」を2014年5月に開催しました。多数のご応募の中から、抽選で18組31名の方々に、当社の経営に対する考え方を説明し、従業員の働く姿をご覧いただきました。
今後も、株主さまとのコミュニケーションを図れるよう努力してまいります。

個人株主さま限定イベントのご報告

[第1回詳細はこちら](#)

[第2回詳細はこちら](#)



決算説明会

[ページのTOPへ](#)



個人株主さま限定イベント

[ページのTOPへ](#)

配当方針など

配当方針、株主還元などは株主・投資家向け情報からご覧ください

[株主・投資家向け情報](#)

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束

採用情報

[お問い合わせ窓口一覧](#)

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関する

CSRの取り組み

CSRの取り組み

- ▶ トップメッセージ
- ▶ ノーリツグループのCSR
- ▶ 国連グローバル・コンパクト
- ▶ エコ・ファーストの約束
- ▶ 3つの笑顔プロジェクト
- ▶ CSRトピックス
- ▶ Q+ESGについて
- ▶ 品質
- ▶ 環境
- ▶ **社会**
 - » 従業員とともに
 - » お客さまとともに
 - » 取引先さまとともに
 - » **社会とともに**
- ▶ ガバナンス
- ▶ 第三者意見
- ▶ 国際的イニシアティブとの整合
- ▶ 報告書一覧
- ▶ 編集方針

社会とともに

地域社会との共生	災害復興支援
社会貢献	スポーツ
グループ会社	グローバル

地域社会との共生

■ 薪割り体験イベントを共催

薪風呂釜販売から事業を起こしたノーリツの歴史と、公園や樹木の大切さを学ぶ事を目的に、薪割り体験イベントを5月と11月に開催しました。明石公園の伐採木を有効活用し、公益財団法人 兵庫県園芸・公園協会、国立明石工業高等専門学校との共催でおこないました。11月には薪ストーブで沸かしたお湯を使った「足湯コーナー」を提供し、地域の皆様に楽しんで頂きました。



薪割りを楽しむ地域市民たち

■ トライやる・ウィーク

ノーリツグループでは、次世代育成活動のひとつとして、1998年から兵庫県がおこなっている「トライやる・ウィーク」に協力しています。毎年、働くことの大切さや楽しさを実感してもらうとともに、社会の一員としての育成を支援することを目的に、近隣の中学2年生への職場体験を実施しています。

2014年度は、6月に5日間のプログラムで明石市の中学校の生徒3校6名が参加しました。期間中は、明石本社工場と本社各事業部、エスコアハーツなど、各所で工場見学や作業体験、技術研修、商品についての体験学習などを実施。給湯器を作るだけでなく、部品を供給する部門、商品を売る部門、社員が働きやすいように工場を管理する部門などがあって会社が成り立っている、ということを実に意識して体験してもらいました。このような体験を通じて、中学生たちが当社の事業への興味を抱き、また自身の将来を考えるきっかけにしてほしいと期待するとともに、今後は現場で働く社員とのコミュニケーションを深める機会を増やしていきたいと考えています。

※トライやる・ウィーク：1998年度から兵庫県が、県内の中学2年生を対象に実施している職場体験プログラム。県下の企業での職場体験を通じて地域や社会について学び、生きる力を育むことを目的としています。



〈感想文より〉

- ・単純な作業が何時間もあり、しんどかったがその分やりがいがあったので良かった。
- ・仕事や食事もみんなで一緒にする事が楽しかった。最終日には仕事も早くできたとし、体感入浴も気持ちよかった。
- ・今まで会社での仕事というのは自分たちには関係がないことだったのでよく知らなかったが、ノーリツで学んだ事は初めてで新鮮な体験だった。
- ・いろんな体験ができ、社員の方々が優しくとてもいい会社だと思った。

■ クリーンウォーク

ノーリツグループは2010年から毎年11月、ボランティア活動の一環として明石本社工場エリアでクリーンウォークを実施しています。これまでの清掃活動は工場周りの清掃が中心でしたが、4回目を迎える2013年は、地域社会への貢献に重点を置き、近隣公園内の清掃やベンチのペンキ塗りなどの美化活動をおこないました。また、2013年度は同公園のプールへ給湯器を贈呈し、地域の方々が快適に利用できるような環境作りにも貢献しています。当初は明石本社工場（NAMエリア）のみでの活動でしたが、営業支店でも活動の輪が広がっています。今後もこのような活動の輪が広がるよう継続して取り組んでいきます。

※2014年は天候不順につき明石本社工場エリアでの活動を見送



神奈川支店のクリーンウォーク

りました。

■ 地元へのご協力

ノーリツは地域社会との共生をめざして、神戸市で開催される文化・スポーツの催し(神戸まつり、こうべ海の盆踊り、みなとこうべ海上花火大会、インフィオラータこうべ、元町イースト・ジャズビクニック、C・A・P、スポンサー花壇、南京町春節祭など)に積極的に協賛しています。

また、ノーリツ本社が所在する神戸市旧居留地域では、2004年より地元企業と協力して、毎月清掃活動を行っています。そして、神戸マラソンでは地元企業としてノーリツ女子陸上競技部の選手も参加しており、今後もイベントの活性化につなげていきたいと考えています。



第4回 神戸マラソン



神戸三ノ宮フラワーロード沿いのスポンサー花壇

■ 障がい者雇用促進に向けて

エスコアハーツの雇用促進の取り組み

特例子会社エスコアハーツは、都道府県労働局による企業就労理解促進事業に合わせ、就労支援機関や学校関係、一般企業からの事業所見学の受け入れをおこなう一方、障がい者に対する職場実習推進として、毎年多数の実習生を受け入れています。

エスコアハーツの受け入れ状況の推移

	2011年	2012年	2013年	2014年
事業所見学者数	892名	900名	911名	273名
実習生受入者数	71名	171名	162名	45名

■ ノーマライゼーション理念の浸透に向けてエスコアハーツの取り組み

全国障害者スポーツ大会にも参加し、バレーボールやサッカーなどの競技の兵庫県代表に選出。

障がい者がスポーツを楽しむことで、喜びを感じ、自己実現や社会参加が図れる啓発活動にも取り組んでおります。



障害者の就労を支援する為に、兵庫県障害者職業センターが開催した就業支援基礎研修で、エスコアハーツが実践している特例子会社での事例活動を紹介しました。

就業支援基礎研修とは、就労移行支援事業者、福祉機関、医療等の関係機関の就業支援担当者を対象に、効果的な職業リハビリテーションを実施するために必要な基本的知識・技術等の習得を目的とした研修です。



[ページのTOPへ](#) ↑

災害復興支援

■ 阪神淡路大震災

神戸ルミナリエ

神戸ルミナリエは、阪神淡路大震災の犠牲者への鎮魂・追悼と、被災した都市の復興・再生の夢と希望を託して、震災の年に開始されたイベントで、2014年に20回目を迎えました。当時被災し救援・支援を受けた神戸の一企業として、ノーリツは毎年開催協賛金の提供をさせていただいています。

2012年度から、従業員による募金に加え、希望者による会場内の清掃ボランティアを実施しています。

ノーリツグループはこれからも地元神戸の復興支援として神戸ルミナリエを支援していきます。

■ 東日本大震災

みちのく未来基金

2013年からノーリツは公益財団法人「みちのく未来基金」の支援企業として、被災地の皆さんとともに歩んでいくことを決定しました。同基金は、東日本大震災によってかけがえのない親を亡くした子どもたちの、高校卒業後の進学を支援する目的で設立されました。この活動に共感した多くの企業や団体が、力を合わせて取り組んでいます。

当社ではこれまでも阪神・淡路大震災の被災企業として神戸ルミナリエ開催協賛金、従業員による義援金を通じて地元の支援をおこなってききましたが、東日本大震災復興のために、私たちに何ができるのかを検討し、微力ながら同基金への支援をおこなっています。2014年度は従業員から義援金を募り、また対象商品の販売台数に応じた会社からの義援金を合わせて同基金へ寄贈しました。



毎年12月に開催される「神戸ルミナリエ」
(C) Kobe Luminarie O.C.



■ 広島土砂災害

広島土砂災害復興ボランティア

2014年8月20日に広島市北部安佐南区・安佐北区で発生した土砂災害のボランティア活動をおこないました。

従業員が声を上げ、労働組合を含めた有志が計3回総勢10名が参加し、田畑の土砂運び出しや家屋の泥のかき出し等の復興支援をおこないました。



土砂運び出しのボランティア

[ページのTOPへ](#) ↑

社会貢献

■ エコキャップ活動

ノーリツグループでは、エコキャップ活動に取り組んでいます。エコキャップ活動とは、ペットボトルのキャップを外して集め、再資源化することでCO2の削減に貢献し、その売却益で発展途上国のお子さまたちにワクチンを贈る活動です。

ワクチンは、ポリオ（小児マヒ）一人分キャップ約860個、BCG（結核）一人分キャップ約301個必要です。

現在、当活動は、兵庫県明石市のノーリツコンタクトセンターをはじめ、各拠点で自主的に活動が広がっており、2015年も活動を継続しています。



■ 家族見学DAY

ノーリツグループでは毎年、従業員のお子さまたちに、お父さんやお母さんが元気に働く姿を見てもらう「家族見学DAY」を実施しています。この取り組みは、次世代育成活動の一環として、家族のコミュ

ニケーションを育むことを目的としています。2014年度は8月に実施し、従業員のご家族計16家族47名(うちお子さま27名)が参加しました。

明石市の紹介やノーリツグループの歴史・社会貢献活動などの説明、給湯器が製造される工場の見学、職場探検などをおこないました。

このような取り組みを通し、ご家族の仕事や働く現場に対する理解を深めていただいています。



夏休み お子さま工場見学会

[ページのTOPへ](#)

スポーツ

■ ノーリツ女子陸上競技部

活動の詳細はこちら

<http://www.noritz.co.jp/company/sports/athletic.html>



ノーリツ女子陸上競技部一同

■ ノーリツフェンシング部

活動の詳細はこちら

<http://www.noritz.co.jp/company/sports/fencing.html>



[ページのTOPへ](#)

グループ会社

■ 関東産業株式会社の取り組み紹介「餅つき大会」

グループ会社の関東産業株式会社(群馬県前橋市)では、毎年1月に芳賀東部工業団地の企業と協力して地域とのコミュニケーションを図る目的で「餅つき大会」を実施しています。2015年度は近隣住民、地元の少年サッカーチームや野球チームのメンバーとその保護者など約300名を招き、子どもたちの餅つき体験をおこないました。同社の従業員もボランティアとして参加しました。参加者はつきたてのお餅をほおばり、楽しく過ごしました。ノーリツグループではこれからも地域に根ざした社会をめざし、地域貢献に取り組んでいきます。



大会の様子

■ 株式会社アールビーの取り組み

グループ会社の株式会社アールビーは、地域社会への貢献を目的として、茨城県かすみがうら市の「かすみがうらマラソン」の支援としてで給水ボランティア活動をおこなっています。4月20日(日)に開催された「第24回かすみがうらマラソン」では、アールビーおよびカシマの社員とその家族約80名が参加。10マイル(16キロ)とフルマラソンの5キロ地点の給水ポイントとなる、アールビー神立工場に給水所を設置し、ランナーたちに応援を送りました。

同社は、2007年より当イベントに毎年、参加しており、昨年度で7回目。今後も、地域貢献活動の一環として、当活動を継続していきます。



準備中の参加者



マラソンの様子



給水をおこなう参加者

[ページのTOPへ](#)

グローバル

ノーリツアメリカ スポーツへの支援

ノーリツアメリカは、地域社会貢献の1つとして、南カリフォルニアのバスケットボールクラブチーム『HOPPS』のスポンサーをしています。恵まれない子どもたちにメンバー費用とチームのユニフォームを提供し、大好きなバスケットボールをする機会に貢献しています。

チームコーチからの感謝状

私たちは、多くのサポーターに加えてノーリツアメリカがスポンサーとなった事により、恵まれない5人の子どもたちにメンバー費用とチームのユニフォームが提供され、バスケットボールをする機会が得られたことに感謝しています。子どもたちがこの経験を通して成長し、将来社会貢献してくれることと確信しています。



ノーリツアメリカ 社会への貢献

ノーリツアメリカでは従業員が協力し、地域の社会貢献活動の一環として、毎年クリスマスの時期に子どもたちへおもちゃの贈り物をしています。
2014年はCHOC※に入院している子どもたちに贈り物をしました。また、11月の収穫祭の時期には、地元の非営利団体による飢餓と栄養失調の防止を目的とした食品寄付活動、「OCフードバンク運動」に協賛しました。

※CHOCとはカリフォルニア州に設立された非営利の小児科専門病院で、難病を抱えた子どもたちが入院しています



子どもたちへの贈り物



OCフードバンクへの食品寄付

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

サイト内検索

検索

CSRの取り組み

▶ CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRトピックス

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

▶ 社会

▶ **ガバナンス**

» コーポレート・ガバナンス

» コンプライアンス

» リスクマネジメント

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

ガバナンス



当社グループの長期的な企業価値創造には、正しい経営判断や迅速な意思決定は欠かすことが出来ません。幅広いステークホルダーの利益を考慮し、透明性が高く、より健全な企業経営が実行できる仕組みや体制を整備していきます。

コーポレート・ガバナンス

経営の健全性、透明性を高め、意思決定の迅速化と経営判断の最適化を図るべく取り組んでいます。

コンプライアンス

法令、定款、社内規程および社会規範等も含めた「企業倫理」遵守のため、各種推進活動をおこなっています。

リスクマネジメント

リスクを事前に回避、万一発生した場合は被害を最小限に、自浄作用が働く組織の確立をめざしています。

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

サイト内検索

検索

CSRの取り組み

CSRの取り組み

- ▶ [トップメッセージ](#)
- ▶ [ノーリツグループのCSR](#)
- ▶ [国連グローバル・コンパクト](#)
- ▶ [エコ・ファーストの約束](#)
- ▶ [3つの笑顔プロジェクト](#)
- ▶ [CSRトピックス](#)
- ▶ [Q+ESGについて](#)
- ▶ [品質](#)
- ▶ [環境](#)
- ▶ [社会](#)
- ▶ [ガバナンス](#)
- ▶ [コーポレート・ガバナンス](#)
 - » [コンプライアンス](#)
 - » [リスクマネジメント](#)
- ▶ [第三者意見](#)
- ▶ [国際的イニシアティブとの整合](#)
- ▶ [報告書一覧](#)
- ▶ [編集方針](#)

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方	コーポレート・ガバナンス体制の概要
内部統制システム構築に関する基本方針	取締役および監査役の報酬
コーポレートガバナンス報告書	

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

ノーリツは、コーポレート・ガバナンスの充実を経営の最重要課題のひとつであると認識し、経営の健全性、透明性を高め、意思決定の迅速化および経営判断の最適化を図るべく、体制を整備し、諸施策を適宜実施していくことが必要と考えています。

[ページのTOPへ](#) ↑

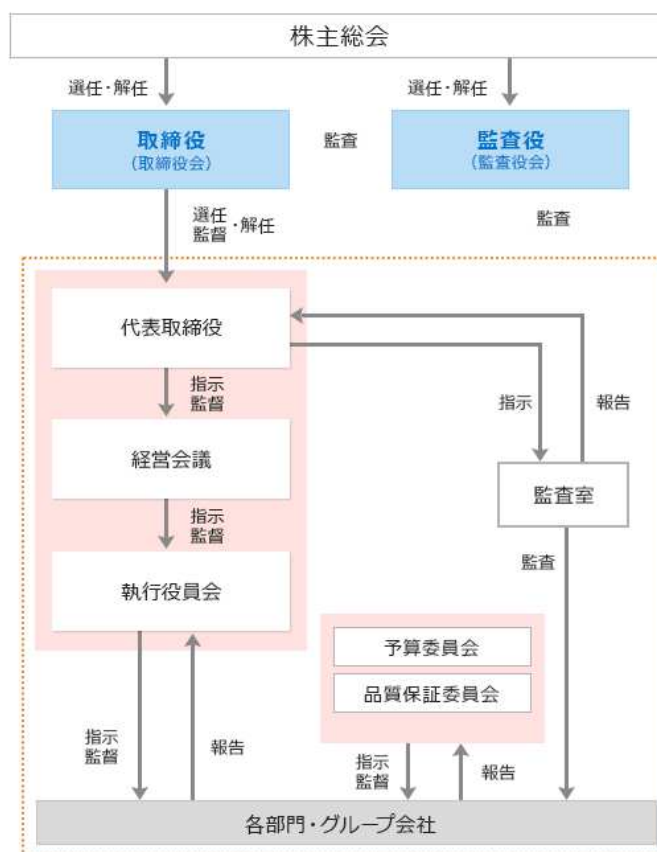
コーポレート・ガバナンス体制の概要

当社は、取締役会と監査役・監査役会によるコーポレート・ガバナンス体制を採用しています。

取締役会は、社外取締役1名を含む7名の取締役で構成され、毎月開催される定時取締役会や必要に応じて開催される臨時取締役会により、経営に関する重要事項について意思決定をおこないます。社外取締役ににつきましては、独立した立場から経営判断の合理性を確保することや、経営の効率性を改善することを目的として設置しています。

監査役会は、社外監査役2名を含む4名の監査役で構成され、毎月開催される定時監査役会で、取締役会に上程される議案を事前に審議しています。社外監査役ににつきましては、取締役の職務執行に対する監査を独立した立場からおこなうことを目的として設置しています。

コーポレート・ガバナンス体制（模式図）



[ページのTOPへ](#) ↑

内部統制システム構築に関する基本方針

当社は、会社法および会社法施行規則等に則り、当社および当社グループ会社において業務の遂行および経営体制を適正かつ効率的に運営していくことを確保するため、内部統制システムに関する基本方針を以下の通り定めています。

[内部統制システム構築に関する基本方針\[PDF:127KB\]](#) 

[ページのTOPへ](#) 

取締役および監査役の報酬

当社は、取締役および監査役の報酬等の総額を各々、開示しています。

■ 第65期(平成26年1月1日から平成26年12月31日まで)の取締役および監査役の報酬等の総額

区分	人数	報酬等の総額
取締役	7名	252,673千円
監査役	4名	48,744千円
合計	11名	301,417千円

■ 上記のうち社外役員の報酬等の総額

区分	人数	報酬等の総額
社外取締役	1名	6,000千円
社外監査役	2名	7,776千円

[コーポレート・ガバナンス報告書\[PDF:126KB\]](#) 

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

サイト内検索

検索

CSRの取り組み

CSRの取り組み

- ▶ トップメッセージ
- ▶ ノーリツグループのCSR
- ▶ 国連グローバル・コンパクト
- ▶ エコ・ファーストの約束
- ▶ 3つの笑顔プロジェクト
- ▶ CSRTピックス
- ▶ Q+ESGについて

品質

環境

社会

ガバナンス

» コーポレート・ガバナンス

» **コンプライアンス**

» リスクマネジメント

第三者意見

国際的イニシアティブとの整合

報告書一覧

編集方針

コンプライアンス

コンプライアンスの定義	ノーリツグループ行動基準
コンプライアンス推進体制	コンプライアンス推進活動
ノーリツホットライン	

コンプライアンスの定義

ノーリツグループでは、コンプライアンスを「法令、定款、社内規程および社会規範等も含めた『企業倫理』の遵守」と定義しています。

[ページのTOPへ](#) ↑

ノーリツグループ行動基準

当社グループでは、お客さまや社会から選ばれ続ける企業グループとなるため、『ノーリツグループ行動基準』を制定しています。

この行動基準を通じて、グループ内の全従業員が「正しい行動」についての価値観を共有し、グループ全体でコンプライアンス意識の維持・向上をめざしています。

[ノーリツグループ行動基準\[PDF:1.52MB\]](#) 

[ノーリツグループ行動基準\(英語版\)\[PDF:1.78MB\]](#) 



[ページのTOPへ](#) ↑

コンプライアンス推進体制

当社グループでは、グループ内のコンプライアンスを実践するため、次のような推進体制を確立し、運用しています。

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調連活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRTピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

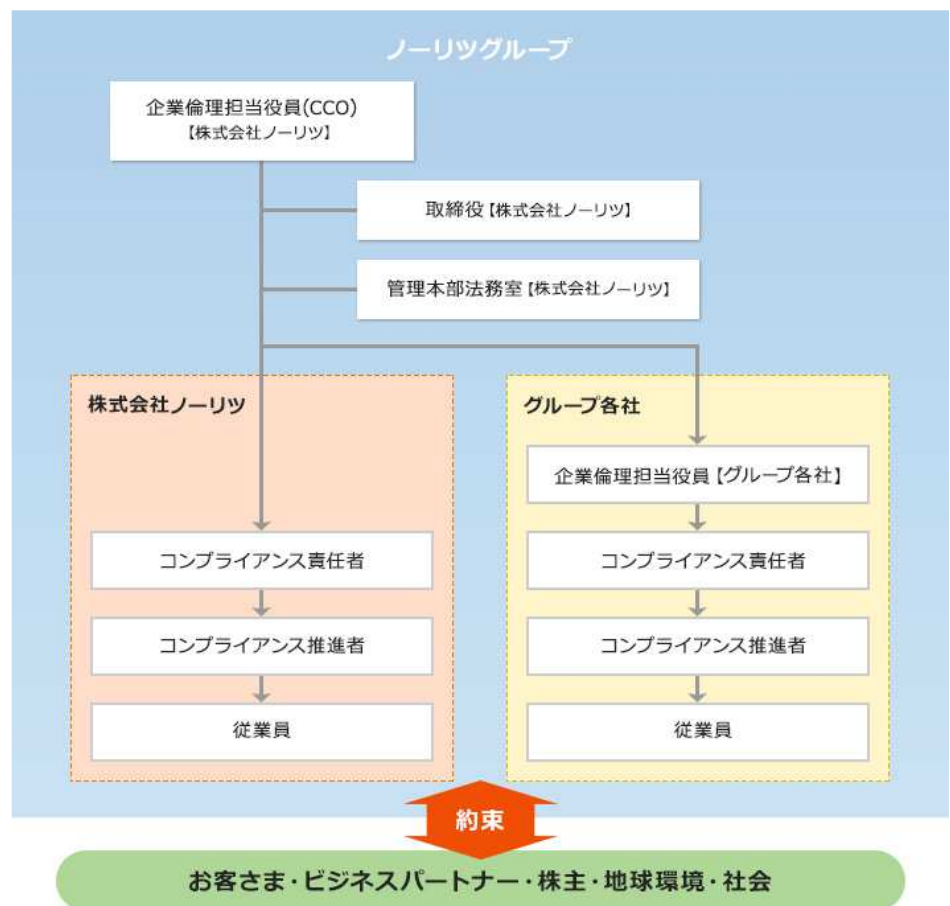
お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

サイト内検索

検索



[ページのTOPへ](#)

コンプライアンス推進活動

当社グループ全体としてコンプライアンス意識が浸透・定着した組織風土を実現するために、次のようなコンプライアンス推進活動を継続実施しています。

- ・ 新入社員、新任管理者、各部門のコンプライアンス責任者・推進者を対象とした「コンプライアンス研修」
- ・ グループ全体の各部門が同一のテーマについて考える「コンプライアンス月間」(毎年5月・9月に実施)



コンプライアンス研修

コンプライアンス推進活動のPDCAサイクル



■ 2014年の活動

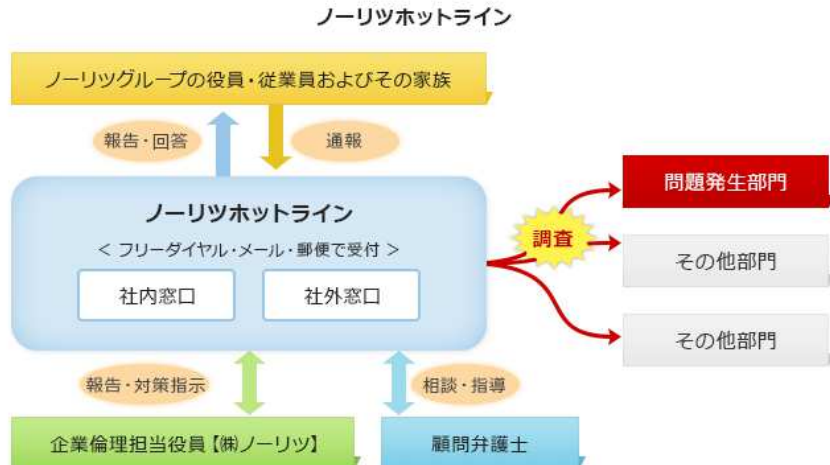
国内	・ ノーリツグループ全体のコンプライアンス風土の定着を図るため、これまでの「ノーリツグループ行動基準」を大幅に改定し日本語版(4月)と英語版(9月)を作成しました。また、国内グループ会社とノーリツアメリカ全従業員へ配布し、周知徹底しています
アメリカ	
国内	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年5月、9月にコンプライアンス月間を設けました ・ 8月コンプライアンス意識調査の実施と調査結果に対するフィードバックをおこないました
アメリカ	・ 9月行動基準改定時に、全従業員に課題の提出を義務づけました

ノーリツホットライン

当社グループの役員および従業員は、法令違反行為や重大な社内規程違反などの情報を、直属の上司や関連部署に通報する義務があります。しかし、その情報を報告しても直属の上司や関連部署から支援を得られない場合や、報告を避けたい理由がある場合には、その通報先として、「ノーリツホットライン」に連絡することができます。

通報の受付は社内窓口と社外窓口（社外の弁護士事務所）の2つを設けており、通報者は事情に応じていずれかを選択できます。また、役員・従業員の家族からの通報も受け付けます。

通報の受け付けは専門担当者のみが担当し、その後の調査等も含めたいずれの段階においても、通報者の秘密は守られます。また、通報した本人がそのことを理由として不利益を受けることのないよう、運用規程により報復行為を禁止しており、通報者を保護します。



CSRの取り組み

① CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRTピックス

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

▶ 社会

▶ **ガバナンス**

» コーポレート・ガバナンス

» **コンプライアンス**

» **リスクマネジメント**

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

リスクマネジメント

内部統制の強化 ～自浄作用が働く組織の確立～	基本方針
ノーリツグループ共通リスクの洗い出しと危機管理規程の改定	BCP(事業継続計画)
安全衛生活動の推進	情報セキュリティ
知的財産活動	環境汚染防止

内部統制の強化 ～自浄作用が働く組織の確立～

経営の品質を高めるには、内部統制を整備する必要があります。

ノーリツグループでは行動基準をもとに、次の3つに取り組み、自浄作用が働く組織の確立をめざしています。

コンプライアンス

法令だけでなく社会規範も含む企業倫理を遵守し、公正・公平に業務を遂行する人を育成する

財務報告の信頼性確保

「金融商品取引法」に定める内部統制報告制度に対応した仕組みを確立する

業務の有効性、効率性の向上

継続的な改善が実施できる組織を確立する

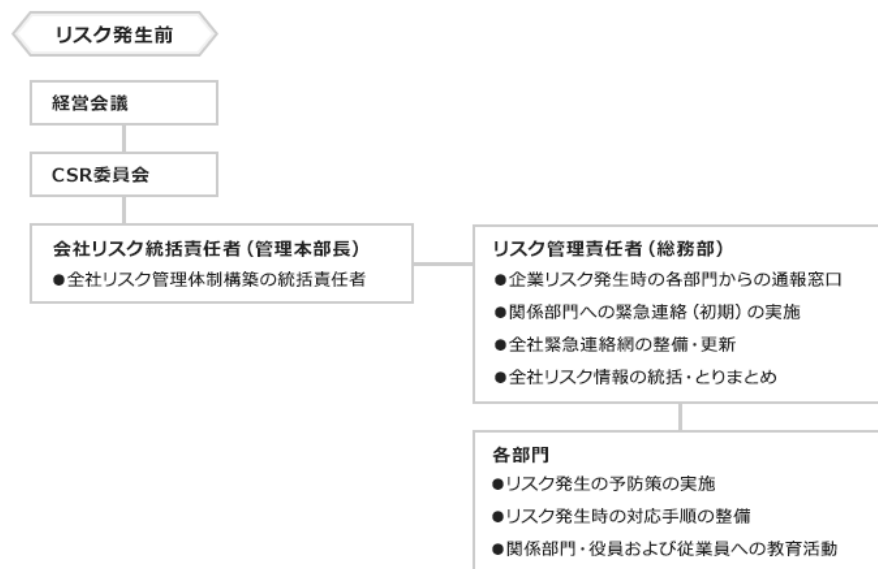


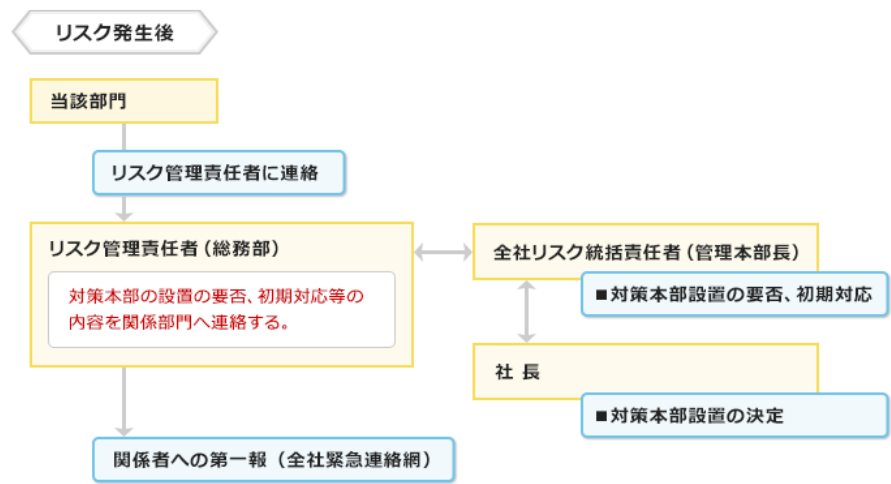
[ページのTOPへ](#) ↑

基本方針

当社の危機(企業リスクの発生)を事前に回避し、万一、企業リスクが発生した場合には危機管理規程ならびに関係規程・要領・マニュアル等に従い、被害を最小限に食い止めることを目的とする。

リスク対応組織図





[ページのTOPへ](#)

ノーリツグループ共通リスクの洗い出しと危機管理規程の改定

会社と従業員をリスクから守るためには、リスクに対応できる組織風土を形成しなくてはなりません。2014年度は、ノーリツグループ従業員が共通して取り組むリスク（共通リスク）について、現場レベルでの遵守事項をまとめた「共通リスクチェックシート」を各リスク管理部門と共同で作成しました。このシートを活用し、主要部門とグループ会社の管理責任者向けにセルフチェックを実施し、各職場での遵守状況の確認、全社のリスク規程である危機管理規程を改定し、新たなリスクへの対応と社内管理体制を整備しました。

共通リスク一覧表（抜粋）

自然災害・パンデミック	自然災害（地震・風水害）
	パンデミック
事故・過失によるリスク	火災・爆発・交通事故
	環境問題
	労働問題（過重労働他）
	人権（ハラスメント・差別）
	機密情報・個人情報の不正取得・漏洩・不正利用
	コンピュータウイルス・スパムメール等
	腐敗防止（各種法令違反・反社会的勢力の排除等）

[ページのTOPへ](#)

BCP（事業継続計画）

ノーリツグループでは、自然災害などにより工場や事業所などの各拠点に被害が生じた場合を想定した事業継続計画（BCP）の検討・策定に取り組んでいます。2014年度は、有事における初動対応の取り組みをさらに深掘りし、訓練による実践と継続課題の対応に重点を置きました。

少しでも津波による被害を受ける可能性のある拠点の防災訓練では、想定シナリオを作成し、従業員の避難に特化した訓練をおこないました。また、全社的なサポート体制として、従業員の安否連絡訓練や、帰宅困難者を想定した災害備蓄の再整備に取り組み、自社物件をBCPの観点からあらためて整備し、移転や建て直し等の方向性を決定しました。災害発生時における従業員の安全確保や被災状況を早急に把握することで、早期にお客さまへのサポート体制を構築したいと考えております。

[ページのTOPへ](#)

安全衛生活動の推進

ノーリツ（グループ）の安全衛生活動は、『安全と健康に配慮した職場づくり』をめざして展開しています。具体的には、事業所毎に安全衛生委員会を活用し、PDCAサイクルをまわす取り組みを実施していますが、その実施レベルは事業所によりバラツキがあります。その解消に向けては、事業所毎の安全衛生計画に対する進捗確認や、安全衛生に関する定期的な情報発信をおこなうことで全社共通での徹底・啓蒙を図っており、各事業所における実施レベルの向上に向けて取り組んでいます。

[安全で健康に配慮した職場をつくる](#)

[ページのTOPへ](#)

情報セキュリティ

■ 情報セキュリティに関する方針

ノーリツグループでは、全役員および全従業員が、情報セキュリティの重要性を十分認識し、事業活動で利用する情報資産を適切に扱うことを基本方針にしています。この方針は、ノーリツグループ行動基準の「第3章従業員との関係（3）情報セキュリティの徹底」の項に規程し、全役員・全従業員に周知するとともに、法令や社会環境の変化に対応し、情報セキュリティをより確実に運用するため、

関係する規程類を継続的に見直しています。

■ 情報セキュリティの管理体制

ノーリツグループでは、情報セキュリティを経営課題として取り組むために、全社情報セキュリティ管理責任者を設け、グループ全体の情報セキュリティ対策やこれに関する事項を継続的に統括・推進します。また、各部門・グループ会社での情報セキュリティ実施に関しては、各部門責任者がこれを担い、「社内規程である情報セキュリティ基本規程の自部門内での適用」「自部門内での情報セキュリティ教育の実施」「自部門内でのリスク分析・評価の実施」等をおこなっています。

全社情報セキュリティ管理責任者は、情報セキュリティ強化やその推進のために必要に応じて「情報セキュリティ会議」を開催し、管理体制の維持をおこないます。

■ 情報セキュリティ対策

ノーリツグループでは、情報セキュリティ事故の防止に向けて、「人的・組織的」「技術的」「環境的・物理的」の3つの面で情報セキュリティ対策を実施しています。

人的・組織的な対策

- ・情報セキュリティ関連規程の定期的な見直し
- ・情報セキュリティ体制の構築と維持
- ・定期的な全役員および全従業員への情報セキュリティ研修

技術的な対策

- ・電子メール添付ファイル自動暗号化による情報盗聴防止
- ・電子メールモニタリングによる社外への不正な送信防止
- ・スパムメール対策による、内部への侵入防止
- ・ウェブフィルタリングにより危険なサイトへのアクセス制限

環境的・物理的な対策

- ・情報機器関連施設への立ち入り制限と入退出管理の徹底
- ・情報機器の持ち出し管理の徹底

■ 情報セキュリティ教育

ノーリツグループでは、全役員および全従業員が、情報セキュリティ方針およびセキュリティ要求事項を認識し、情報と機器の不正利用や過失による事故を未然に防ぐことを目的として、情報セキュリティ教育を実施しています。2014年度は、コンプライアンス月間において、ノーリツグループ行動基準で定めている「会社機密情報の保持」について話し合う機会を設け、機密情報漏えいリスクの再認識と意識レベルの向上に取り組みました。今後も継続的にこのような機会を設け、情報セキュリティレベルの向上を図っていきます。

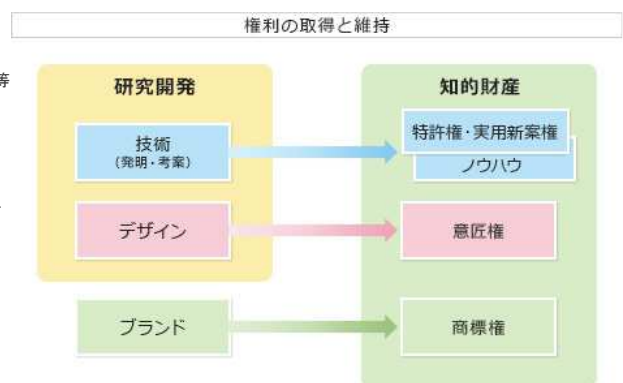
[ページのTOPへ](#) ↑

知的財産活動

ノーリツグループでは、研究開発の成果を知的財産として保護することと、他者の知的財産権を侵害することを未然に防ぐことを知的財産活動の基本としています。

■ 知的財産の保護

研究開発において技術的に優れ、自社にとって有益な発明の発掘をおこない、特許権等の知的財産権として取得し、その権利の活用と維持管理を推進しています。その他、研究開発から生じた知的財産以外の技術情報などの漏洩防止にも注力しています。

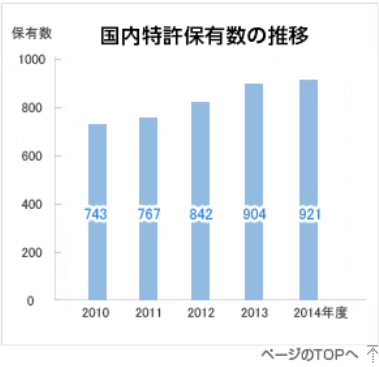


■ 技術者への啓蒙教育

知的財産の保護と侵害防止について体系的な教育プログラムを策定し、開発にあたる技術者へ知的財産にかかわる知識の習得と発明意識の向上に向けた啓蒙教育をおこなっています。

■ ノーリツの国内特許の動向

ノーリツでは研究開発の結果、創出した発明を有効に活用するため、積極的な権利化をおこなっています。また、効率的な特許権などの運用をするため、製品・事業などへの実施が見込めない権利については、再評価をおこない放棄するなど適切な資産管理にもつなげています。



環境汚染防止

ノーリツグループでは、環境汚染の防止については、環境関連法規制および関連基準を遵守しており、ISO14001に基づいた評価も実施し、環境リスクの低減、環境汚染の防止に努めています。

環境汚染防止

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

サイト内検索

検索

[企業情報トップ](#) ▶ [CSRの取り組み](#) ▶ [第三者意見](#)

CSRの取り組み

CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRトピックス

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ **第三者意見**

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

第三者意見

2014年 ご意見と対応状況

第三者意見

第三者意見を受けて

2014年 ご意見と対応状況

寄せられたご意見	2014年度のノーリツグループの対応
人権、労働、CSR調達に対する要求	社内講師による新入社員・階層別人権研修の実施、CSR調達ガイドラインの制定と人権研修の開催、ノーリツグループ行動基準への明記をおこないました。
人権のバリューチェーンの洗い出しがなされていない	紛争鉱物調査に向けた仕入先説明会の実施と調査開始。ビジネスパートナーへのサプライチェーンマネジメントヒアリング。

第三者意見(2014年度の活動における)

ノーリツグループのCSRの取り組みとその情報開示に基づき、第三者意見を提出します。

ノーリツグループは、2012年にガス石油機器業界で初めて国連グローバル・コンパクトに署名されました。署名企業による分科会活動には、CSR推進部門のみではなく経営企画部門、資材購買部門、営業部門からも参加をされ、部門横断的に社外との交流を通して活動を進める姿勢を評価致します。2014年には、行動基準の改定、CSR調達ガイドラインの制定をおこなわれ、CSR活動の基礎になる方針等の整備が進みました。CSR活動の情報開示については、「NORITZ REPORT 2015」に刷新されました。事業の歴史、直近の事業状況や、品質・環境・社会・ガバナンスの情報を束ね、統合報告を意識した内容となっています。今後、海外事業にあわせた多言語での展開も進められることを期待致します。



CSR活動の内容では、人権やサプライチェーン・バリューチェーンにおける取り組みを強化していかれると伺いました。ノーリツグループのステークホルダーにとっての「あたりまえのこと」に配慮するという姿勢で事業活動を点検し、ステークホルダー満足の向上につなげられることを期待致します。

CSRマネジメントでは、マテリアリティの特定や非財務KPI目標の設定など、意欲的な計画をお持ちです。ここで最も重要だと考えるのは、CSRの推進がどのようにノーリツグループの「経営品質と企業価値」の向上に結び付いていくのかという関係性です。既に中期経営計画には「CSRの視点」を反映させておられますが、次期中期経営計画では、CSR推進によってどのように企業価値向上を果たすのか、明示されることを期待致します。

株式会社 日本総合研究所

創発戦略センター／ESGリサーチセンター マネジャー 村上 芽

(なお、この意見は、このレポートが、一般に公正妥当と認められる環境報告書等の作成基準に準拠して正確に測定、算定され、かつ重要な事項が漏れなく表示されているかどうかについて判断した結果を表明するものではありません。)

第三者意見を受けて

村上様、社外第三者の視点に立った貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

この度のNORITZ REPORT 2015では、ノーリツグループの創業以来の成長の軌跡と、事業戦略および、Q+ESG(品質+環境・社会・ガバナンス)という視点でどの様に社会に貢献し、企業価値向上に繋げようとしているかを伝えるべく心がけました。村上様にその趣旨を感じとっていただき嬉しく思います。

2014年度の当社の主なCSRの取り組みは、エコ・ファースト企業としての温室効果ガス削減をはじめとした環境活動はもとより、国連グローバル・コンパクト署名企業として社会の要請と期待を積極的に感じとり、企業活動の基礎ともいえるべき当社グループ行動基準の

改定をおこないました。この中では人権対応などグローバル経営に欠かせない基本姿勢を明確にしました。また、コンプライアンス月間を設け、新たな行動基準について従業員が考える機会も持ちました。これらの結果は従業員アンケート調査で確認し、改善を図っていきます。さらに社会への影響が大きい調達面でも、サプライチェーンマネジメントを意識したCSR調達ガイドラインを新たに制定し、開示すると共に社内・社外への働きかけを開始しました。



今後は、ステークホルダーの期待や懸念を反映したCSRの重要課題を特定し、経営品質および企業価値の向上、ひいては社会と当社グループの持続的成長に向けて積極的に取り組んでまいります。

今後これらの活動状況をステークホルダーの皆さまに開示し、コミュニケーションを深めてまいります。

株式会社ノーリツ 取締役兼常務執行役員 小関 良之

企業情報	株主・投資家向け情報	CSRの取り組み	採用情報	製品に関する大切なお知らせ
トップメッセージ 企業理念・ビジョン 企業データ 沿革 企業姿勢・規範 ノーリツグループ行動基準 コーポレート・ガバナンス 調達活動 企業スポーツ活動 ノーリツチャンネル	IRニュース トップメッセージ 個人投資家、株主の皆様へ 経営方針 業績・財務データ IRライブラリー 株主情報 IRイベント 電子公告 よくあるご質問 免責事項	トップメッセージ ノーリツグループのCSR 国連グローバルコンパクト エコ・ファーストの約束 3つの笑顔プロジェクト CSRTボックス 品質 環境 社会 ガバナンス 第三者意見 国際的イニシアティブとの整合 報告書一覧 編集方針	お問い合わせ窓口一覧	製品を安全に、正しくお使いいただくために 長期使用製品に関する制度などについて グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意 その他、製品に関するご連絡、ご注意

サイト内検索

検索

CSRの取り組み

▶ CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRトピックス

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ 編集方針

国際的イニシアティブとの整合

国連グローバル・コンパクト、ISO26000との照合表

国連グローバル・コンパクト	ISO26000	該当ページ
	中核主題 組織統治	トップメッセージ ノーリツグループのCSR 国連グローバル・コンパクト コーポレートガバナンス コンプライアンス リスクマネジメント
人権 原則1 人権擁護の支持と尊重 原則2 人権侵害への非加担	中核主題 人権 課題1 デューディリジェンス 課題2 人権が脅かされる状況 課題3 加担の回避 課題4 苦情解決 課題5 差別および社会的弱者 課題6 市民のおよび政治的権利 課題7 経済的、社会的および文化的権利 課題8 労働における基本的原則および権利	国連グローバル・コンパクト ノーリツグループ行動基準改定 ノーリツグループCSR調達ガイドラインの制定 ノーリツホットライン 人権 雇用に関する基本方針 多様性の尊重(ダイバーシティ) ワークライフバランスを支援する諸制度
労働 原則3 組合結成と団体交渉権の実効化 原則4 強制労働の排除 原則5 児童労働の実効的な排除 原則6 雇用と職業の差別撤廃	中核主題 労働實行 課題1 雇用および雇用関係 課題2 労働条件および社会的保護 課題3 社会対話 課題4 労働における安全衛生 課題5 職場における人材育成および訓練	国連グローバル・コンパクト ノーリツグループ行動基準改定 ノーリツグループCSR調達ガイドラインの制定 安全で健康に配慮した職場をつくる 活力ある人材を育成する 人権 雇用に関する基本方針 多様性の尊重(ダイバーシティ) ワークライフバランスを支援する諸制度 自主性を尊重しキャリア開発や能力を支援する制度 労使の関係
環境 原則7 環境問題の予防的アプローチ 原則8 環境に対する責任のイニシアティブ 原則9 環境にやさしい技術の開発と普及	中核主題 環境 課題1 汚染の予防 課題2 持続可能な資源の利用 課題3 気候変動の緩和および気候変動への適応 課題4	国連グローバル・コンパクト エコ・ファーストの約束 環境経営 製品を通じた環境負荷低減 事業活動を通じた環境負荷低減 生物多様性保全 環境保全活動データ 環境コミュニケーション SDS(安全データシート)

	環境保護, 生物多様性, および自然生息地の回復	家電リサイクルの実績
腐敗防止 原則10 強要・賄賂等の腐敗防止の取組み	中核主題 公正な事業慣行 課題1 汚職防止 課題2 責任ある政治的関与 課題3 公正な競争 課題4 バリューチェーンにおける社会的責任の推進 課題5 財産権の尊重	国連グローバル・コンパクト ノーリツグループ行動基準改定 ノーリツグループCSR調達ガイドラインの制定 コーポレートガバナンス コンプライアンス リスクマネジメント 社会からの期待に応える調達活動 株主さまとの対話
	中核主題 消費者課題 課題1 公正なマーケティング, 事実に則した偏りのない情報, および公正な契約慣行 課題2 消費者の安全衛生の保護 課題3 持続可能な消費 課題4 消費者に対するサービス, 支援, 並びに苦情および紛争の解決 課題5 消費者データ保護およびプライバシー 課題6 必要不可欠なサービスへのアクセス 課題7 教育および意識向上	コンプライアンス 顧客への対応 製品情報の開示 CS活動 品質方針 品質への取り組み 品質向上への取り組み 豊かな暮らしを支える製品とサービスを 提供する
	中核主題 コミュニティへの参画およびコミュニティの発展 課題1 コミュニティへの参画 課題2 教育および文化 課題3 雇用創出および技能開発 課題4 技術の開発および技術へのアクセス 課題5 富および所得の創出 課題6 健康 課題7 社会的投資	地域社会との共生 災害復興支援 社会貢献 グループ会社 グローバル 社会貢献みちのく未来基金 スポーツ

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会

採用情報

[お問い合わせ窓口一覧](#)

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使いいただくために
長期使用製品に関する制度などについて
グループ会社の製品に関するご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、ご注意

CSRの取り組み

CSRの取り組み

▶ トップメッセージ

▶ ノーリツグループのCSR

▶ 国連グローバル・コンパクト

▶ エコ・ファーストの約束

▶ 3つの笑顔プロジェクト

▶ CSRTピックス

▶ Q+ESGについて

▶ 品質

▶ 環境

▶ 社会

▶ ガバナンス

▶ 第三者意見

▶ 国際的イニシアティブとの整合

▶ 報告書一覧

▶ [編集方針](#)

編集方針

対象範囲	報告期間
参考ガイドライン	アンケートについて

ノーリツグループは、社会の要請や期待に本業を通じて貢献することが、私たちの最も重要な社会的責任であると考えています。そして社会課題の解決にはステークホルダーとの対話や協働が非常に重要であると認識し活動しています。

また、CSRの取り組みをすべてのステークホルダーの皆さまにご理解いただけるよう「NORITZ REPORT 2015」(冊子)と、「WEBサイト」で情報を掲載しています。

冊子版(PDF版)では、財務データとともに見えない資産を基本的なESG要素(環境・社会・ガバナンス)に、メーカーとして重要なQ(品質)を加えたカテゴリ「Q+ESG」のキーワードで開示しています。WEBサイトでは、同分類をさらに網羅性のある情報量で開示しております。

対象範囲

株式会社ノーリツおよび、国内外のグループ会社

[ページのTOPへ](#)

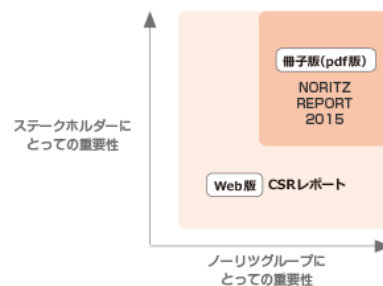
報告期間

数値データに関しては2014年1月1日から2014年12月31日までの情報を掲載しています。記事に関しましては2014年1月1日から2015年3月31日までの取り組みを掲載しています。

[ページのTOPへ](#)

参考ガイドライン

- ・ISO26000
- ・国連グローバル・コンパクト
- ・GRI第4版
- ・環境省「環境報告ガイドライン」2012年版



問い合わせ先

ノーリツグループのCSR経営・CSRの取り組みについて、皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください。今後の企業活動および、情報開示の参考にさせていただきます。

株式会社ノーリツ 管理本部 CSR・環境推進室 CSR推進グループ

Mail: csr@noritz.co.jp

アンケートについて

ノーリツグループのCSR経営・CSR活動について、皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください。今後の企業活動および、情報開示の参考にさせていただきます。

NORITZ REPORT 2015 (冊子) を
ご覧になった方の アンケートはこちら

WEBサイトを
ご覧になった方の アンケートはこちら

企業情報

トップメッセージ
企業理念・ビジョン
企業データ
沿革
企業姿勢・規範
ノーリツグループ行動基準
コーポレート・ガバナンス
調達活動
企業スポーツ活動

ノーリツチャンネル

株主・投資家向け情報

IRニュース
トップメッセージ
個人投資家、株主の皆様へ
経営方針
業績・財務データ
IRライブラリー
株主情報
IRイベント
電子公告
よくあるご質問
免責事項

CSRの取り組み

トップメッセージ
ノーリツグループのCSR
国連グローバルコンパクト
エコ・ファーストの約束
3つの笑顔プロジェクト
CSRトピックス
品質
環境
社会
ガバナンス
第三者意見
国際的イニシアティブとの整合
報告書一覧
編集方針

採用情報

お問い合わせ窓口一覧

製品に関する大切なお知らせ

製品を安全に、正しくお使い
いただくために
長期使用製品に関する制度
などについて
グループ会社の製品に関する
ご連絡、ご注意
その他、製品に関するご連絡、
ご注意

サイト内検索

検索